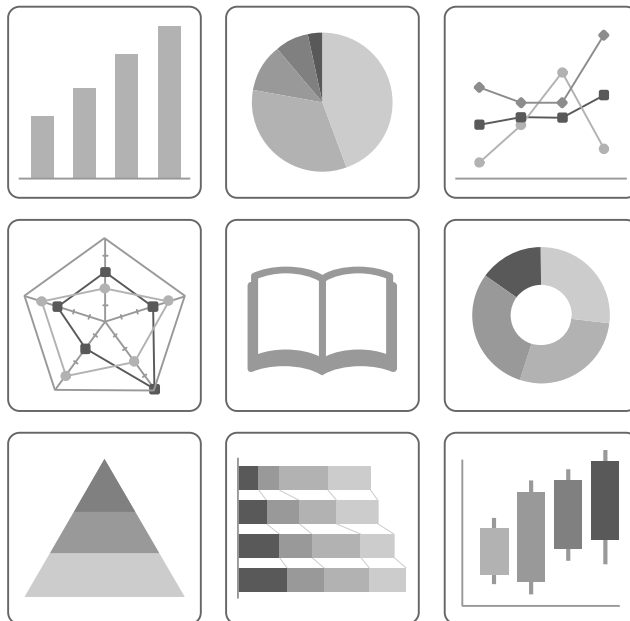


さいたま市
地域福祉に関する意識調査
調査結果報告書



令和4年3月

さいたま市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
II	調査結果	3
1	市民	3
	(1) 回答者属性	3
	(2) 地域や近所との関わりについて	7
	(3) 地域福祉に対する考えについて	14
	(4) ボランティア活動について	18
	(5) 相談支援・福祉サービスに対する意識について	25
	(6) 社会福祉協議会について	33
	(7) 生活困窮者自立支援制度について	38
	(8) ひきこもりについて	40
	(9) ケアラーについて	43
	(10) 成年後見制度について	45
	(11) 今後の地域福祉のあり方について	47
2	地域福祉団体	50
	(1) 「身近な地域」について	50
	(2) 日ごろの活動・業務について	51
	(3) 社会福祉協議会について	66
	(4) 地域の生活課題について	70
	(5) ケアラーについて	73
	(6) 今後の地域福祉について	76
III	調査からみる課題のまとめ	81
IV	調査票	83

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、保健福祉総合計画（地域福祉計画）の見直しにあたり、「地域福祉」に対する考え方や意見を伺い、計画策定の資料とし、地域福祉施策の推進に役立たせるために実施したものです。

2 調査対象

市民 : さいたま市在住の18歳以上の方から無作為抽出

地域福祉団体 : 地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、地域包括支援センター、障害者生活支援センター、さいたま市が所管する社会福祉法人

3 調査期間

令和3年10月7日から令和3年10月25日まで


4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

調査対象	配布数	有効回答数	有効回答率
市民	7,000通	2,780通	39.7%
地域福祉団体	264通	222通	84.1%
地区社会福祉協議会	52通	49通	94.2%
地区民生委員児童委員協議会	49通	44通	89.8%
地域包括支援センター	27通	25通	92.6%
障害者生活支援センター	15通	10通	66.7%
社会福祉法人	121通	93通	76.9%

6 調査結果の表示方法

- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- 回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

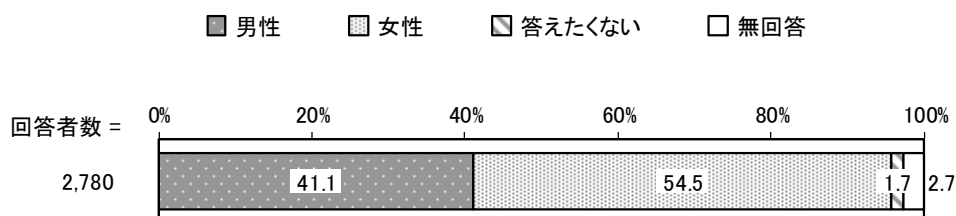
II 調査結果

1 市民

(1) 回答者属性

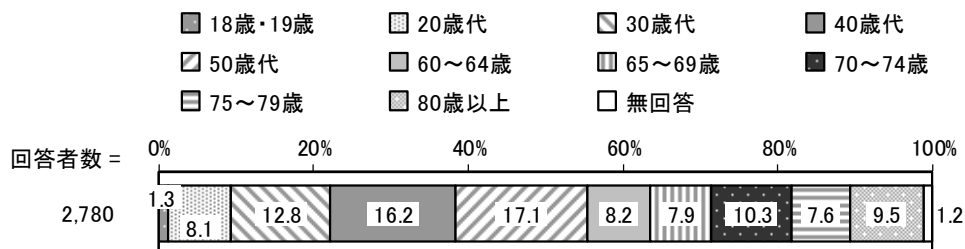
あなたが思う性別はどちらですか。【〇は1つだけ】

「女性」の割合が54.5%と最も高く、次いで「男性」の割合が41.1%となっています。



あなたの年齢はおいくつですか。(令和3年9月1日現在)【〇は1つだけ】

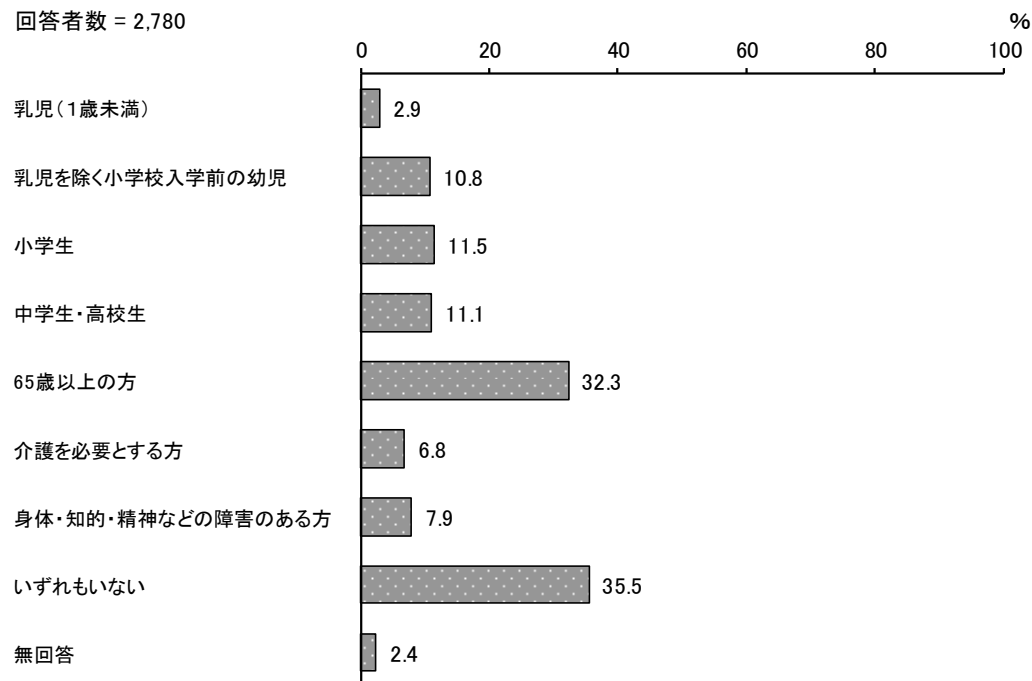
「50歳代」の割合が17.1%と最も高く、次いで「40歳代」の割合が16.2%、「30歳代」の割合が12.8%となっています。



現在、あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次のような方はいますか？【〇はあてはまるものすべて】

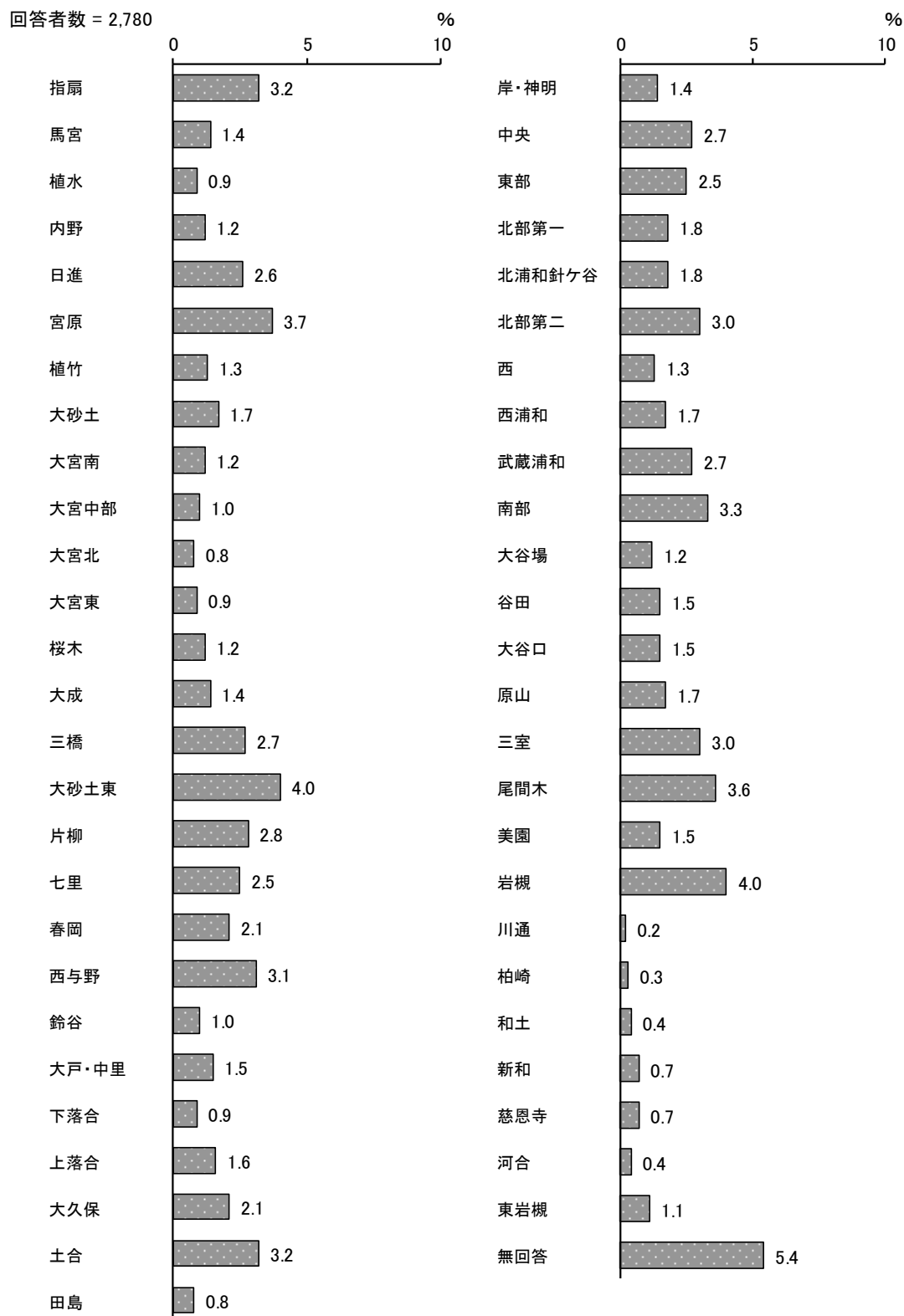
「いずれもない」の割合が35.5%と最も高く、次いで「65歳以上の方」の割合が32.3%、「小学生」の割合が11.5%となっています。

回答者数 = 2,780



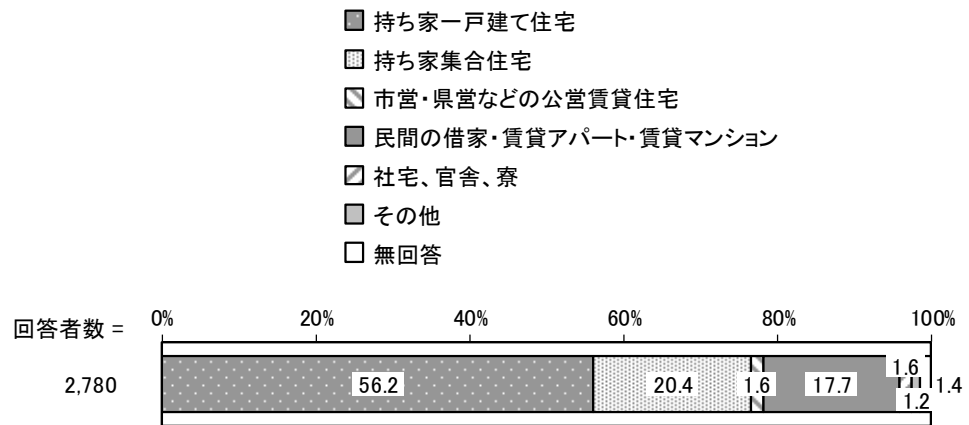
あなたは、現在どちらの「地区社会福祉協議会」（問 1 参照）の地域にお住まいですか。
「調査ご協力をお願い」の裏面に記載している「52 地区社会福祉協議会の該当地域一覧表」をご覧ください。該当する地区社会福祉協議会の番号を下の口のなかにご記入ください。

居住地域の回答は以下の通りとなっています。



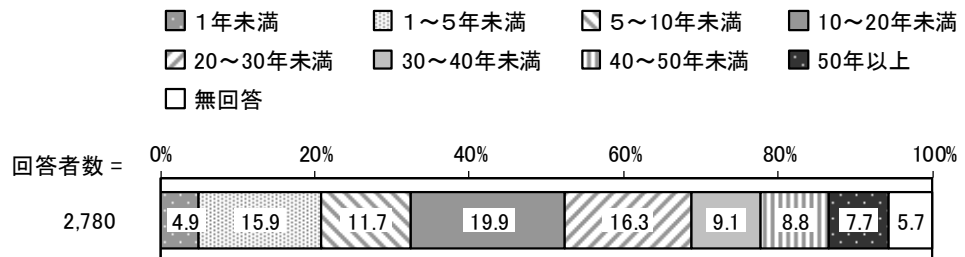
現在のお住まいは、以下のどれに当てはまりますか。【○は1つだけ】

「持ち家一戸建て住宅」の割合が56.2%と最も高く、次いで「持ち家集合住宅」の割合が20.4%、「民間の借家・賃貸アパート・賃貸マンション」の割合が17.7%となっています。



現在お住まいの住所に、何年住んでいますか。【○は1つだけ】

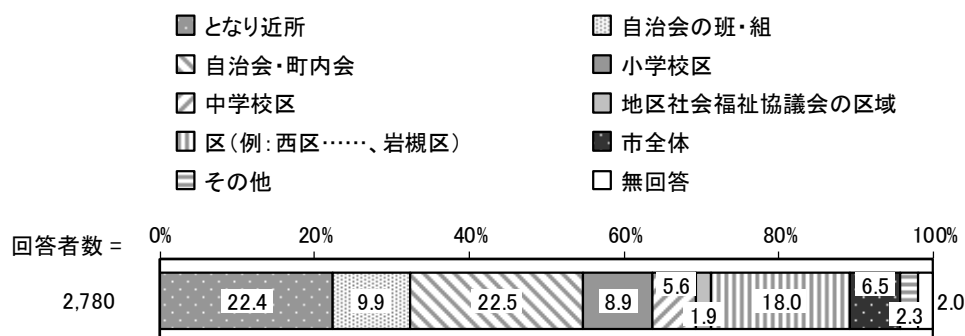
「10～20年未満」の割合が19.9%と最も高く、次いで「20～30年未満」の割合が16.3%、「1～5年未満」の割合が15.9%となっています。



(2) 地域や近所との関わりについて

問1 あなたにとって「身近な地域」とは、どういった範囲のことだと思いますか。あなたの感じる「身近な地域」の範囲に近いものを選んでください。
【〇は1つだけ】

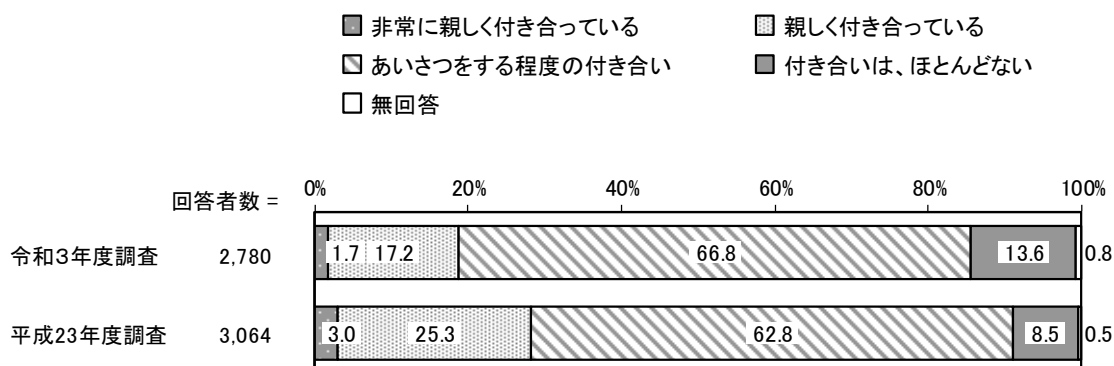
「自治会・町内会」の割合が22.5%と最も高く、次いで「となり近所」の割合が22.4%、「区（例：西区……、岩槻区）」の割合が18.0%となっています。



問2 あなたは、近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。【〇は1つだけ】

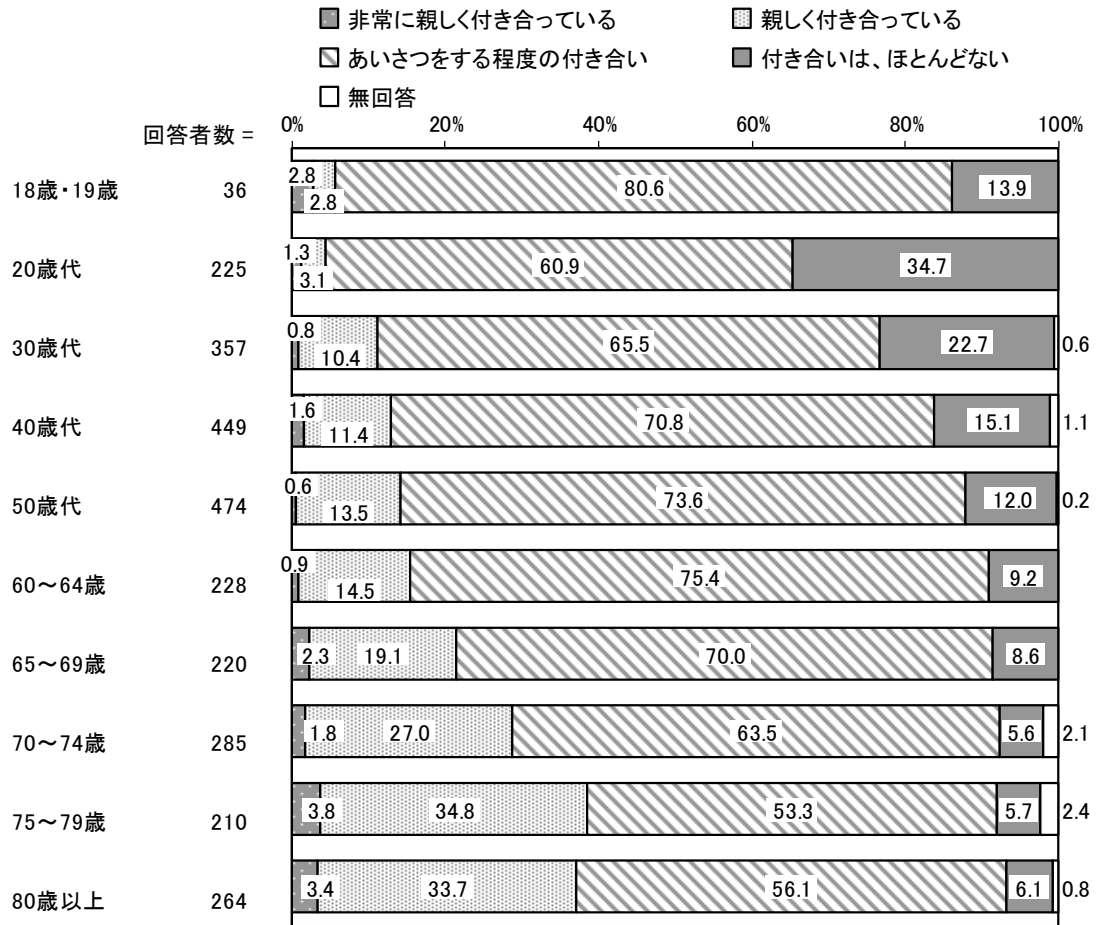
「あいさつをする程度の付き合い」の割合が66.8%と最も高く、次いで「親しく付き合っている」の割合が17.2%、「付き合いは、ほとんどない」の割合が13.6%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「付き合いは、ほとんどない」の割合が増加しています。一方、「親しく付き合っている」の割合が減少しています。



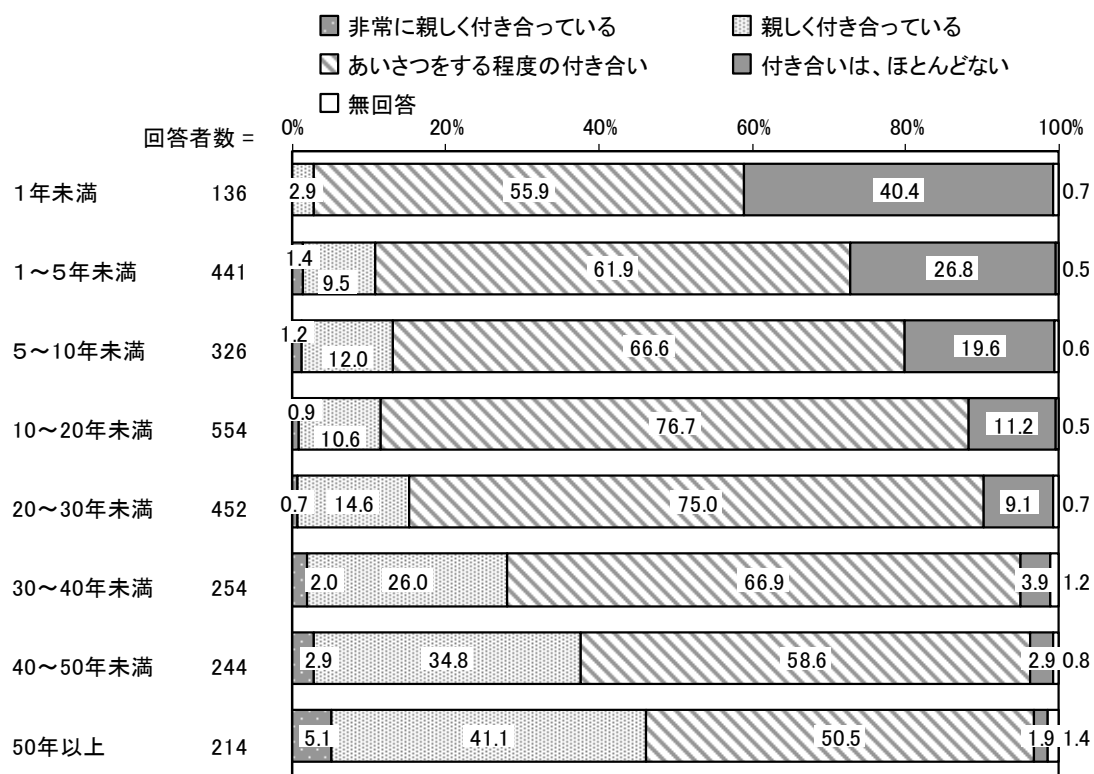
【年齢別】

年齢別で見ると、他に比べ、75～79歳、80歳以上で「親しく付き合っている」の割合が、20歳代で「付き合いは、ほとんどない」の割合が高くなっています。



【居住年数別】

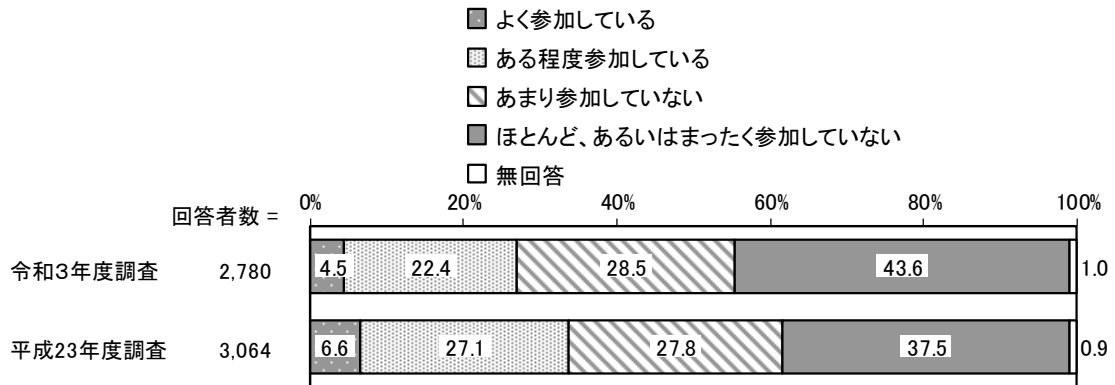
居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれ「親しく付き合っている」の割合が高くなる傾向がみられます。また、居住年数が少ないほど「付き合いは、ほとんどない」の割合が高くなる傾向がみられます。



問3 あなたは、自治会・町内会活動などの活動にどの程度参加していますか。
【〇は1つだけ】

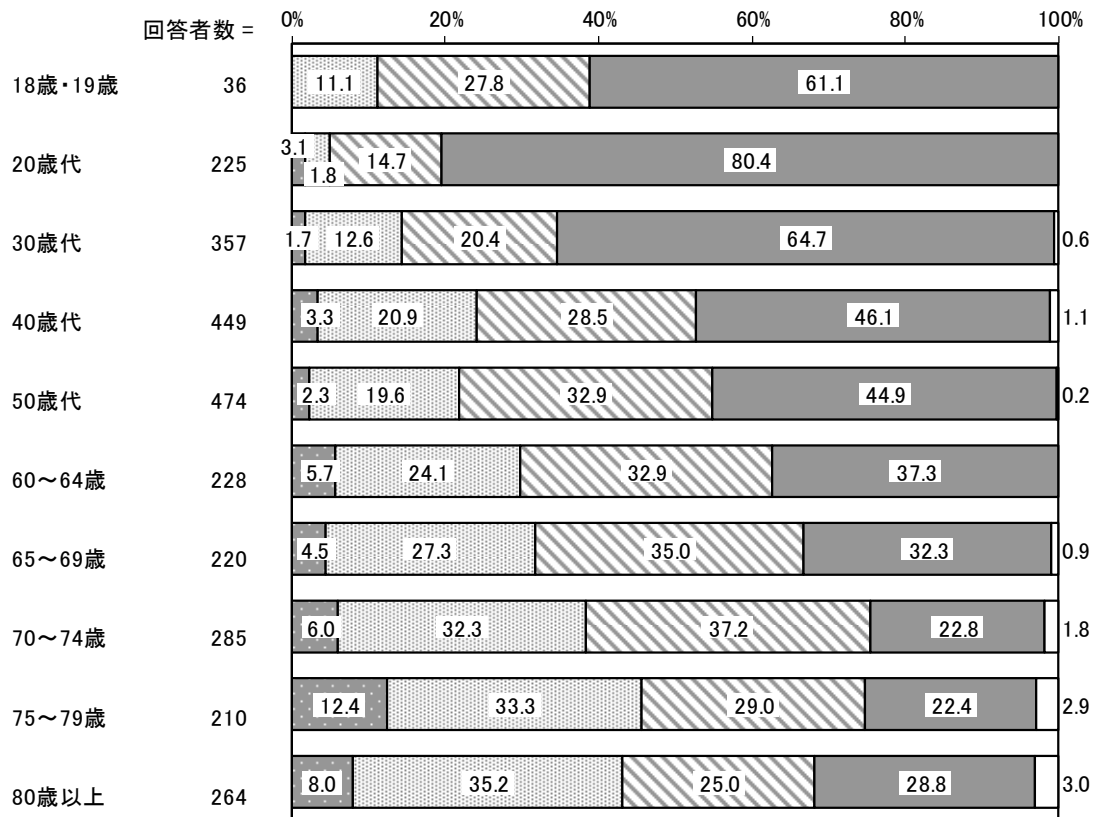
「よく参加している」と「ある程度参加している」をあわせた“参加している”の割合が26.9%、「あまり参加していない」と「ほとんど、あるいはまったく参加していない」をあわせた“参加していない”の割合が72.1%となっています。

平成23年度調査と比較すると、“参加していない”の割合が増加しています。



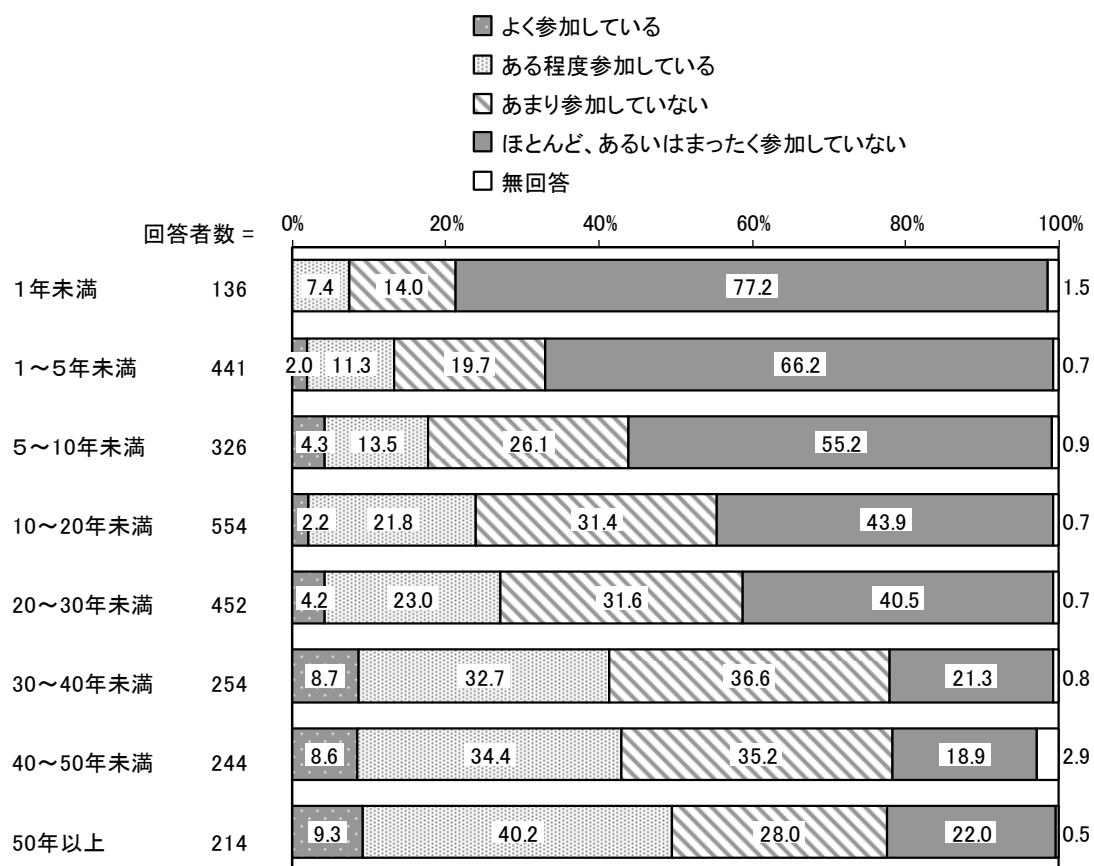
【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70～74歳、75～79歳、80歳以上で“参加している”の割合が高くなっています。また、20歳代で“参加していない”の割合が高くなっています。



【居住年数別】

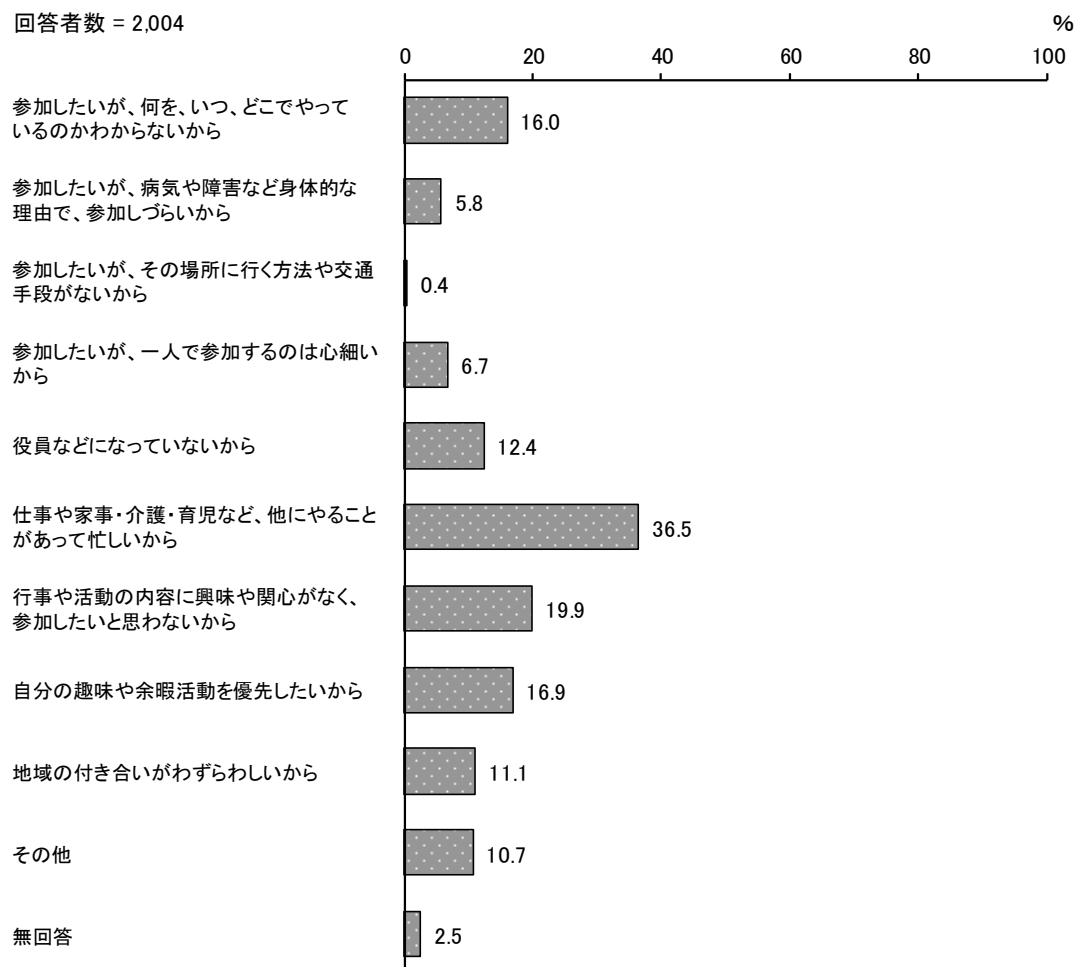
居住年数別で見ると、他に比べ、30～40年未満、40～50年未満、50年以上で“参加している”の割合が高くなっています。また、居住年数が少ないほど“参加していない”の割合が高くなる傾向がみられます。



問4 問3で「あまり参加していない」または「ほとんど、あるいはまったく参加していない」に○をつけた方にお伺いします。自治会・町内会活動などの活動に参加していない主な理由は何ですか。【○は2つまで】

「仕事や家事・介護・育児など、他にやることがあって忙しいから」の割合が36.5%と最も高く、次いで「行事や活動の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから」の割合が19.9%、「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」の割合が16.9%となっています。

回答者数 = 2,004



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、80歳以上で「参加したいが、病気や障害など身体的な理由で、参加しづらいから」の割合が、18歳・19歳で「参加したいが、一人で参加するのは心細いから」「行事や活動の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから」の割合が高くなっています。

単位：%

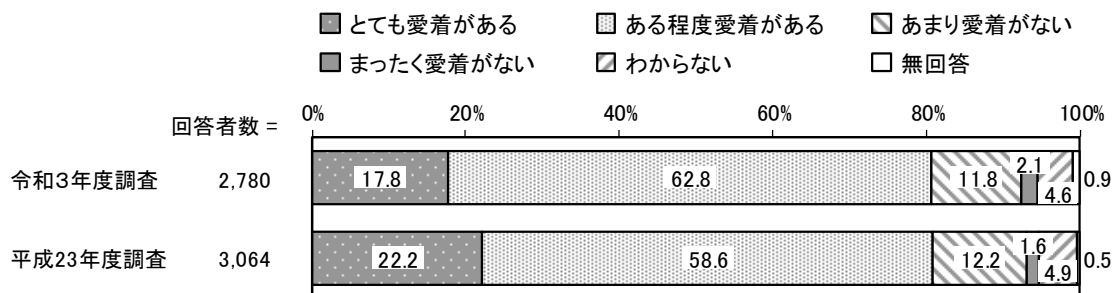
区分	回答者数(件)	参加したいが、何を、いつ、どこでやっているのかわからないから	参加したいが、病気や障害など身体的な理由で、参加しづらいから	参加したいが、その場所に行く方法や交通手段がないから	参加したいが、一人で参加するのは心細いから	役員などになっていないから	仕事や家事・介護・育児など、他にやることであって忙しいから	行事や活動の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	地域の付き合いがわずらわしいから	その他	無回答
18歳・19歳	32	15.6	—	—	15.6	12.5	25.0	28.1	18.8	—	18.8	—
20歳代	214	19.6	1.4	—	4.7	7.9	35.5	25.7	25.7	6.1	7.5	0.9
30歳代	304	20.7	0.7	—	4.3	6.9	49.0	22.0	12.5	8.9	13.2	1.3
40歳代	335	17.9	1.5	—	4.5	10.4	51.3	15.2	11.9	11.6	13.4	2.1
50歳代	369	12.5	1.6	—	5.1	19.0	42.3	22.5	17.3	12.7	8.7	1.6
60～64歳	160	18.8	1.9	—	7.5	15.0	35.0	20.0	20.0	13.1	9.4	2.5
65～69歳	148	14.9	4.1	—	9.5	18.2	27.0	17.6	23.0	18.9	5.4	4.1
70～74歳	171	13.5	11.7	1.8	11.7	14.0	22.8	19.3	20.5	12.3	9.4	3.5
75～79歳	108	11.1	15.7	0.9	9.3	11.1	14.8	19.4	13.9	16.7	10.2	5.6
80歳以上	142	10.6	37.3	2.8	10.6	5.6	7.0	12.0	12.7	4.9	16.9	6.3

(3) 地域福祉に対する考えについて

問5 あなたは、お住まいの地域に愛着をお持ちですか。【〇は1つだけ】

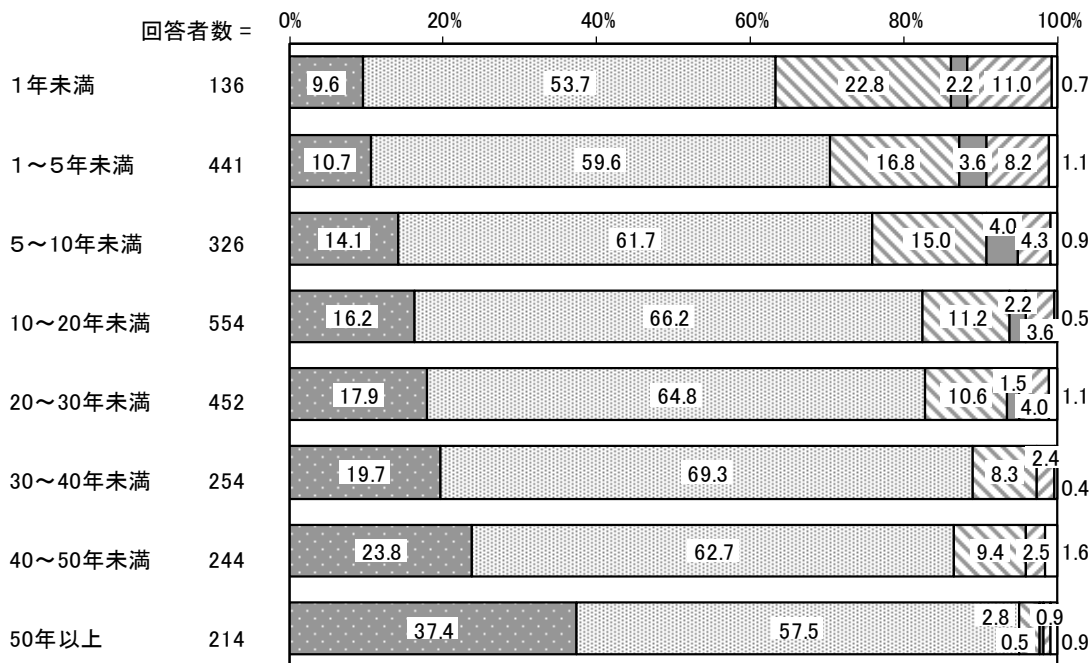
「とても愛着がある」と「ある程度愛着がある」をあわせた“愛着がある”の割合が 80.6%、「あまり愛着がない」と「まったく愛着がない」をあわせた“愛着がない”の割合が 13.9%となっています。

平成 23 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【居住年数別】

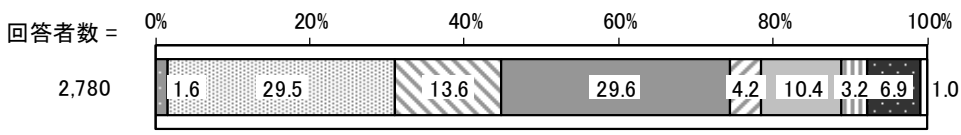
居住年数別でみると、他に比べ、50年以上で“愛着がある”の割合が高くなっています。また、居住年数が少ないほど「愛着がない」の割合が高くなる傾向がみられます。



問6 近所に住んでいる、何らかの支援を必要としている方（一人暮らしの高齢者、介護をしている家族、子育て中の家族等）への支援（日常生活上の手助け・お手伝い）について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。【○は1つだけ】

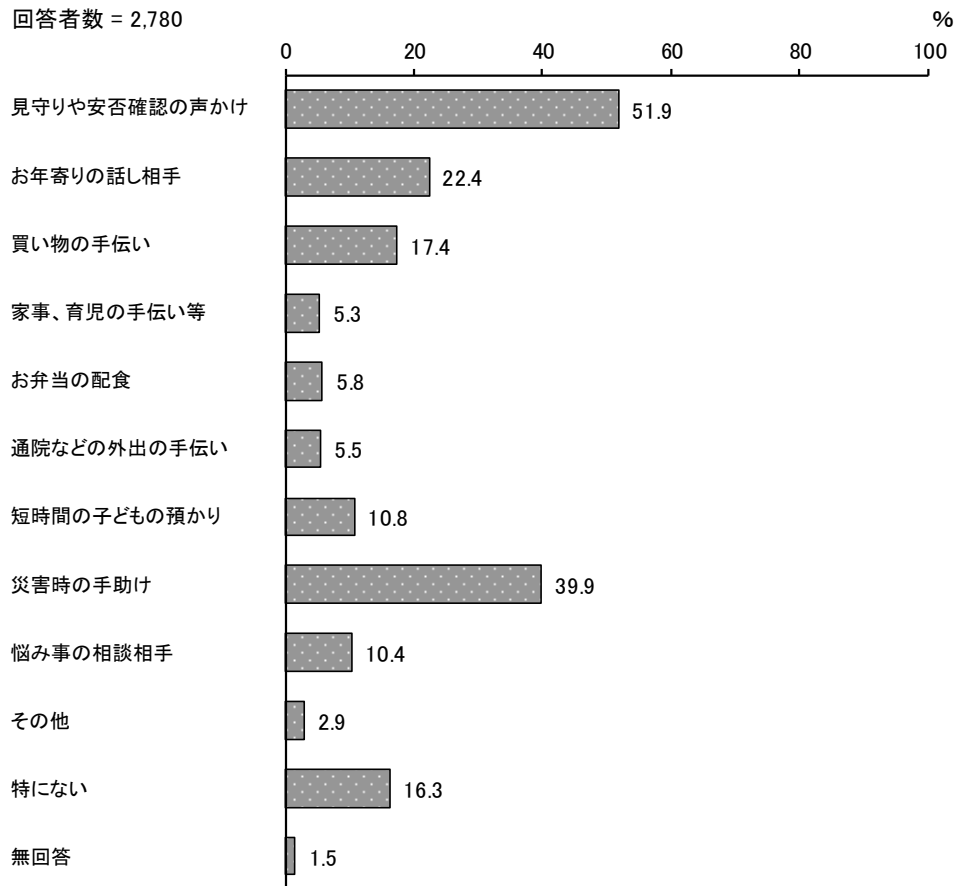
「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」の割合が29.6%と最も高く、次いで「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」の割合が29.5%、「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」の割合が13.6%となっています。

- 近所に住む者として、積極的に支援したい
- 近所に住む者として、できる範囲で支援したい
- 支援をしたいが、何をすればいいのかわからない
- 支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない
- 支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい
- 余計なお世話になってしまうので、支援はしない
- その他
- わからない
- 無回答



問7 隣近所に、介護や、子育て等で困っている方がいた場合、あなたはどのような手助けができますか。【〇はあてはまるものすべて】

「見守りや安否確認の声かけ」の割合が51.9%と最も高く、次いで「災害時の手助け」の割合が39.9%、「お年寄りの話し相手」の割合が22.4%となっています。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、18歳・19歳で「お年寄りの話し相手」「買い物の手伝い」「家事、育児の手伝い等」「お弁当の配食」の割合が、65～69歳で「通院などの外出の手伝い」の割合が高くなっています。また、30歳代で「悩み事の相談相手」の割合が高くなっています。

単位：％

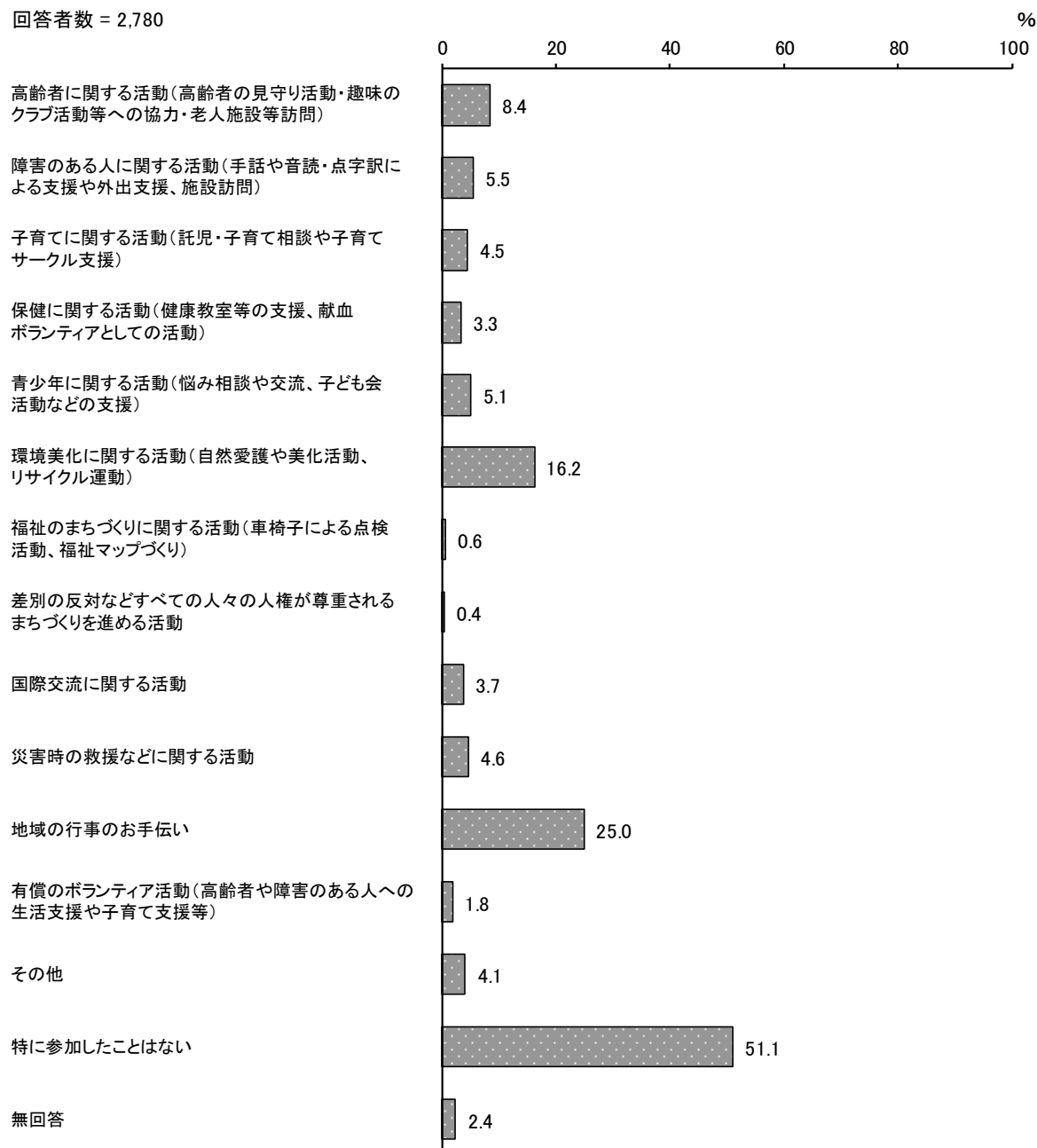
区分	回答者数 (件)	見守りや 安否確認 の声かけ	お年寄りの 話し相手	買い物の 手伝い	家事、 育児の 手伝い 等	お弁当の 配食	通院など の外出の 手伝い	短時間 の子ども の預かり	災害時 の手助け	悩み事 の相談 相手	その他	特 に な い	無 回 答
18歳・19歳	36	44.4	27.8	27.8	11.1	13.9	5.6	16.7	38.9	5.6	—	11.1	—
20歳代	225	45.3	24.0	16.4	5.3	3.6	2.7	12.9	40.0	13.3	0.9	22.2	—
30歳代	357	48.2	25.5	16.0	9.2	5.6	3.1	18.2	44.8	15.4	0.3	14.8	1.1
40歳代	449	52.8	19.8	20.3	6.2	5.8	4.5	14.9	48.3	12.0	2.2	13.8	1.8
50歳代	474	55.7	18.4	20.0	4.9	7.4	7.8	9.5	47.9	9.3	2.7	15.0	0.6
60～64歳	228	58.3	19.3	20.2	5.7	8.3	7.5	8.8	48.7	9.6	0.9	13.6	0.4
65～69歳	220	58.6	21.8	22.3	7.3	7.7	10.0	11.4	36.8	5.9	1.8	16.4	0.9
70～74歳	285	56.1	24.9	19.3	3.2	6.7	6.7	7.4	34.7	9.5	3.2	12.6	1.8
75～79歳	210	51.0	26.7	9.5	2.4	2.9	4.8	4.8	29.0	7.1	5.7	18.1	3.3
80歳以上	264	40.9	25.0	7.2	0.8	2.3	2.7	3.4	14.8	9.5	9.8	25.8	3.4

(4) ボランティア活動について

問8 あなたは、これまでにどのようなボランティア活動に参加したことがありますか。【〇はあてはまるものすべて】

「特に参加したことはない」の割合が51.1%と最も高く、次いで「地域の行事のお手伝い」の割合が25.0%、「環境美化に関する活動(自然愛護や美化活動、リサイクル運動)」の割合が16.2%となっています。

回答者数 = 2,780



【年齢別】

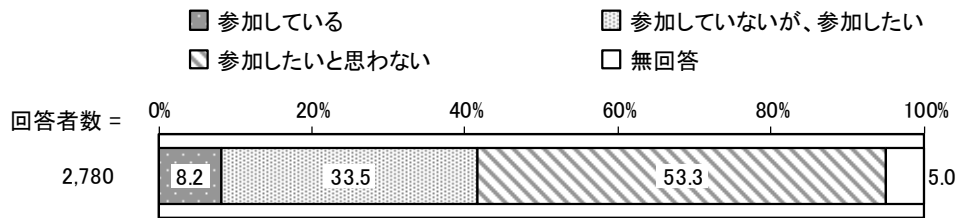
年齢別で見ると、他に比べ、75～79歳で「高齢者に関する活動（高齢者の見守り活動・趣味のクラブ活動等への協力・老人施設等訪問）」の割合が、18歳・19歳で「環境美化に関する活動（自然愛護や美化活動、リサイクル運動）」「国際交流に関する活動」の割合が高くなっています。また、65～69歳で「地域の行事のお手伝い」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	高齢者に関する活動（高齢者の見守り活動・趣味のクラブ活動等への協力・老人施設等訪問）	障害のある人に関する活動（手話や音読・点字訳による支援や外出支援、施設訪問）	子育てに関する活動（託児・子育て相談や子育てサークル支援）	ボランティアとしての活動	保健に関する活動（健康教室等の支援、献血ボランテニアとしての活動）	青少年に関する活動（悩み相談や交流、子ども会活動などの支援）	環境美化に関する活動（自然愛護や美化活動、リサイクル運動）	福祉のまちづくりに関する活動（車椅子による点検活動、福祉マップづくり）	差別の反対などすべての人々の人権が尊重されるまちづくりを進める活動	国際交流に関する活動	災害時の救援などに関する活動	地域の行事のお手伝い	有償のボランティア活動（高齢者や障害のある人への生活支援や子育て支援等）	その他	特に参加したことはない	無回答
18歳・19歳	36	11.1	2.8	2.8	8.3	2.8	38.9	2.8	—	13.9	—	22.2	—	2.8	27.8	—	
20歳代	225	12.0	9.3	8.4	6.2	4.0	23.6	1.8	1.3	7.1	3.1	9.8	2.7	4.4	49.8	0.9	
30歳代	357	7.8	9.0	5.3	4.8	1.7	17.6	0.6	—	4.8	3.6	12.9	1.4	3.6	59.7	0.3	
40歳代	449	6.9	8.0	4.9	1.8	8.5	14.7	0.4	0.2	3.8	4.5	19.6	2.0	4.5	53.2	1.3	
50歳代	474	3.6	4.6	4.9	3.8	7.4	11.2	0.2	0.2	3.4	3.4	27.2	2.1	3.0	53.8	3.2	
60～64歳	228	4.8	2.2	4.4	3.1	3.9	17.5	0.4	1.3	3.1	5.7	28.1	0.9	5.3	50.4	0.9	
65～69歳	220	4.5	3.2	2.3	1.4	5.5	23.6	0.5	—	1.8	5.9	38.2	1.4	5.5	44.1	1.4	
70～74歳	285	12.6	2.1	3.5	2.1	3.5	14.7	—	—	2.1	4.9	33.7	1.4	4.2	48.1	3.2	
75～79歳	210	17.6	5.2	4.8	2.4	6.7	14.8	1.4	0.5	4.3	8.6	32.9	3.3	3.8	42.4	3.3	
80歳以上	264	12.1	4.5	2.3	3.8	2.7	12.9	1.1	0.8	1.9	5.7	30.7	1.1	3.4	52.3	6.8	

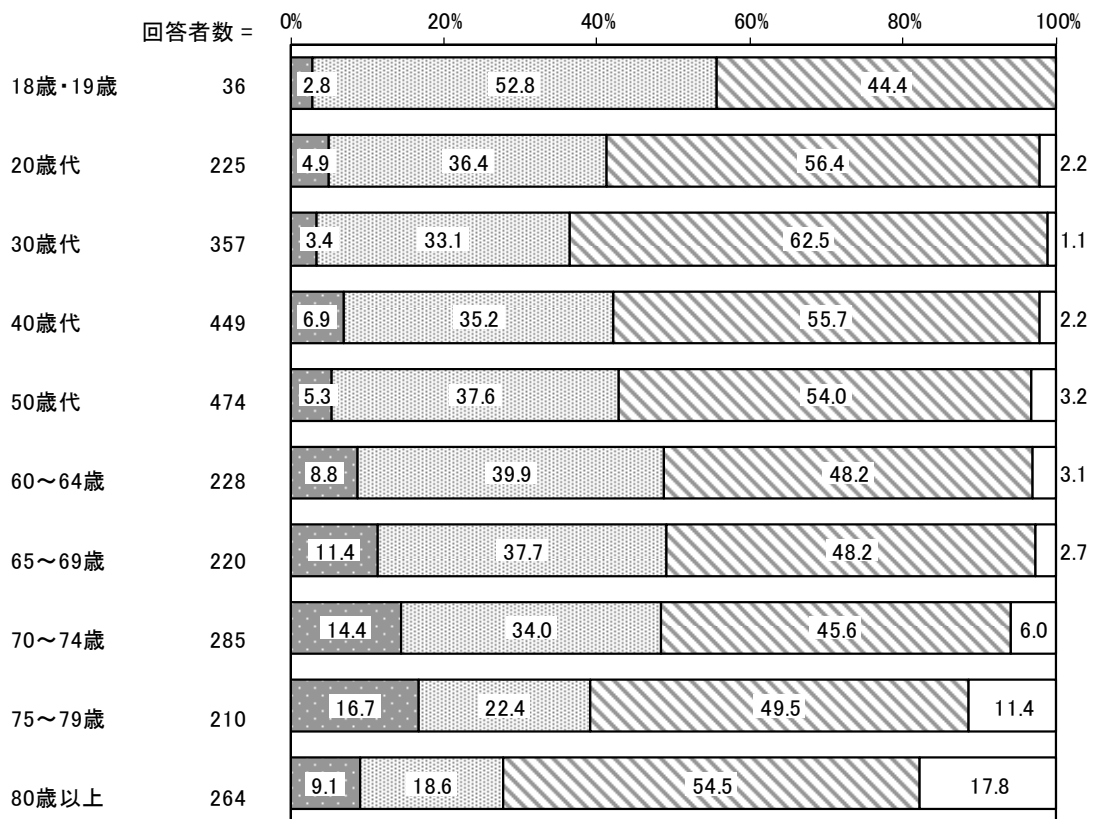
問9 あなたは、現在、ボランティア活動に参加していますか。【〇は1つだけ】

「参加したいと思わない」の割合が53.3%と最も高く、次いで「参加していないが、参加したい」の割合が33.5%となっています。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70～74歳、75～79歳で「参加している」の割合が、18歳・19歳で「参加していないが、参加したい」の割合が高くなっています。



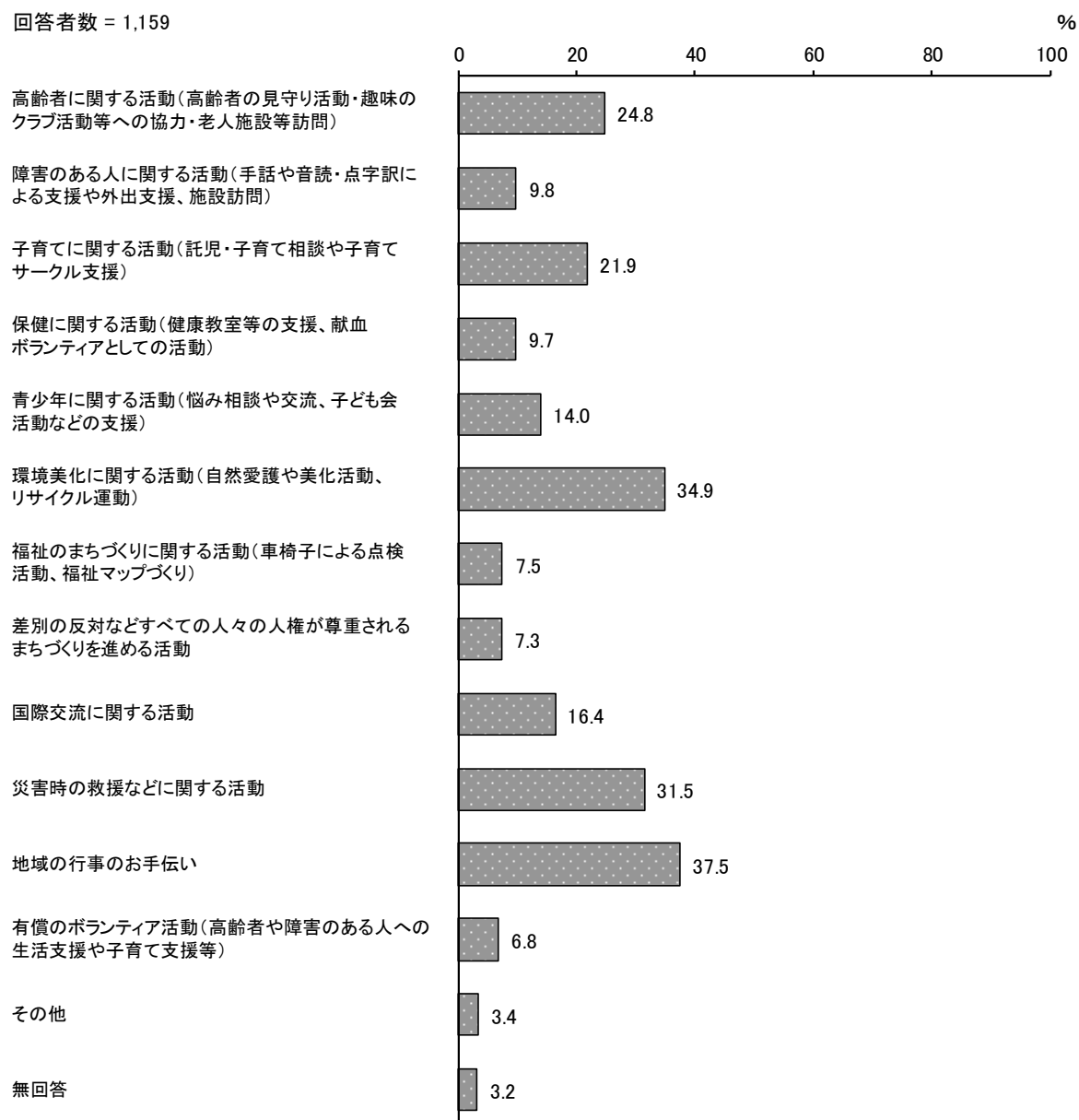
問 10 問 9で「参加している」または「参加していないが、参加したい」に○をつけた方にお伺いします。

あなたは、今後、どのようなボランティア活動に参加したいですか。

【○はあてはまるものすべて】

「地域の行事のお手伝い」の割合が 37.5%と最も高く、次いで「環境美化に関する活動（自然愛護や美化活動、リサイクル運動）」の割合が 34.9%、「災害時の救援などに関する活動」の割合が 31.5%となっています。

回答者数 = 1,159



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、75～79歳、80歳以上で「高齢者に関する活動（高齢者の見守り活動・趣味のクラブ活動等への協力・老人施設等訪問）」の割合が、30歳代で「子育てに関する活動（託児・子育て相談や子育てサークル支援）」の割合が高くなっています。また、20歳代で「環境美化に関する活動（自然愛護や美化活動、リサイクル運動）」の割合が高くなっています。

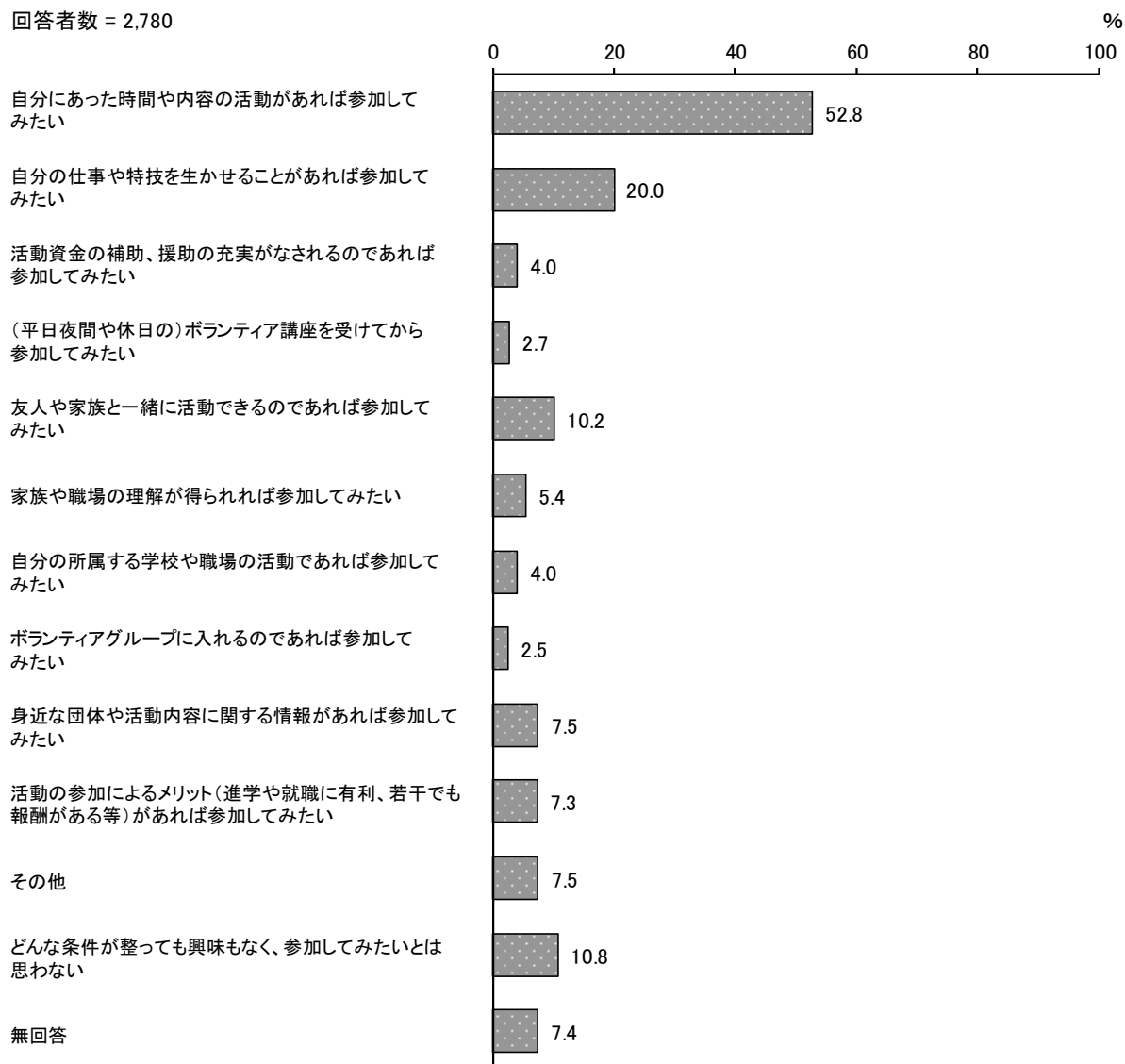
単位：％

区分	回答者数(件)	高齢者に関する活動(高齢者の見守り活動・趣味のクラブ活動等への協力・老人施設等訪問)	障害のある人に関する活動(手話や音読・点字訳による支援や外出支援、施設訪問)	子育てに関する活動(託児・子育て相談や子育てサークル支援)	保健に関する活動(健康教室等の支援、献血ボランティアとしての活動)	青少年に関する活動(悩み相談や交流、子ども会活動などの支援)	環境美化に関する活動(自然愛護や美化活動、リサイクル運動)	点検活動、福祉マップづくり)	福祉のまちづくりに関する活動(車椅子による点検活動、福祉マップづくり)	差別の反対などすべての人々の人権が尊重されるまちづくりを進める活動	国際交流に関する活動	災害時の救援などに関する活動	地域の行事のお手伝い	有償のボランティア活動(高齢者や障害のある人への生活支援や子育て支援等)	その他	無回答
18歳・19歳	20	10.0	10.0	35.0	—	25.0	30.0	10.0	10.0	40.0	20.0	25.0	10.0	—	—	
20歳代	93	15.1	14.0	28.0	12.9	28.0	40.9	9.7	8.6	28.0	26.9	32.3	12.9	2.2	—	
30歳代	130	23.1	14.6	40.8	13.1	17.7	33.1	14.6	7.7	18.5	28.5	32.3	8.5	5.4	0.8	
40歳代	189	14.8	11.6	28.6	8.5	18.5	30.7	5.8	6.3	22.2	29.1	28.6	6.3	3.2	1.6	
50歳代	203	24.1	10.8	20.7	15.8	11.3	31.0	7.9	5.9	15.8	40.4	33.0	8.9	3.4	3.4	
60～64歳	111	28.8	10.8	21.6	9.0	14.4	34.2	8.1	10.8	18.0	39.6	36.9	8.1	5.4	2.7	
65～69歳	108	26.9	6.5	15.7	6.5	13.0	44.4	7.4	8.3	13.9	32.4	46.3	6.5	2.8	2.8	
70～74歳	138	29.0	4.3	12.3	6.5	7.2	37.7	4.3	8.0	6.5	27.5	43.5	2.2	2.2	4.3	
75～79歳	82	39.0	6.1	8.5	4.9	4.9	32.9	3.7	6.1	4.9	29.3	51.2	2.4	2.4	11.0	
80歳以上	73	39.7	6.8	8.2	4.1	6.8	38.4	5.5	4.1	11.0	21.9	52.1	1.4	2.7	4.1	

問 11 どのような条件を整えばボランティア活動に参加してみたいと思いますか。
【〇は2つまで】

「自分にあった時間や内容の活動があれば参加してみたい」の割合が 52.8%と最も高く、次いで「自分の仕事や特技を生かせることがあれば参加してみたい」の割合が 20.0%、「どんな条件が整っても興味もなく、参加してみたいとは思わない」の割合が 10.8%となっています。

回答者数 = 2,780



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60～64歳で「自分にあった時間や内容の活動があれば参加してみたい」の割合が、20歳代で「友人や家族と一緒に活動できるのであれば参加してみたい」の割合が高くなっています。また、18歳・19歳で「活動の参加によるメリット（進学や就職に有利、若干でも報酬がある等）があれば参加してみたい」の割合が高くなっています。

単位：％

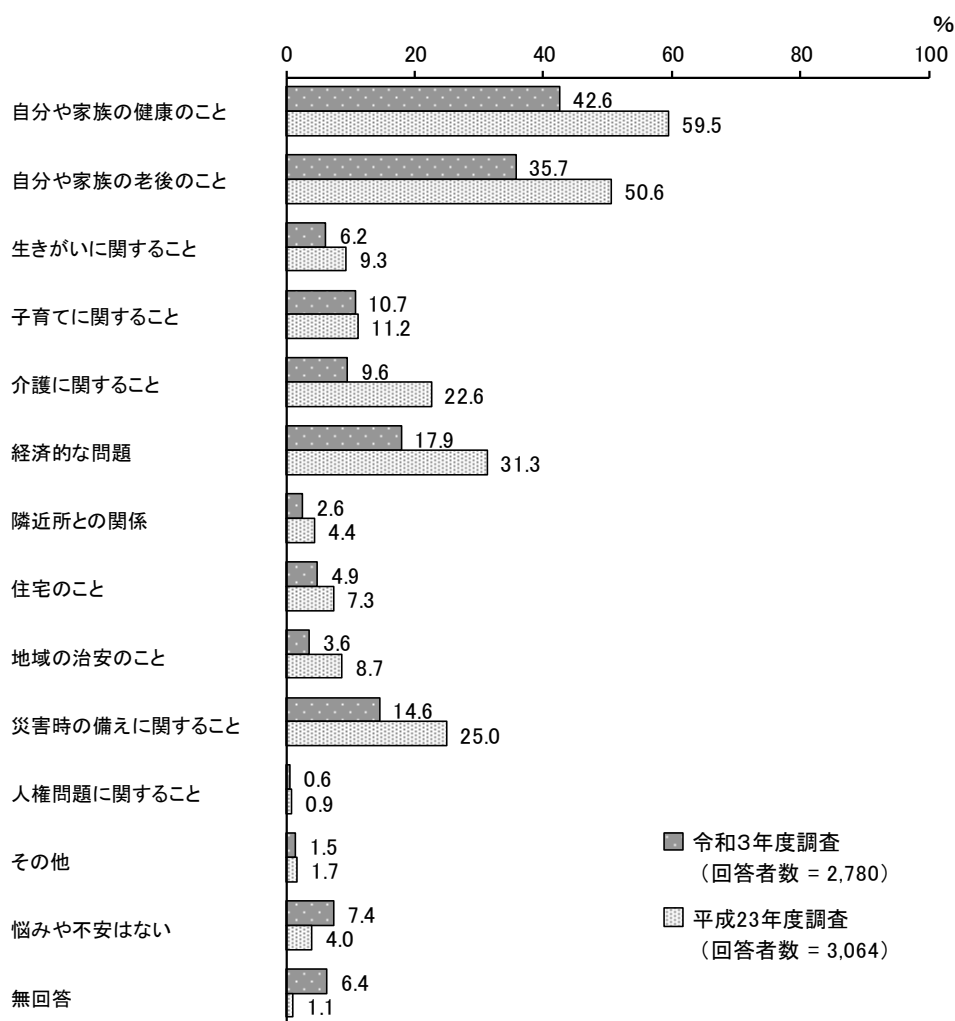
区分	回答者数（件）	自分にあつた時間や内容の活動があれば参加してみたい	自分の仕事や特技を生かせることがあれば参加してみたい	活動資金の補助、援助の充実がなされるのであれば参加してみたい	（平日夜間や休日の）ボランティア講座を受けてから参加してみたい	友人や家族と一緒に活動できるのであれば参加してみたい	家族や職場の理解が得られれば参加してみたい	自分の所属する学校や職場の活動であれば参加してみたい	ボランティアグループに入れるのであれば参加してみたい	身近な団体や活動内容に関する情報があれば参加してみたい	活動の参加によるメリット（進学や就職に有利、若干でも報酬がある等）があれば参加してみたい	その他	どんな条件が整っても興味もなく、参加してみたいとは思わない	無回答
18歳・19歳	36	55.6	22.2	8.3	—	8.3	—	8.3	5.6	8.3	36.1	—	5.6	2.8
20歳代	225	55.6	16.4	9.3	1.3	16.0	3.6	6.2	1.8	4.4	19.6	2.7	9.8	5.8
30歳代	357	53.8	22.1	6.7	1.1	11.8	6.2	7.6	1.4	5.3	14.3	5.6	10.4	3.4
40歳代	449	57.7	22.3	5.1	3.1	11.1	7.1	7.6	1.8	5.3	8.2	4.9	7.8	4.2
50歳代	474	56.3	20.7	3.8	3.4	7.2	6.8	3.8	2.5	7.2	7.0	5.3	10.8	7.2
60～64歳	228	62.7	24.1	1.8	3.9	10.1	6.1	2.6	2.2	10.1	3.5	3.5	10.5	4.8
65～69歳	220	57.3	25.0	3.2	5.0	7.3	5.0	0.9	4.1	11.4	1.8	7.3	13.2	5.9
70～74歳	285	53.7	18.6	1.4	3.9	7.7	3.9	0.7	4.6	13.0	1.1	9.1	11.6	9.5
75～79歳	210	39.0	16.2	1.0	1.4	11.4	4.3	1.4	3.3	11.9	1.4	11.9	11.4	13.8
80歳以上	264	32.2	13.3	1.1	1.1	11.0	3.4	0.4	1.5	3.4	1.1	22.0	15.5	15.5

(5) 相談支援・福祉サービスに対する意識について

問12 あなたは、日々の生活において、主にどのような悩みや不安を感じていますか。
【〇は2つまで】

「自分や家族の健康のこと」の割合が42.6%と最も高く、次いで「自分や家族の老後のこと」の割合が35.7%、「経済的な問題」の割合が17.9%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「自分や家族の健康のこと」「自分や家族の老後のこと」「介護に関すること」「経済的な問題」「地域の治安のこと」「災害時の備えに関すること」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別で見ると、他に比べ、75～79歳で「自分や家族の健康のこと」の割合が、50歳代、60～64歳で「自分や家族の老後のこと」の割合が高くなっています。また、18歳・19歳で「生きがいに関すること」の割合が高くなっています。

単位：％

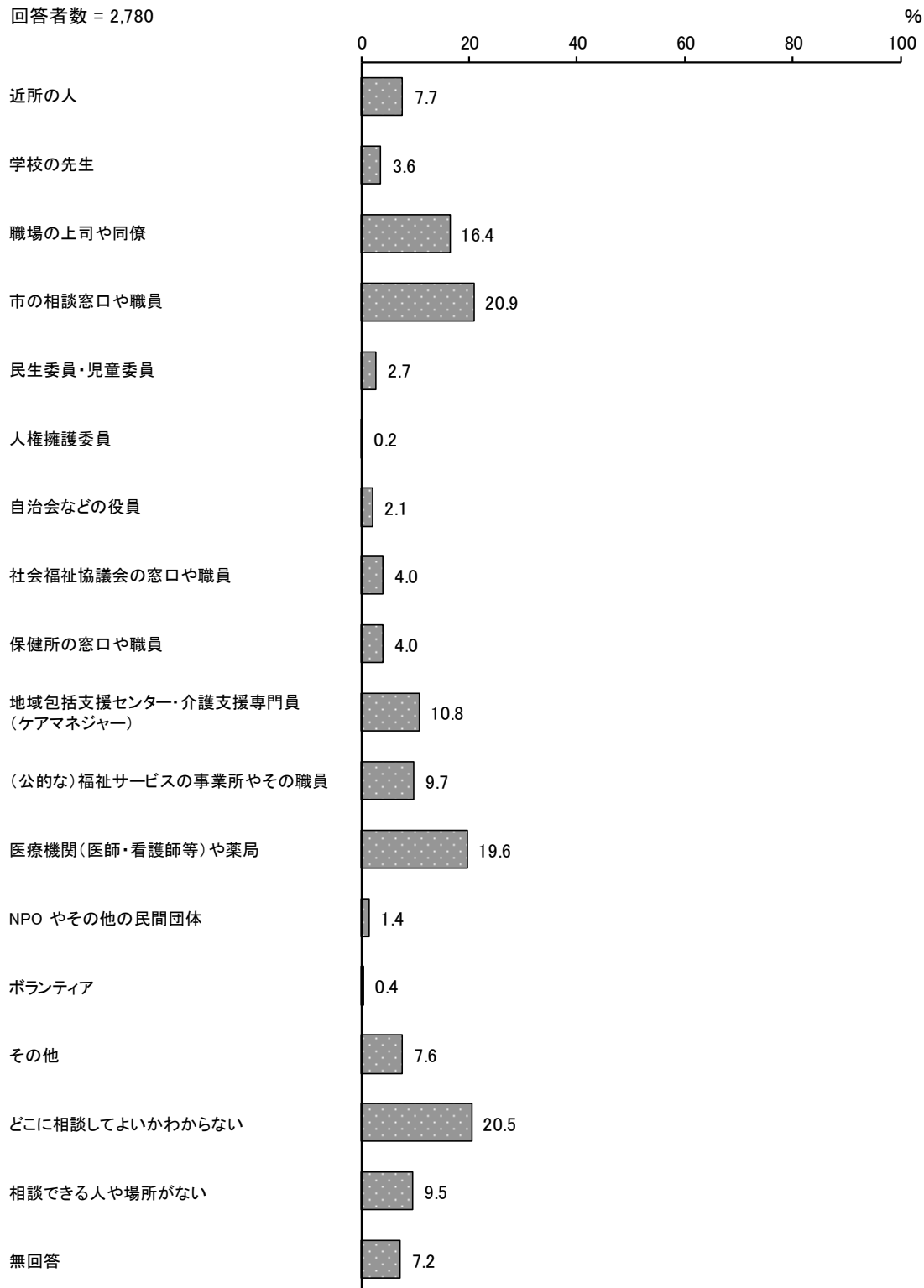
区分	回答者数(件)	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関すること	子育てに関すること	介護に関すること	経済的な問題	隣近所との関係
18歳・19歳	36	16.7	16.7	25.0	—	—	11.1	—
20歳代	225	30.2	21.8	12.0	9.3	1.8	35.1	3.1
30歳代	357	37.8	22.1	7.8	36.4	1.1	24.4	2.2
40歳代	449	40.3	33.6	7.1	23.8	7.1	17.6	2.9
50歳代	474	40.1	46.8	4.2	6.1	11.0	17.9	2.7
60～64歳	228	42.5	44.7	4.4	1.3	11.0	14.9	3.1
65～69歳	220	50.5	37.3	5.0	1.8	15.5	11.8	2.3
70～74歳	285	47.7	43.2	5.3	—	9.1	16.8	2.5
75～79歳	210	56.2	40.5	3.3	0.5	17.1	11.9	2.9
80歳以上	264	48.9	31.1	4.9	—	20.8	10.2	1.9

区分	住宅のこと	地域の治安のこと	災害時の備えに関すること	人権問題に関すること	その他	悩みや不安はない	無回答
18歳・19歳	—	2.8	—	2.8	8.3	41.7	—
20歳代	4.4	2.7	18.2	1.3	2.7	10.2	7.1
30歳代	6.4	4.5	14.8	0.6	1.1	7.6	3.9
40歳代	5.3	4.2	11.4	0.4	0.9	6.7	6.5
50歳代	4.9	3.4	15.2	0.6	1.5	8.2	5.1
60～64歳	5.7	2.6	18.9	0.9	0.9	4.8	9.2
65～69歳	6.4	3.6	15.9	0.5	3.6	5.0	6.4
70～74歳	5.3	4.2	16.8	0.4	0.7	6.0	6.0
75～79歳	2.4	3.3	12.9	0.5	0.5	5.2	5.7
80歳以上	3.0	3.8	11.7	0.8	1.9	6.8	8.7

問 13 あなたは、家族や友人で解決できない悩みや不安について、誰に、もしくはどこに相談できますか。【〇はあてはまるものすべて】

「市の相談窓口や職員」の割合が 20.9%と最も高く、次いで「どこに相談してよいかわからない」の割合が 20.5%、「医療機関（医師・看護師等）や薬局」の割合が 19.6%となっています。

回答者数 = 2,780



【年齢別】

年齢別で見ると、他に比べ、40歳代、75～79歳で「近所の人」の割合が、18歳・19歳で「学校の先生」の割合が高くなっています。また、60～64歳、65～69歳で「市の相談窓口や職員」の割合が高くなっています。

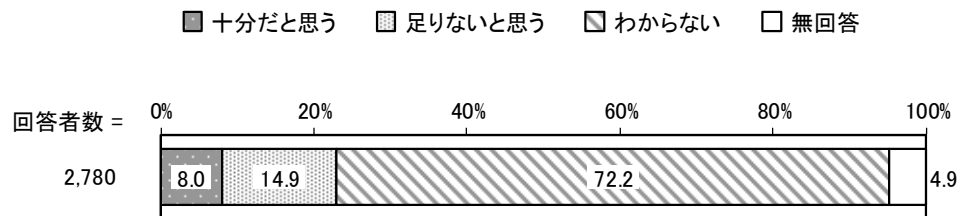
単位：％

区分	回答者数 (件)	近所の人	学校の先生	職場の上司や同僚	市の相談窓口や職員	民生委員・児童委員	人権擁護委員	自治会などの役員	社会福祉協議会の窓口や職員	保健所の窓口や職員
18歳・19歳	36	2.8	41.7	5.6	8.3	2.8	—	—	—	2.8
20歳代	225	2.2	8.0	27.6	11.6	—	0.4	—	2.7	2.2
30歳代	357	7.6	4.5	32.5	21.8	—	—	0.3	1.4	5.3
40歳代	449	10.9	8.5	29.8	16.5	1.1	—	0.2	2.7	4.5
50歳代	474	5.9	2.3	19.0	21.1	1.1	—	1.5	3.0	3.0
60～64歳	228	8.3	—	12.3	27.6	1.3	—	2.6	6.1	5.3
65～69歳	220	6.4	—	5.5	28.2	2.3	—	2.3	5.5	5.5
70～74歳	285	9.5	0.7	1.4	22.5	3.9	0.4	4.9	4.2	4.6
75～79歳	210	11.4	—	1.0	21.0	6.2	1.0	4.8	6.2	3.8
80歳以上	264	6.8	—	0.4	22.7	11.4	0.8	4.5	8.3	2.3

区分	地域包括支援センター・介護支援専門員(ケアマネジャー)	(公的な)福祉サービスの事業所やその職員	医療機関(医師・看護師等)や薬局	NPOやその他の民間団体	ボランティア	その他	どこに相談してよいかわからない	相談できる人や場所がない	無回答
18歳・19歳	—	—	2.8	2.8	—	11.1	19.4	11.1	—
20歳代	1.8	7.1	12.0	0.9	0.4	10.2	24.0	13.8	2.7
30歳代	1.4	5.9	14.3	2.2	—	8.1	21.0	12.3	2.8
40歳代	4.0	6.9	14.3	2.2	0.7	8.0	21.8	12.7	4.7
50歳代	10.1	11.6	17.1	1.7	—	8.9	25.9	10.5	4.9
60～64歳	10.5	14.0	25.4	0.9	—	6.1	18.0	8.8	9.6
65～69歳	18.2	13.6	30.0	1.8	0.5	6.8	16.8	6.4	10.0
70～74歳	11.2	13.3	24.9	0.7	0.7	7.4	22.5	7.0	9.1
75～79歳	21.9	10.0	23.8	—	1.4	6.2	14.8	4.8	10.5
80歳以上	29.9	8.0	25.8	0.4	—	4.9	12.9	4.2	15.5

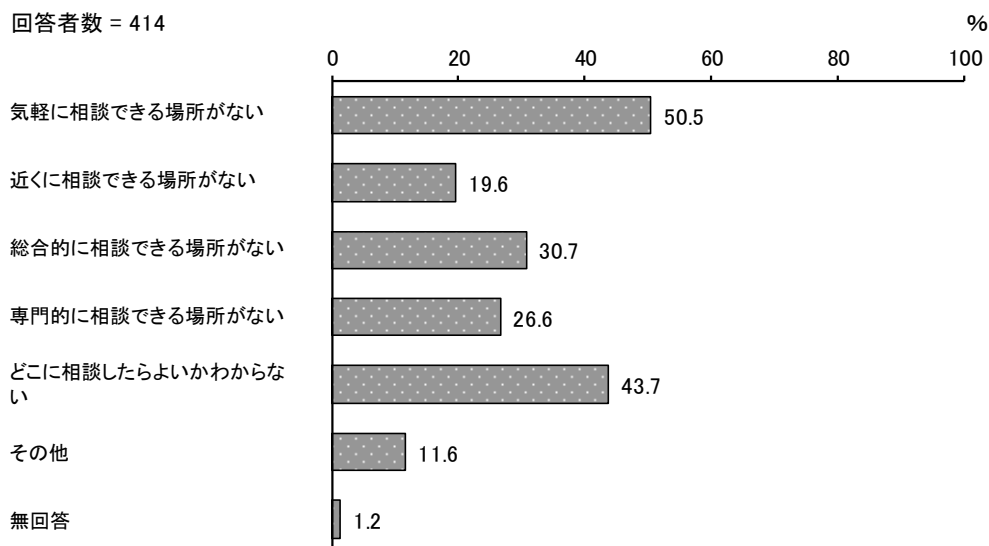
問 14 さいたま市では、区役所の相談窓口や社会福祉協議会、地域の民生委員・児童委員、地域包括支援センター等において福祉相談に対応しています。あなたは、現在の相談支援体制は十分だと思いますか。【○は1つだけ】

「わからない」の割合が72.2%と最も高く、次いで「足りないと思う」の割合が14.9%となっています。



問 15 問 14 で「足りないと思う」に○をつけた方にお伺いします。どのようなことが足りないと思いますか。【○はあてはまるものすべて】

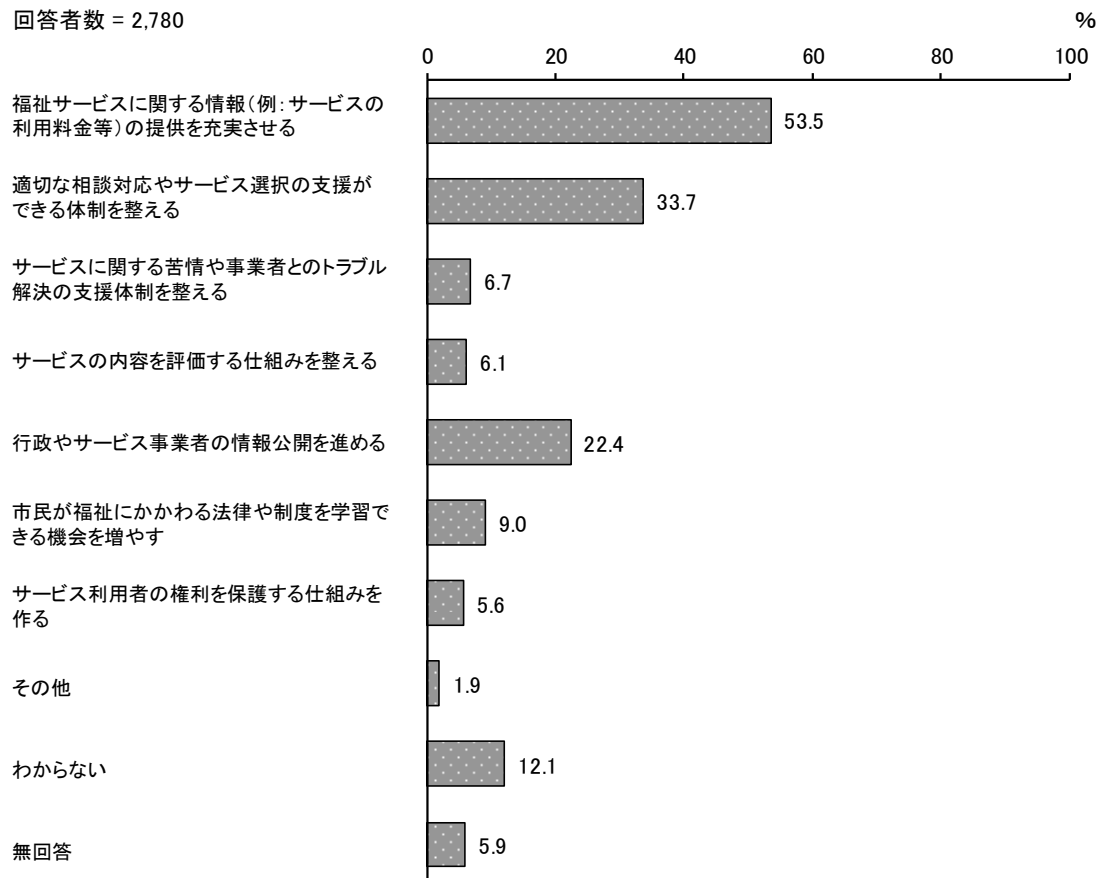
「気軽に相談できる場所がない」の割合が50.5%と最も高く、次いで「どこに相談したらよいかかわからない」の割合が43.7%、「総合的に相談できる場所がない」の割合が30.7%となっています。



問 16 多くの福祉サービスは、利用者が自由にサービスを選んで利用できるようになりました。利用者が自分に最適のサービスを安心して利用するためには、市では今後どのようなことに取り組む必要があると思いますか。【〇は2つまで】

「福祉サービスに関する情報（例：サービスの利用料金等）の提供を充実させる」の割合が53.5%と最も高く、次いで「適切な相談対応やサービス選択の支援ができる体制を整える」の割合が33.7%、「行政やサービス事業者の情報公開を進める」の割合が22.4%となっています。

回答者数 = 2,780

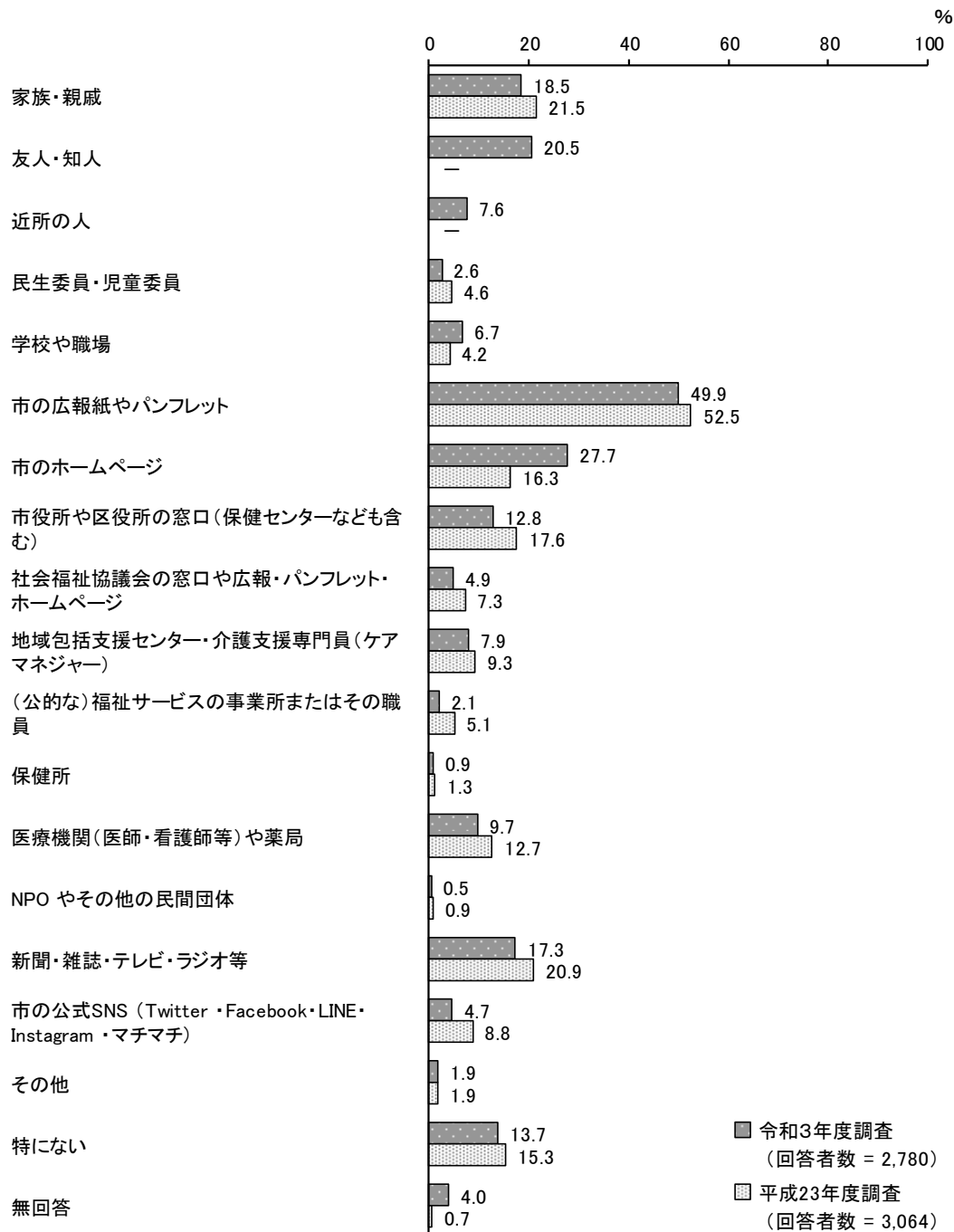


問 17 福祉サービスに関する情報はどこから入手していますか。

【〇はあてはまるものすべて】

「市の広報紙やパンフレット」の割合が49.9%と最も高く、次いで「市のホームページ」の割合が27.7%、「友人・知人」の割合が20.5%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「市のホームページ」の割合が増加しています。



※平成23年度調査では、「友人・知人」「近所の人」の選択肢は「近所の人、友人・知人」となっていました。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、18歳・19歳で「家族・親戚」の割合が、80歳以上で「民生委員・児童委員」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親戚	友人・知人	近所の人	民生委員・児童委員	学校や職場	市の広報紙やパンフレット	市のホームページ	市役所や区役所の窓口(保健センターなども含む)	社会福祉協議会の窓口や広報・パンフレット・ホームページ
18歳・19歳	36	30.6	8.3	—	2.8	19.4	30.6	16.7	5.6	—
20歳代	225	28.0	14.2	2.2	0.4	11.6	31.6	31.6	9.8	2.7
30歳代	357	22.7	19.9	7.8	—	9.8	51.3	45.9	9.5	2.2
40歳代	449	16.9	16.5	6.9	1.1	12.9	49.0	33.0	12.5	4.2
50歳代	474	14.6	18.8	5.9	0.4	7.4	48.1	33.5	12.9	4.2
60～64歳	228	16.2	23.7	9.2	0.4	3.9	58.3	32.0	11.8	6.6
65～69歳	220	14.1	21.4	8.6	2.3	2.3	64.5	21.8	16.8	5.9
70～74歳	285	14.0	27.4	13.3	2.8	3.2	59.3	15.8	14.4	6.3
75～79歳	210	17.1	30.5	9.5	6.2	0.5	52.4	11.0	13.8	7.1
80歳以上	264	24.6	18.9	7.6	13.3	0.8	40.5	9.1	15.9	8.0

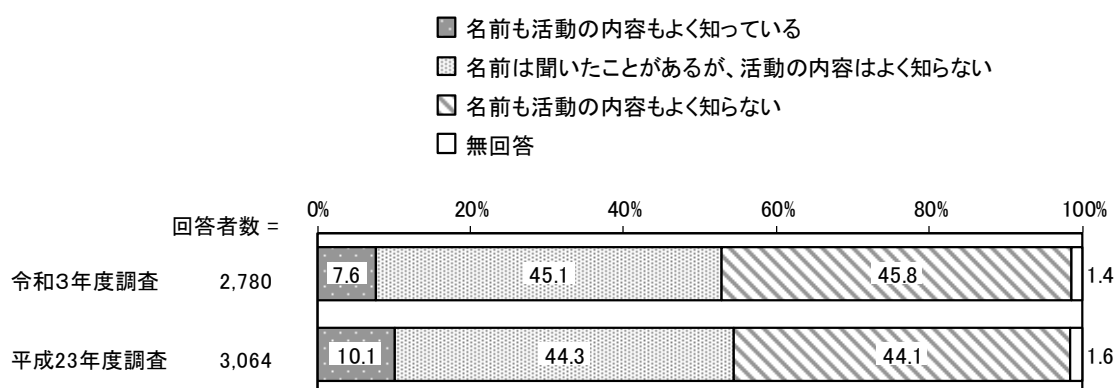
区分	地域包括支援センター・介護支援専門員(ケアマネジャー)	(公的な)福祉サービスの事業所またはその職員	保健所	医療機関(医師・看護師等)や薬局	その他(民間団体)	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等	市の公式SNS(Twitter・Facebook・LINE・Instagram・マチマチ)	その他	特になし	無回答
18歳・19歳	—	—	5.6	5.6	—	8.3	5.6	—	33.3	2.8
20歳代	0.9	1.3	0.9	5.8	—	11.1	12.0	1.8	26.2	1.8
30歳代	0.3	0.6	1.4	5.9	0.6	6.4	5.3	2.2	14.8	1.7
40歳代	4.2	2.9	1.1	8.5	0.9	10.0	6.9	1.8	17.4	3.1
50歳代	8.6	2.5	0.8	8.9	0.2	15.0	5.3	1.9	17.7	3.8
60～64歳	5.7	2.6	0.4	12.7	0.4	18.0	3.1	1.8	6.6	7.0
65～69歳	13.2	3.6	1.8	11.8	1.4	24.5	1.8	2.7	5.9	5.0
70～74歳	8.4	1.1	0.4	8.4	0.4	29.8	2.8	1.8	8.4	3.2
75～79歳	11.4	2.9	—	15.7	0.5	30.0	1.0	1.4	9.0	4.3
80歳以上	25.0	1.5	—	14.8	0.4	24.6	2.3	1.5	8.3	6.4

(6) 社会福祉協議会について

問 18 地域福祉を推進し、社会福祉への住民参加を促し意識の高揚を図るための諸活動を行う「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織をご存知ですか。【○は1つだけ】

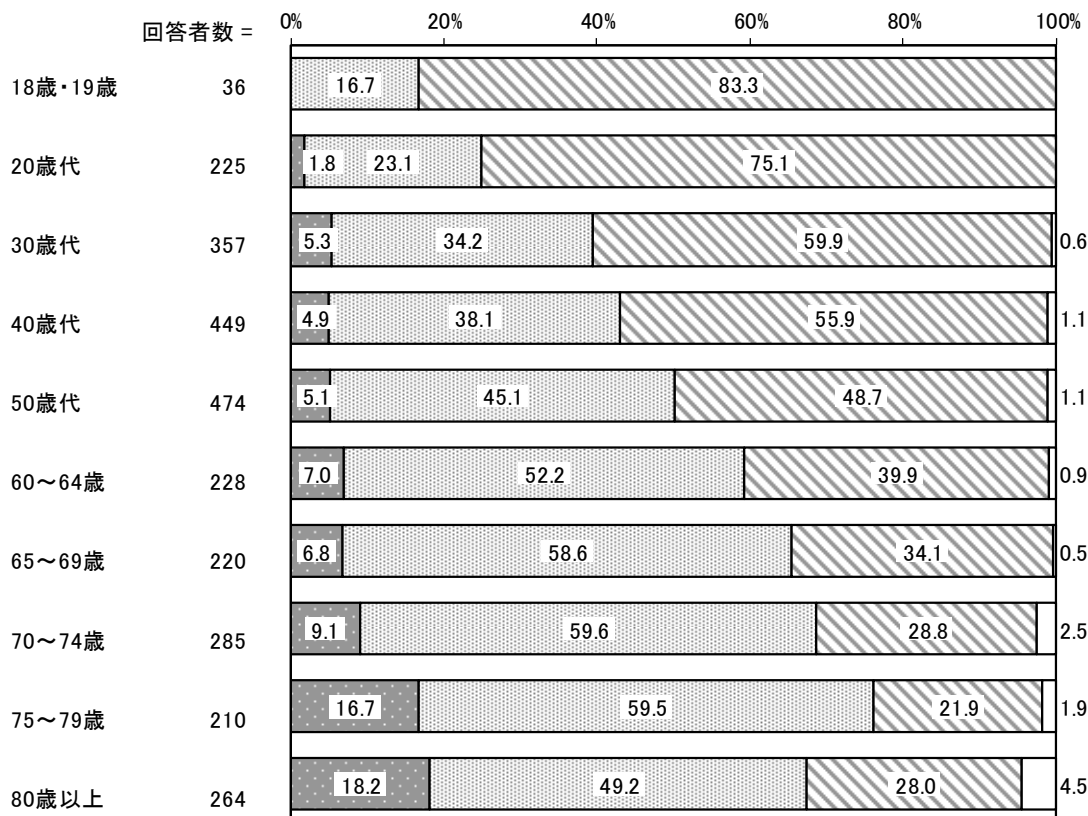
「名前も活動の内容もよく知らない」の割合が45.8%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」の割合が45.1%となっています。

平成23年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

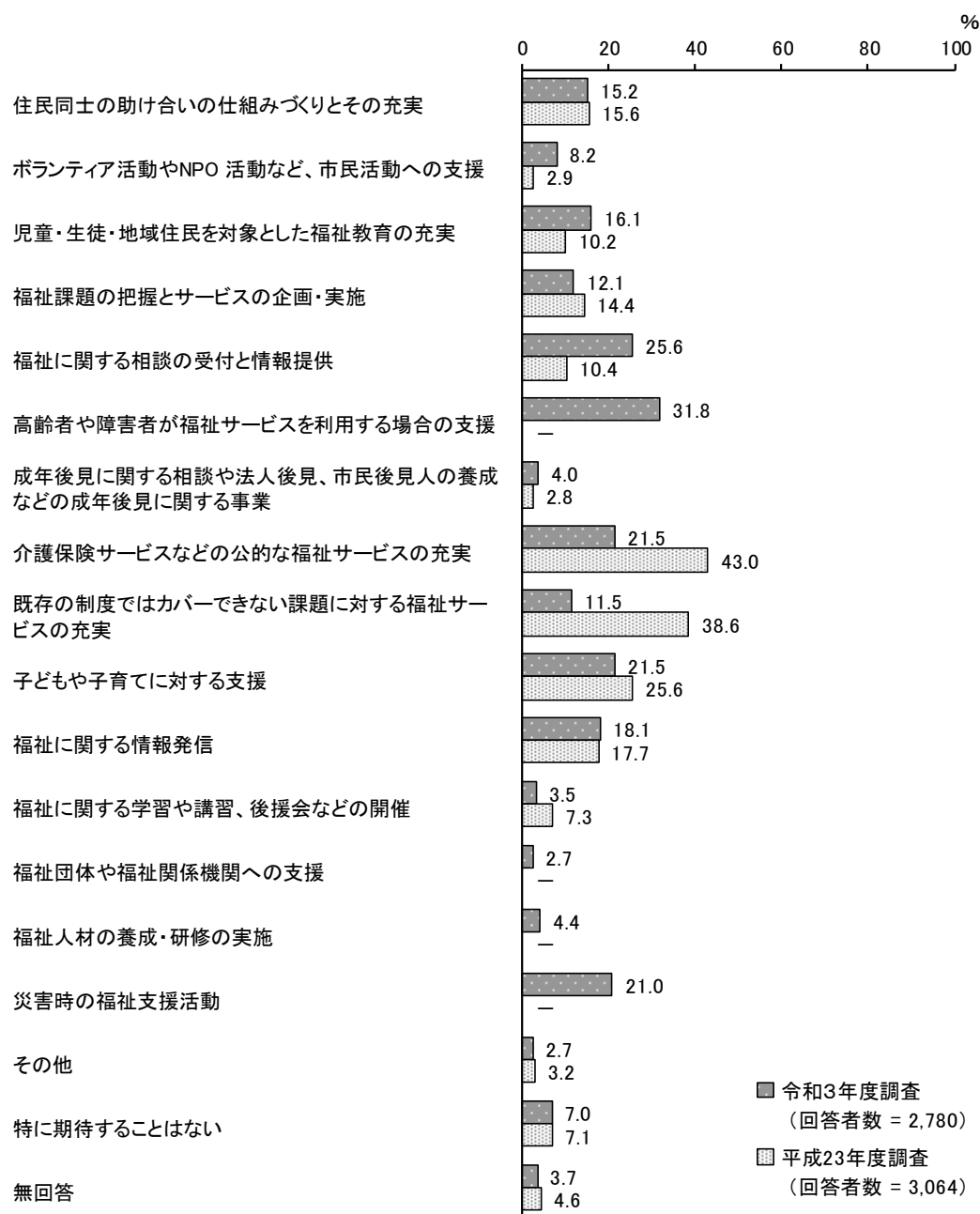
年齢別でみると、他に比べ、75～79歳、80歳以上で「名前も活動の内容もよく知っている」の割合が、70～74歳、75～79歳で「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」の割合が高くなっています。また、年齢が若いほど「名前も活動の内容もよく知らない」の割合が高くなる傾向がみられます。



問 19 あなたは、「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」に、特にどのようなことを期待しますか。【〇は3つまで】

「高齢者や障害者が福祉サービスを利用する場合の支援」の割合が 31.8%と最も高く、次いで「福祉に関する相談の受付と情報提供」の割合が 25.6%、「介護保険サービスなどの公的な福祉サービスの充実」、「子どもや子育てに対する支援」の割合が 21.5%となっています。

平成 23 年度調査と比較すると、「ボランティア活動や NPO 活動など、市民活動への支援」「児童・生徒・地域住民を対象とした福祉教育の充実」「福祉に関する相談の受付と情報提供」の割合が増加しています。一方、「介護保険サービスなどの公的な福祉サービスの充実」「既存の制度ではカバーできない課題に対する福祉サービスの充実」の割合が減少しています。

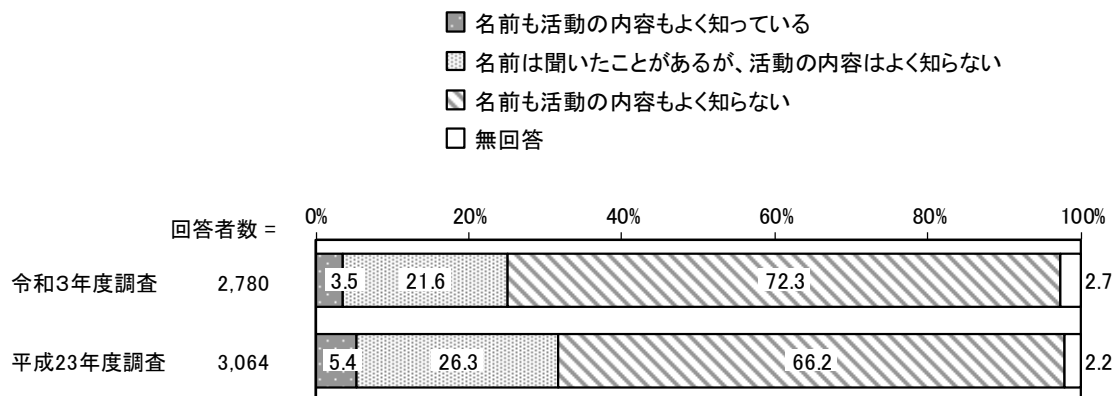


※平成 23 年度調査では、「高齢者や障害者が福祉サービスを利用する場合の支援」「災害時の福祉支援活動」の選択肢はありませんでした。また、「福祉団体や福祉関係機関への支援」「福祉人材の養成・研修の実施」は、「福祉団体への支援や育成」となっていました。

問 20 住民の主体的な福祉活動により各地域の特色を活かした事業を展開し、福祉コミュニティづくりのための基礎組織として、「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」とは別に、市内に52の「地区社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織をご存知ですか。【○は1つだけ】

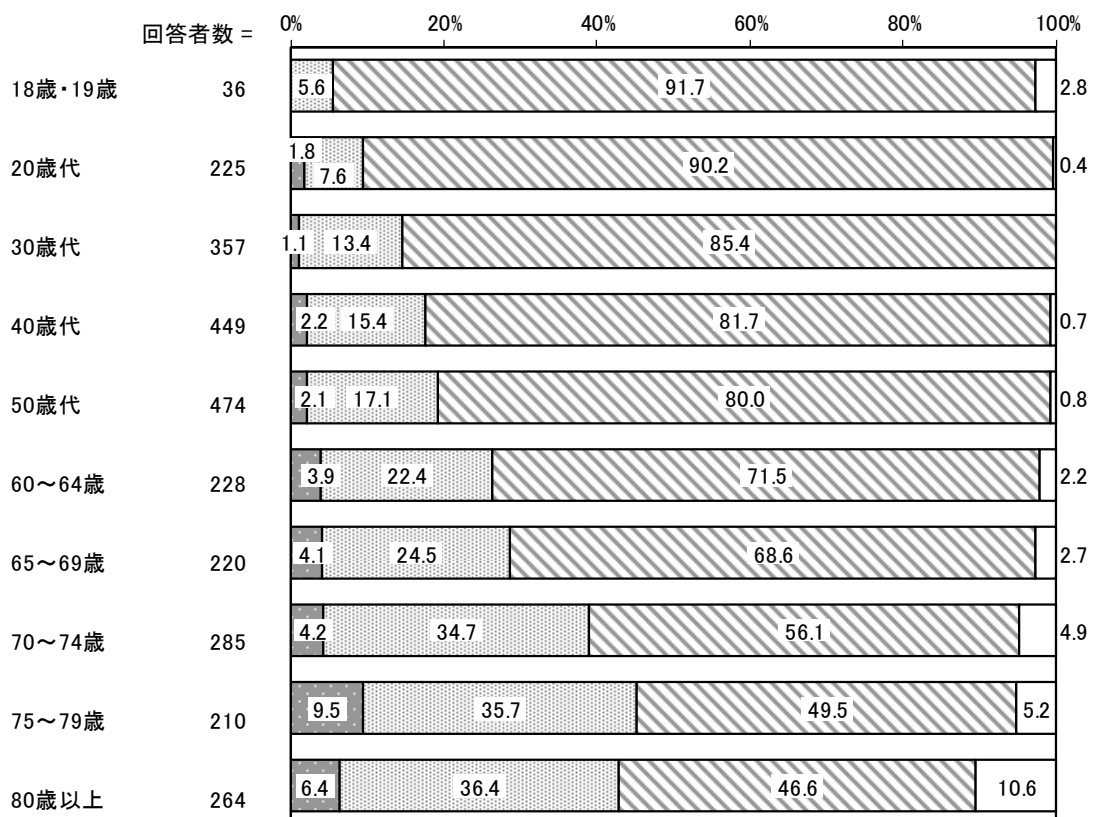
「名前も活動の内容もよく知らない」の割合が72.3%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」の割合が21.6%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「名前も活動の内容もよく知らない」の割合が増加しています。



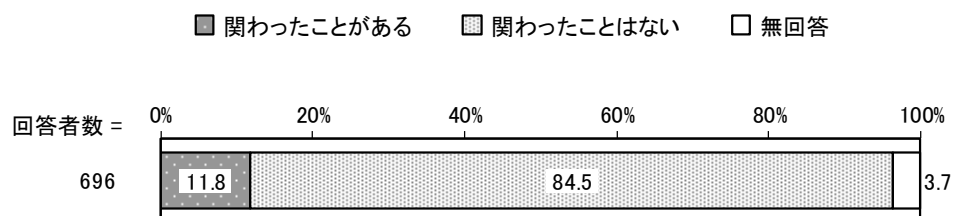
【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、75～79歳、80歳以上で「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」の割合が高くなっています。また、年齢が若いほど「名前も活動の内容もよく知らない」の割合が高くなる傾向がみられます。



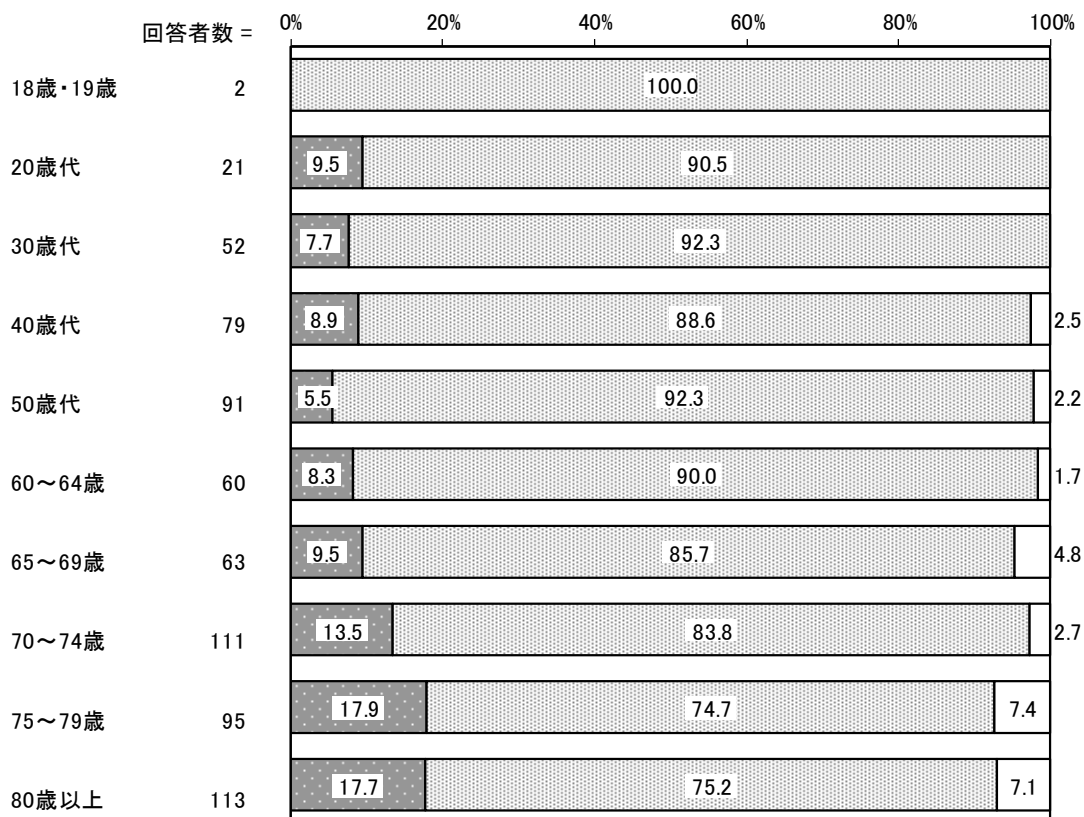
問 21 問 20 で「名前も活動の内容もよく知っている」又は「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」に○をつけた方にお伺いします。
 あなたは、「地区社会福祉協議会」の活動に関わったことがありますか。
 【○は1つだけ】

「関わったことがある」の割合が 11.8%、「関わったことはない」の割合が 84.5%となっています。



【年齢別】

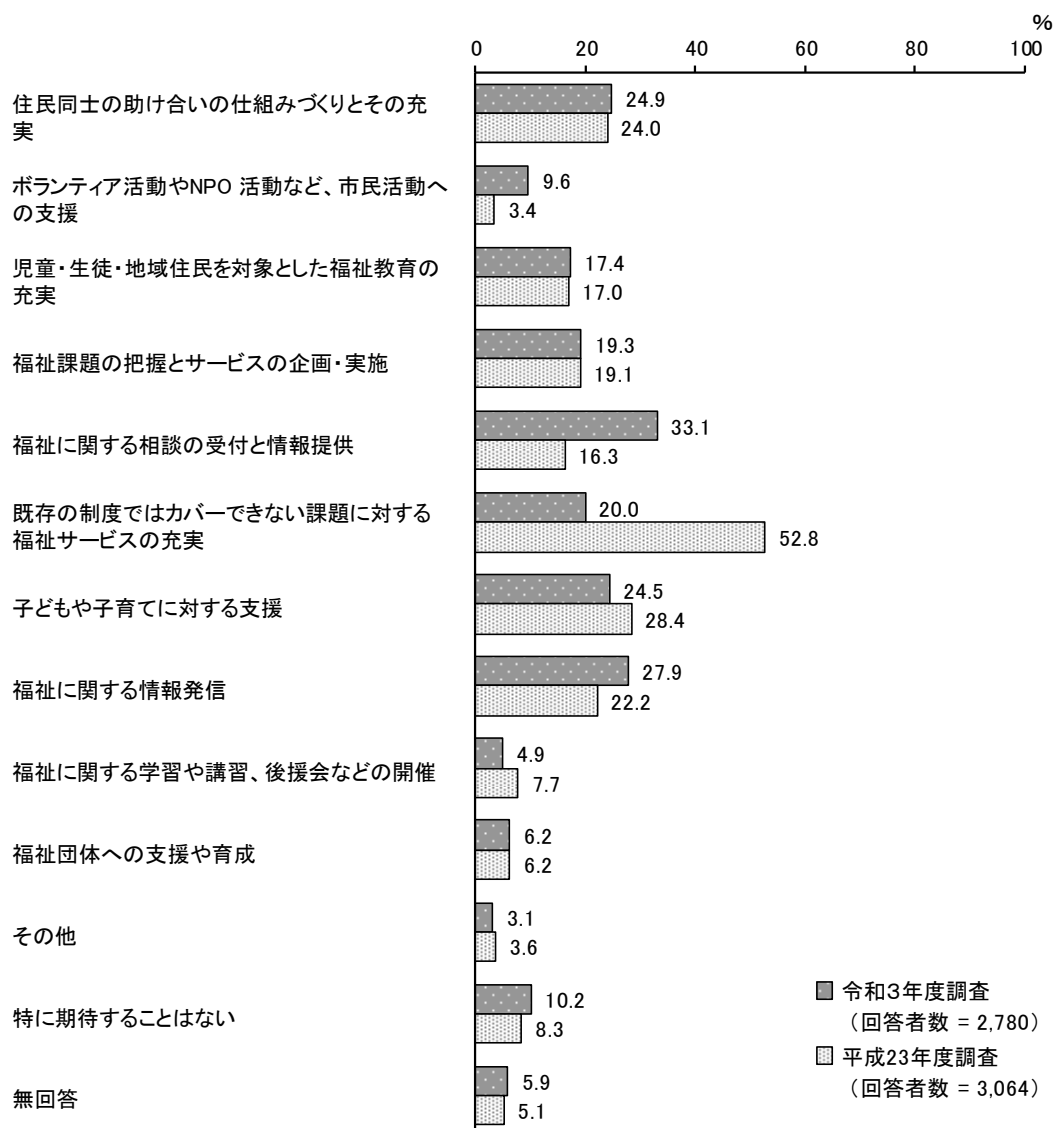
年齢別でみると、他に比べ、75～79歳、80歳以上で「関わったことがある」の割合が高くなっています。



問 22 あなたは、「地区社会福祉協議会」に、特にどのようなことを期待しますか。
【〇は3つまで】

「福祉に関する相談の受付と情報提供」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「福祉に関する情報発信」の割合が 27.9%、「住民同士の助け合いの仕組みづくりとその充実」の割合が 24.9%となっています。

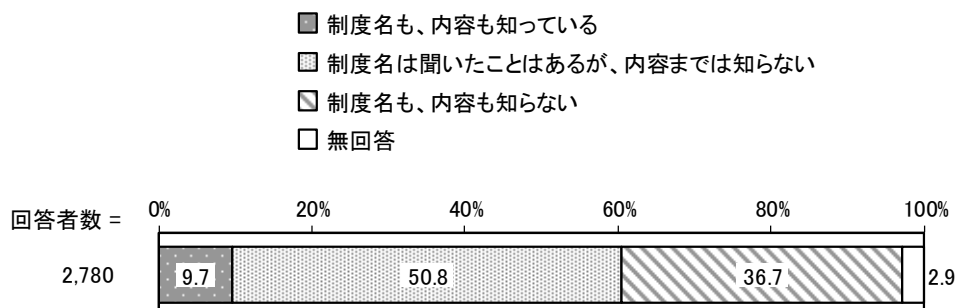
平成 23 年度調査と比較すると、「ボランティア活動や NPO 活動など、市民活動への支援」「福祉に関する相談の受付と情報提供」「福祉に関する情報発信」の割合が増加しています。一方、「既存の制度ではカバーできない課題に対する福祉サービスの充実」の割合が減少しています。



(7) 生活困窮者自立支援制度について

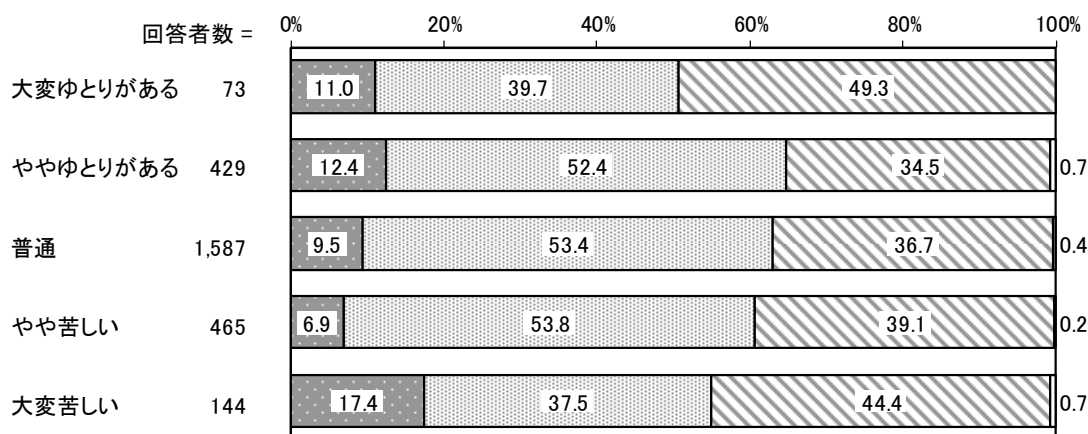
問 23 あなたは、「生活困窮者自立支援制度」をご存知ですか。【〇は1つだけ】

「制度名は聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が50.8%と最も高く、次いで「制度名も、内容も知らない」の割合が36.7%となっています。



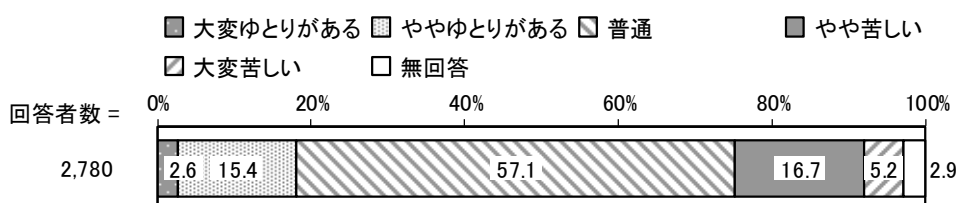
【経済的な暮らし向き別】

経済的な暮らし向き別でみると、他に比べ、大変苦しいで「制度名も、内容も知っている」の割合が、大変ゆとりがあるで「制度名も、内容も知らない」の割合が高くなっています。



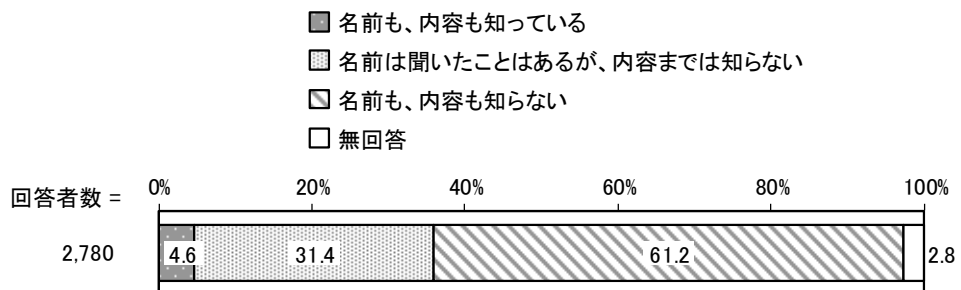
問 24 あなたの現在の経済的な暮らし向きはいかがですか。【〇は1つだけ】

「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”の割合が18.0%、普通が57.1%、「やや苦しい」と「大変苦しい」をあわせた“苦しい”の割合が21.9%となっています。



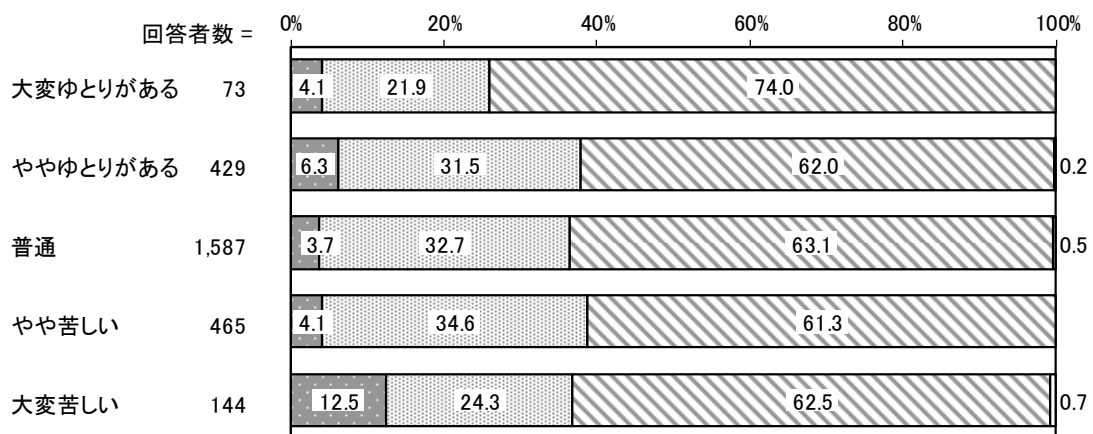
問 25 さいたま市では、生活困窮者自立支援機関として各区役所に「生活自立・仕事相談センター」を設置しています。あなたは、この相談窓口をご存知ですか。
【〇は1つだけ】

「名前も、内容も知らない」の割合が 61.2%と最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が 31.4%となっています。



【経済的な暮らし向き別】

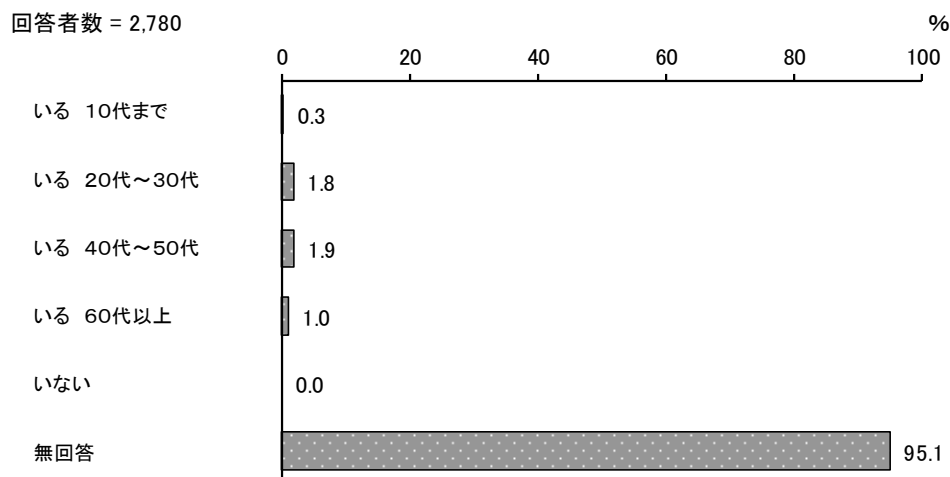
経済的な暮らし向き別でみると、他に比べ、大変苦しいで「名前も、内容も知っている」の割合が、やや苦しいで「名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が高くなっています。また、大変ゆとりがあるで「名前も、内容も知らない」の割合が高くなっています。



(8) ひきこもりについて

問 26 あなたやあなたのご家族にひきこもり状態の方はおられますか。
【〇はあてはまるものすべて】

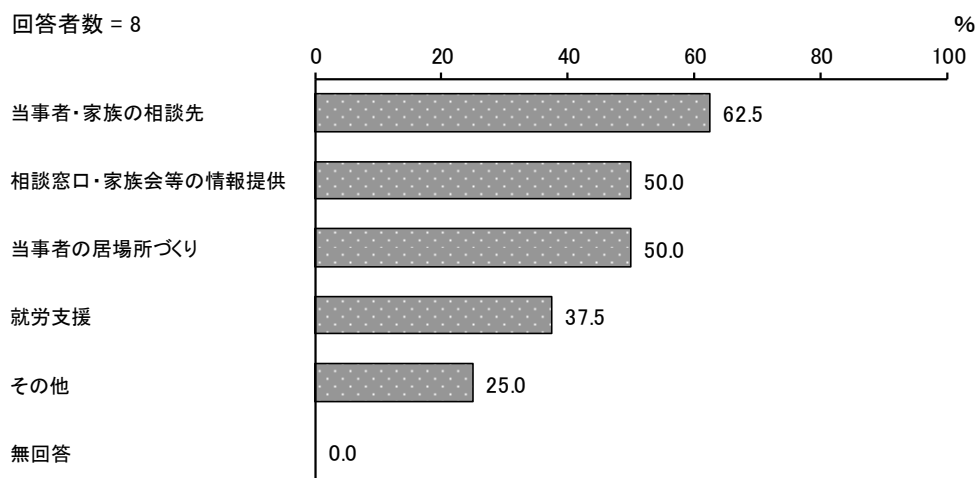
「いる 40代～50代」の割合が1.9%と最も高くなっています。



問 27 問 26 で「いる」に〇をつけた方にお伺いします。
問 26 で選択された方に対して、どのような支援を期待しますか。
【問 26 で選択された年代に対する支援について、〇はあてはまるものすべて】

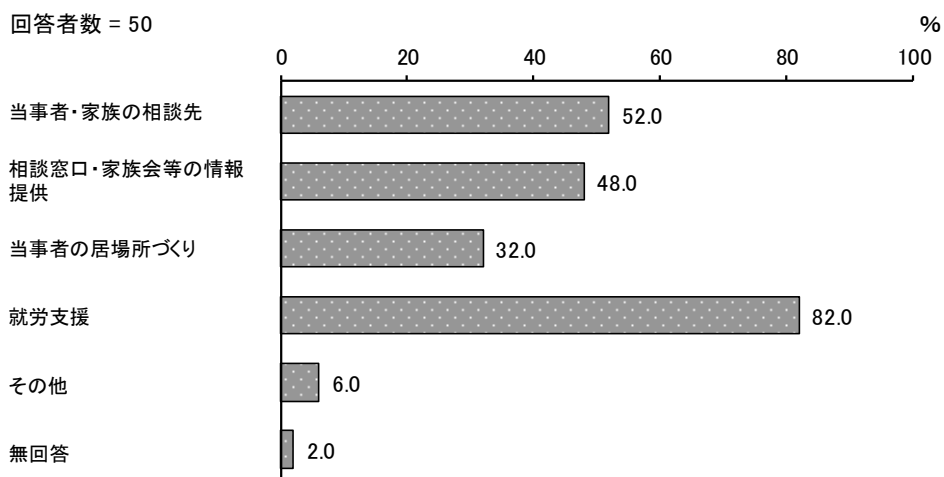
① 10代まで

「当事者・家族の相談先」が5件となっています。「相談窓口・家族会等の情報提供」、「当事者の居場所づくり」が4件となっています。



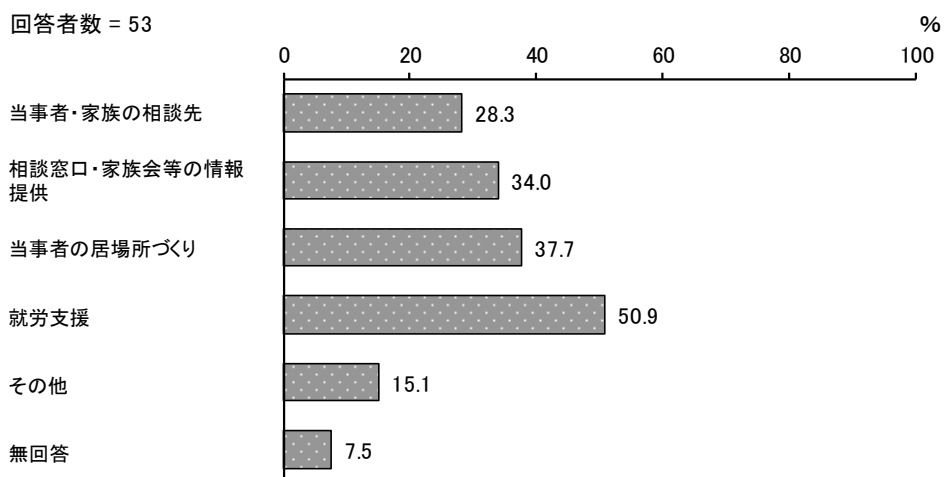
② 20代～30代

「就労支援」の割合が82.0%と最も高く、次いで「当事者・家族の相談先」の割合が52.0%、「相談窓口・家族会等の情報提供」の割合が48.0%となっています。



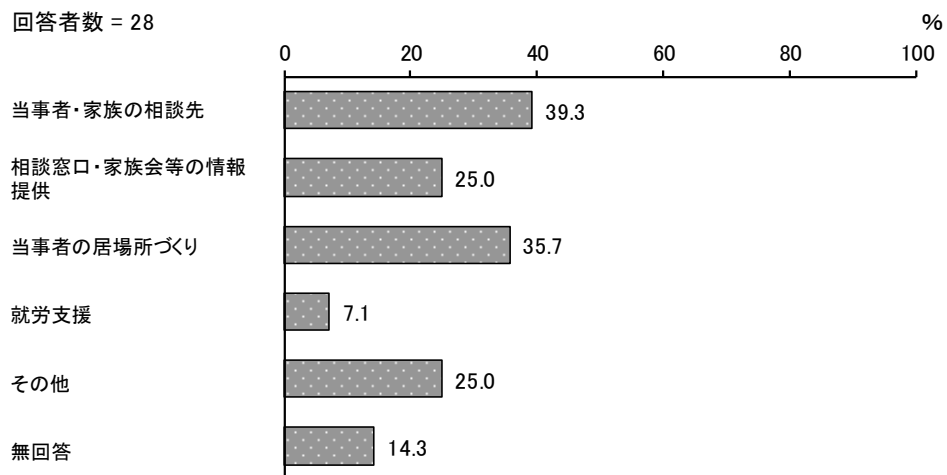
③ 40代～50代

「就労支援」の割合が50.9%と最も高く、次いで「当事者の居場所づくり」の割合が37.7%、「相談窓口・家族会等の情報提供」の割合が34.0%となっています。



④ 60代以上

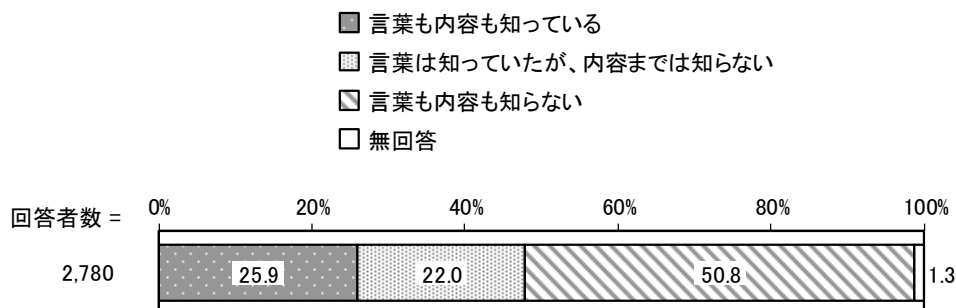
「当事者・家族の相談先」の割合が39.3%と最も高く、次いで「当事者の居場所づくり」の割合が35.7%、「相談窓口・家族会等の情報提供」の割合が25.0%となっています。



(9) ケアラーについて

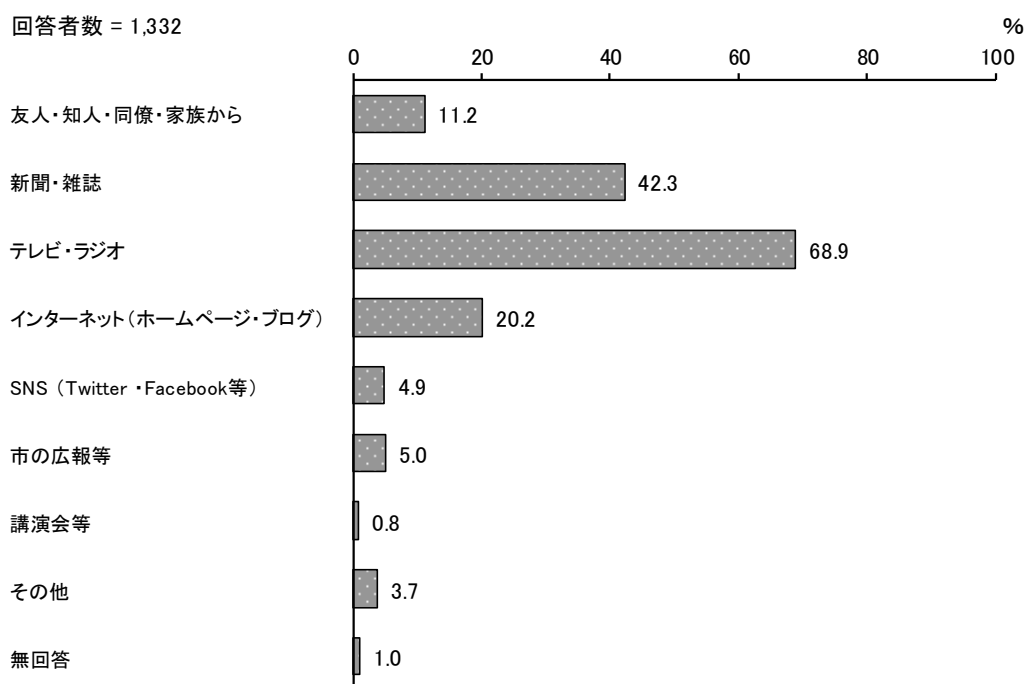
問 28 あなたは、「ケアラー」という言葉を知っていますか。【〇は1つだけ】

「言葉も内容も知らない」の割合が 50.8%と最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」の割合が 25.9%、「言葉は知っていたが、内容までは知らない」の割合が 22.0%となっています。



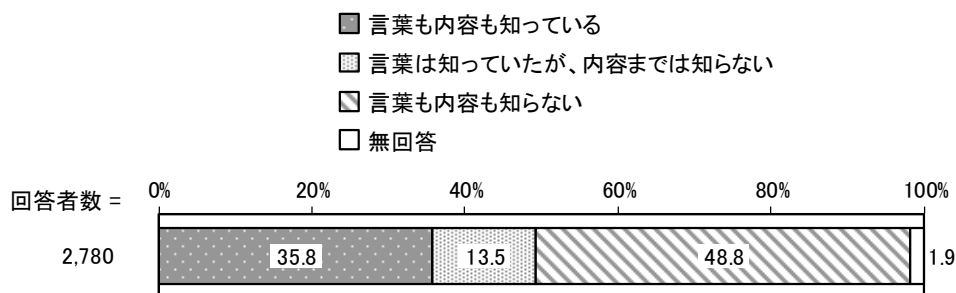
問 29 問 28 で「言葉も内容も知っている」または「言葉は知っていたが、内容までは知らない」と答えた方に伺います。 あなたは「ケアラー」という言葉をどこで知りましたか。【〇はあてはまるものすべて】

「テレビ・ラジオ」の割合が 68.9%と最も高く、次いで「新聞・雑誌」の割合が 42.3%、「インターネット（ホームページ・ブログ）」の割合が 20.2%となっています。



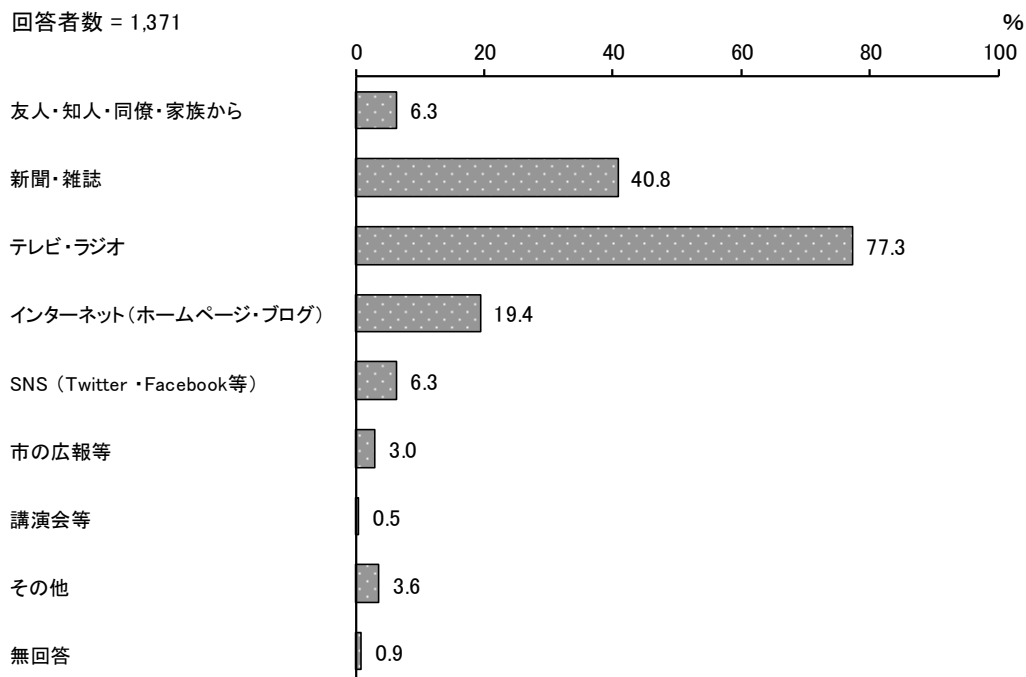
問 30 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。【〇は1つだけ】

「言葉も内容も知らない」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「言葉も内容も知っている」の割合が 35.8%、「言葉は知っていたが、内容までは知らない」の割合が 13.5%となっています。



**問 31 問 30 で「言葉も内容も知っている」または「言葉は知っていたが、内容までは知らない」と答えた方に伺います。
あなたは「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。【〇はあてはまるものすべて】**

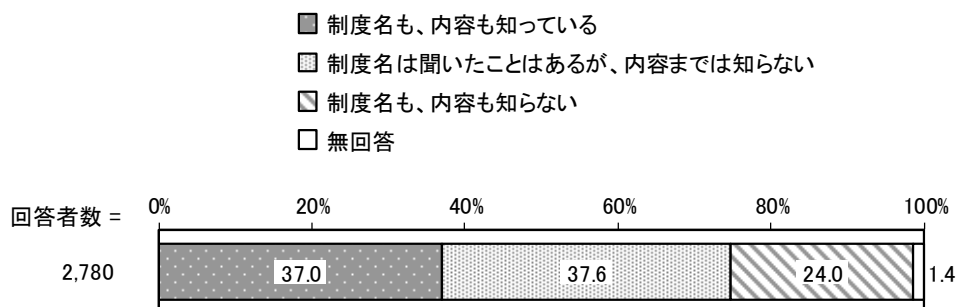
「テレビ・ラジオ」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「新聞・雑誌」の割合が 40.8%、「インターネット（ホームページ・ブログ）」の割合が 19.4%となっています。



(10) 成年後見制度について

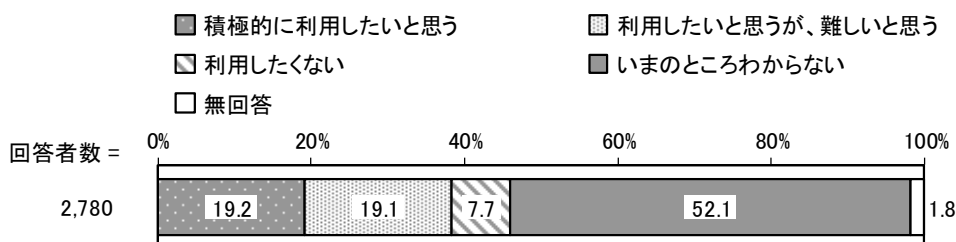
問 32 あなたは、成年後見制度をご存知ですか。【〇は1つだけ】

「制度名は聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が 37.6%と最も高く、次いで「制度名も、内容も知っている」の割合が 37.0%、「制度名も、内容も知らない」の割合が 24.0%となっています。



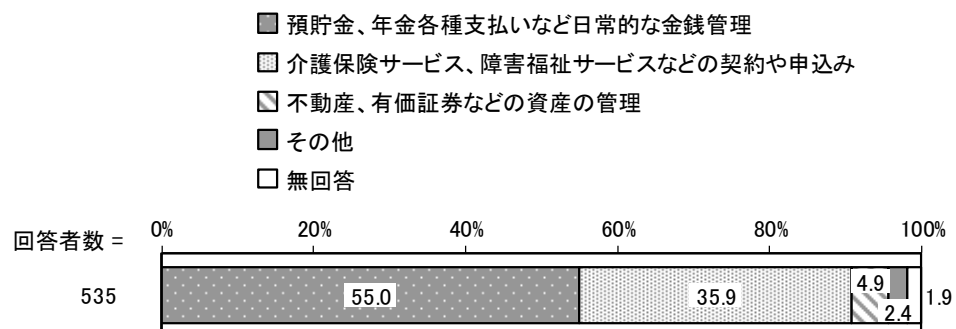
問 33 あなたやあなたの親族が認知症などにより、物事を判断する能力が十分でなくなったときに、成年後見制度を利用したいと思いますか。【〇は1つだけ】

「いまのところわからない」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「積極的に利用したいと思う」の割合が 19.2%、「利用したいと思うが、難しいと思う」の割合が 19.1%となっています。



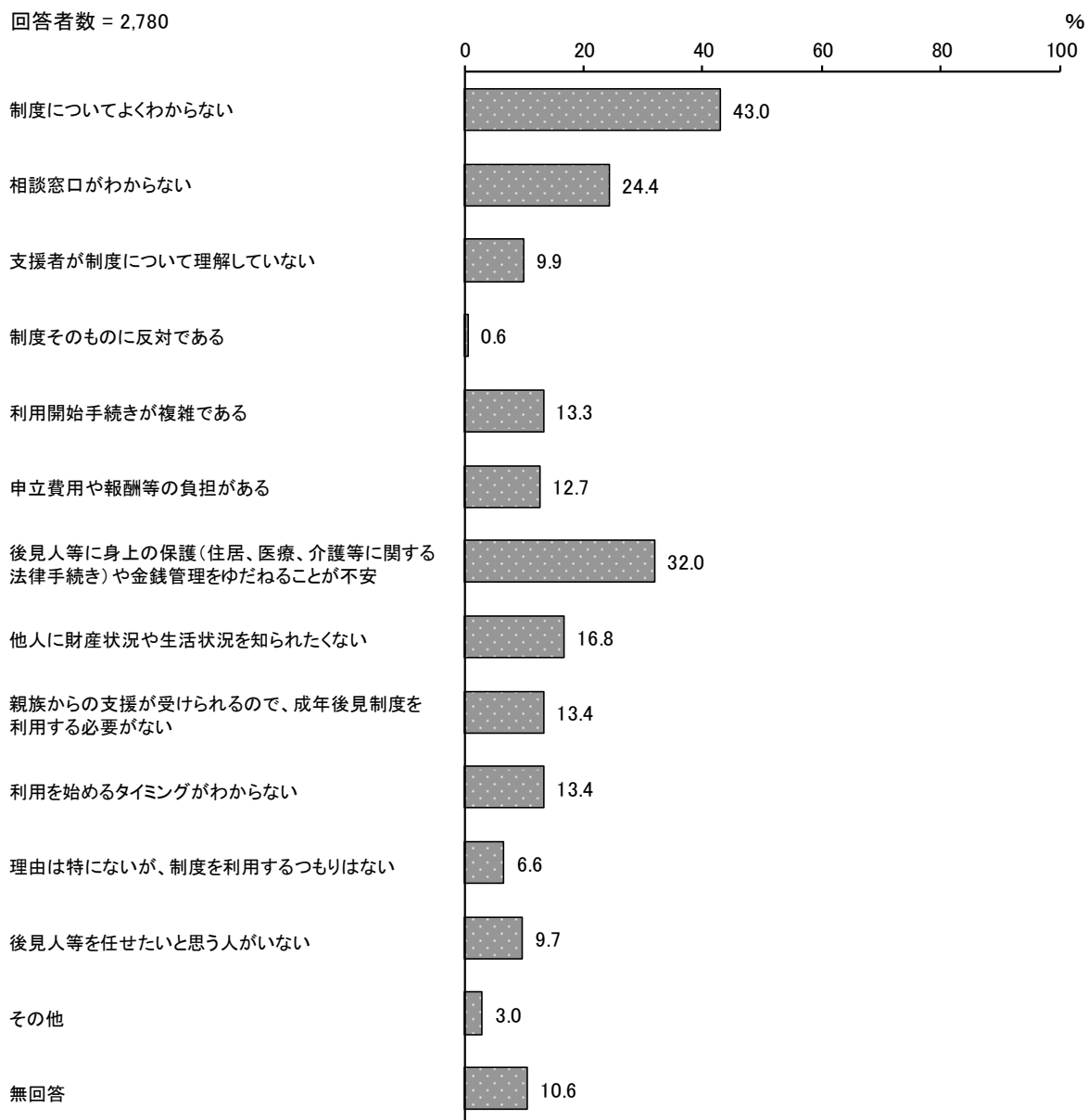
問 34 問 33 で「積極的に利用したいと思う」と答えた方に伺います。制度を利用したいと思う最も大きな要因はどれですか。【〇は1つだけ】

「預貯金、年金各種支払いなど日常的な金銭管理」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「介護保険サービス、障害福祉サービスなどの契約や申込み」の割合が 35.9%となっています。



問 35 問 33 で「積極的に利用したいと思う」または「利用したいと思うが、難しいと思う」と答えた方は、成年後見制度を利用するに当たり不安や心配なこと、問 33 で「利用したくない」または「いまのところわからない」と答えた方は、利用したくないまたはわからないと思う理由はどれですか。【〇はあてはまるものすべて】

「制度についてよくわからない」の割合が 43.0%と最も高く、次いで「後見人等に身上の保護（住居、医療、介護等に関する法律手続き）や金銭管理をゆだねることが不安」の割合が 32.0%、「相談窓口がわからない」の割合が 24.4%となっています。

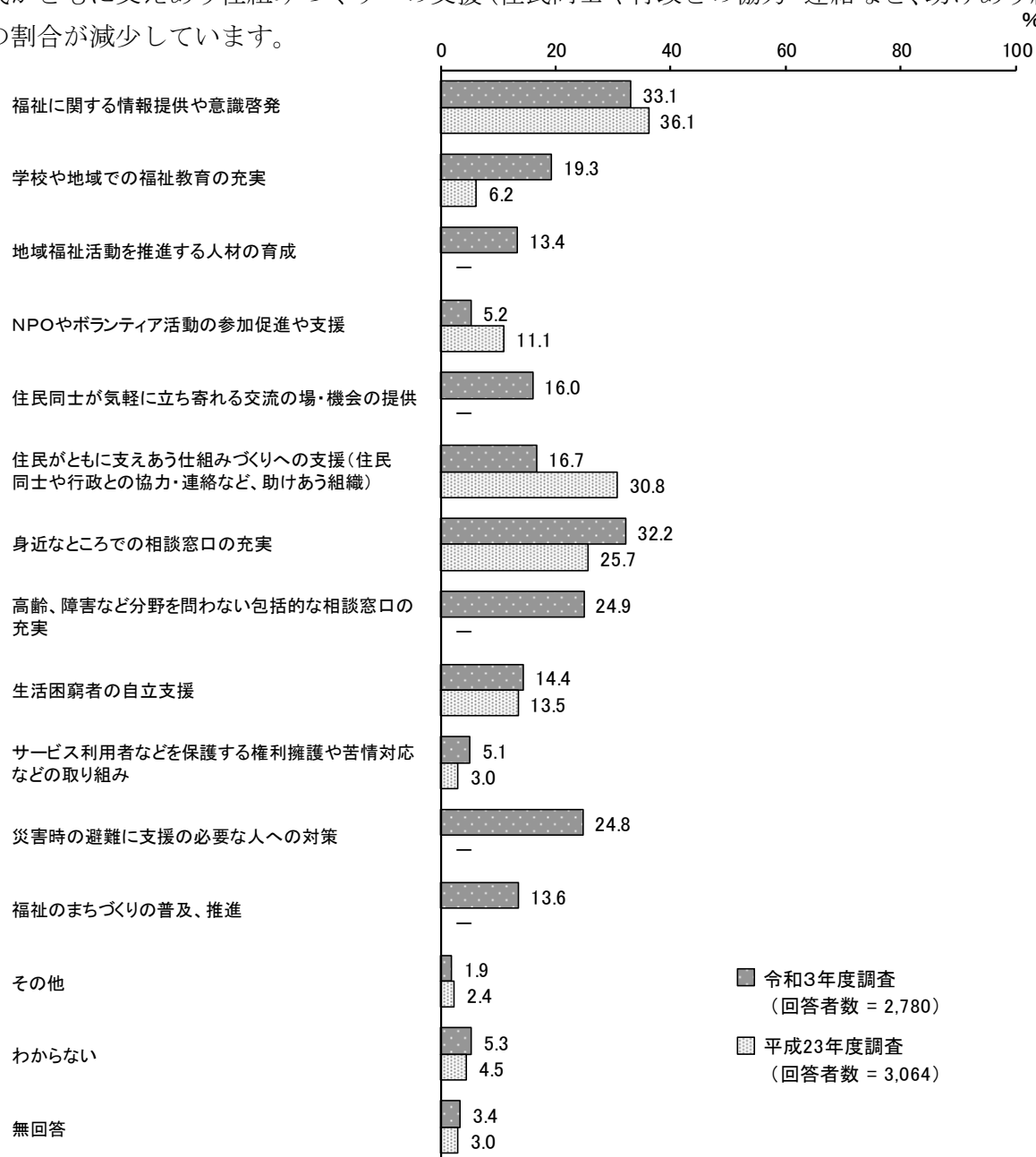


(11) 今後の地域福祉のあり方について

問 36 今後、市が取り組むべき施策は、どれを優先して充実すべきだと思いますか。
【〇は3つまで】

「福祉に関する情報提供や意識啓発」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「身近なところでの相談窓口の充実」の割合が 32.2%、「高齢、障害など分野を問わない包括的な相談窓口の充実」の割合が 24.9%となっています。

平成 23 年度調査と比較すると、「学校や地域での福祉教育の充実」「身近なところでの相談窓口の充実」の割合が増加しています。一方、「NPOやボランティア活動の参加促進や支援」「住民がともに支えあう仕組みづくりへの支援（住民同士や行政との協力・連絡など、助けあう組織）」の割合が減少しています。



※平成 23 年度調査に、「地域福祉活動を推進する人材の育成」「住民同士が気軽に立ち寄れる交流の場・機会の提供」「高齢、障害など分野を問わない包括的な相談窓口の充実」「災害時の避難に支援の必要な人への対策」「福祉のまちづくりの普及、推進」の選択肢はありません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60～64歳で「福祉に関する情報提供や意識啓発」の割合が、18歳・19歳で「NPOやボランティア活動の参加促進や支援」「災害時の避難に支援の必要な人への対策」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	福祉に関する情報提供や意識啓発	学校や地域での福祉教育の充実	地域福祉活動を推進する人材の育成	NPOやボランティア活動の参加促進や支援	住民同士が気軽に立ち寄れる交流の場・機会の提供	住民がともに支えあう仕組みづくりへの支援(住民同士や行政との協力・連絡など、助けあう組織)	身近なところでの相談窓口の充実
18歳・19歳	36	22.2	33.3	11.1	8.3	11.1	16.7	13.9
20歳代	225	29.8	34.2	10.2	4.9	13.3	6.2	27.1
30歳代	357	30.5	32.5	9.5	4.2	16.2	14.8	29.7
40歳代	449	33.0	30.3	10.9	6.5	11.1	14.7	35.2
50歳代	474	36.9	14.6	13.5	7.2	9.7	16.7	36.7
60～64歳	228	41.7	13.2	17.5	3.9	16.2	19.3	32.0
65～69歳	220	38.2	12.7	15.5	4.5	19.1	23.2	30.9
70～74歳	285	33.0	10.2	15.4	3.5	22.5	23.5	36.8
75～79歳	210	29.5	10.5	13.8	5.2	23.8	21.0	29.0
80歳以上	264	28.4	6.8	17.4	3.8	23.9	14.8	30.7

区分	高齢、障害など分野を問わない包括的な相談窓口の充実	生活困窮者の自立支援	サービス利用者などを保護する権利擁護や苦情対応などの取り組み	災害時の避難に支援の必要な人への対策	福祉のまちづくりの普及、推進	その他	わからない	無回答
18歳・19歳	13.9	22.2	2.8	33.3	8.3	2.8	13.9	—
20歳代	23.1	21.3	4.4	31.6	17.3	2.2	5.8	1.8
30歳代	16.5	16.2	4.8	27.7	13.7	4.5	5.3	1.1
40歳代	26.9	13.1	5.3	25.8	13.8	2.2	4.5	1.1
50歳代	27.0	13.7	3.8	26.6	13.1	2.7	4.9	2.7
60～64歳	28.9	12.7	6.1	25.9	10.5	1.8	3.1	1.8
65～69歳	26.8	12.7	7.7	22.3	14.5	—	5.5	4.1
70～74歳	25.3	16.8	5.6	22.8	13.7	0.7	4.9	1.8
75～79歳	21.4	12.9	7.6	20.5	14.3	0.5	5.7	4.8
80歳以上	29.5	10.6	3.0	17.4	13.6	0.4	8.3	8.3

問 37 その他ご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。今後、市が取り組むべき施策は、どれを優先して充実すべきだと思いますか。

【主な意見】

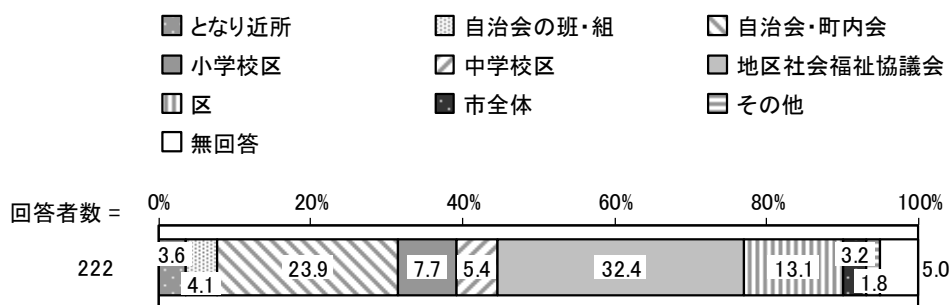
- ・ 地域福祉の定義が広くて、受けられる公共サービスがいまひとつわかりづらいので、明確化してほしい。
- ・ 支援が必要な人が支援を求めやすくする福祉。孤立化を防ぐ、子育て、介護など信頼関係が持てる地域社会が望ましいと思うが、難しさも感じる。
- ・ ふらりと立寄っておしゃべりが出来る場所があったらと思います。
- ・ メンタルヘルス等で苦しんでる方や孤立してしまっている方が少しでも心地よく感じられる居場所が地域にあると良いと思います。
- ・ 単身高齢者への見守りを密に。
- ・ 単身の高齢者が増える中、幅広い世代が日常的に交流する場を設けたら良いと思います。
- ・ これからの高齢者社会、災害多発社会を考えると、地域で支え合うことが大切だと思います。自治会の班、組からはじめられることが多いのではないのでしょうか?高齢者宅のごみ出し、災害時の声かけ、炊き出しなど。ゆるやかなつながりが理想です。
- ・ 高齢者の割合が増えてくるので情報の提供や支援相談ができる場所が近くに出来るといいと思う。
- ・ 市の福祉サービスを受けて良いのかもわかりにくい。気軽に受けて良いのか、公表(公開)して欲しい
- ・ いざ必要となったときにどこに相談したらいいのかわからない。いろんな制度があると思うが知らないことが多い。
- ・ 福祉サービスは、当事者にならないと調べるという事をしないので、情報が入ってこないです。日常の中で、知る事が出来たら良いと思います。
- ・ 言葉は聞いても内容がわからない事が多く、勉強や身近に内容を理解出来る機会を作ってほしいです。
- ・ 担当者によって対応の丁寧さや適切な説明が違う。スキルより、優しい説明を望む。
- ・ ボランティアに興味はあるが、きっかけや情報に自分から辿り着きづらいと思います。もっと分かりやすい形でボランティアに関する情報のとり方がわかると良いと思います。
- ・ みんな自分の生活で精一杯だと思うので、全くのボランティアにせず、半額くらいの賃金は支払われるべきだと思う。また、有能な人材を得るため、教育とある程度の試験を行うべきだと思う。難易度に応じて給与体系を整えて、人材を集めるのが良いと思う。また、がっちり参加できずとも、こまぎれならば参加できる人がたくさんいると思うので、参加しやすい体制をつくるのも良いと思う。
- ・ 障害者や高齢者でないために支援を受けづらい(難病患者など)に対する支援の充実や、支援に関する情報発信の強化をしてほしい。
- ・ いろいろ支援制度があると思いますが、何か必要になった時は、とにかく市役所に行くという考えです。一つ一つの制度の理解を利用者に促すことと並行して、まずはここに行けばなんとかなるという窓口を作って頂くことが必要だと思います。
- ・ 高齢者や障害者の方々が生活しやすく、分かりやすい、まちづくりが必要で、健常者は決して他人事と見てはならず、協力し合い、理解を深めることが大切だと思います。
- ・ このようなアンケートをすることがうれしい。困ったとき、相談していいのねと思える。

2 地域福祉団体

(1) 「身近な地域」について

問1 貴団体にとって「身近な地域」とは、どういった範囲のことだと思いますか。
あなたの感じる「身近な地域」の範囲に近いものを選んでください。
【〇は1つだけ】

「地区社会福祉協議会」の割合が32.4%と最も高く、次いで「自治会・町内会」の割合が23.9%、「区」の割合が13.1%となっています。



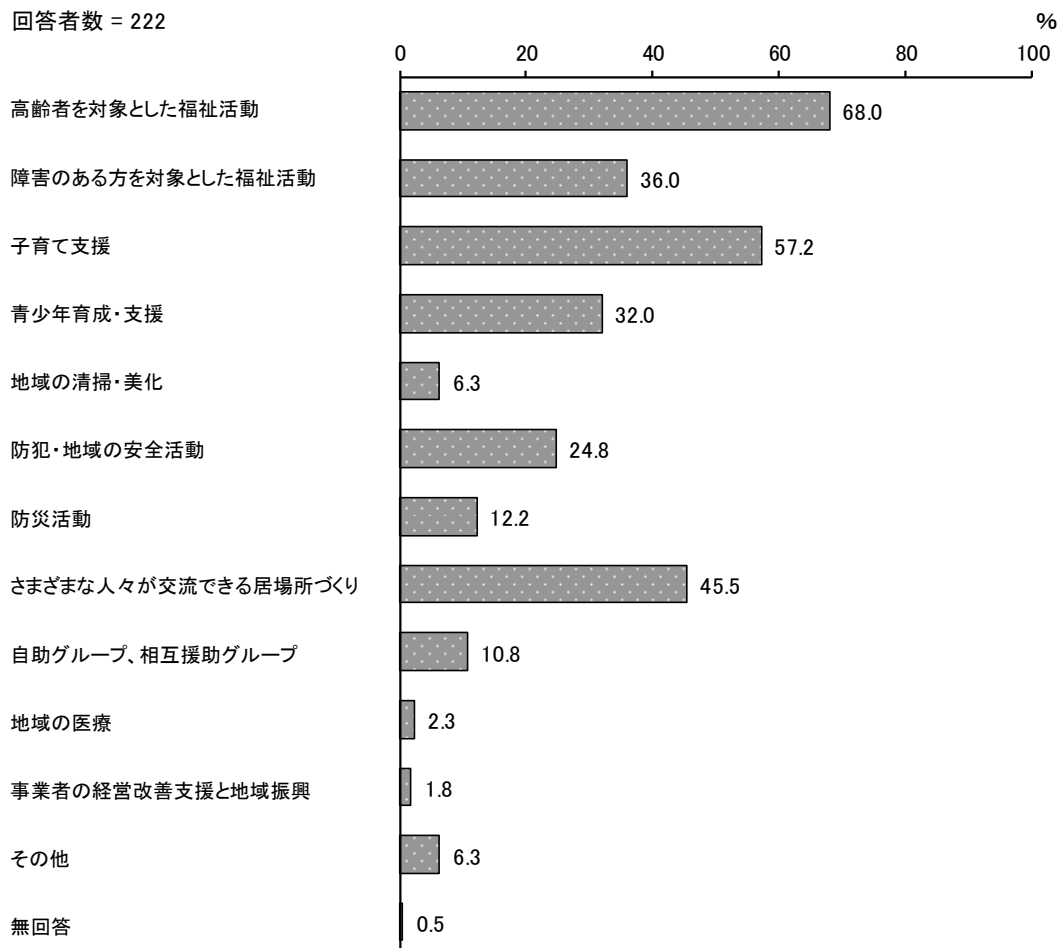
(2) 日ごろの活動・業務について

問2 貴団体は、どのような活動・業務を行っていますか。

【○はあてはまるものすべて】

「高齢者を対象とした福祉活動」の割合が68.0%と最も高く、次いで「子育て支援」の割合が57.2%、「さまざまな人々が交流できる居場所づくり」の割合が45.5%となっています。

回答者数 = 222



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地区社会福祉協議会、地域包括支援センターで「高齢者を対象とした福祉活動」の割合が、障害者生活支援センターで「障害のある方を対象とした福祉活動」の割合が高くなっています。また、地区民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会で「子育て支援」の割合が高くなっています。

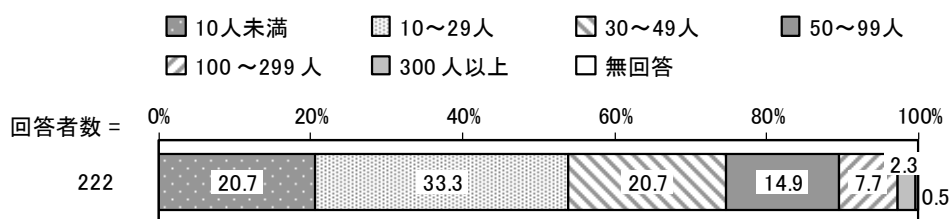
単位：％

区分	回答者数 (件)	高齢者を対象とした福祉活動	障害のある方を対象とした福祉活動	子育て支援	青少年育成・支援	地域の清掃・美化	防犯・地域の安全活動
地区社会福祉協議会	50	100.0	54.0	72.0	70.0	6.0	52.0
地区民生委員児童委員協議会	44	95.5	43.2	79.5	63.6	11.4	45.5
地域包括支援センター	25	100.0	12.0	4.0	—	—	20.0
障害者生活支援センター	10	—	100.0	—	—	—	—
社会福祉法人	93	36.6	22.6	59.1	8.6	6.5	4.3

区分	防災活動	さまざまな人々が交流できる居場所づくり	自助グループ、相互援助グループ	地域の医療	事業者の経営改善支援と地域振興	その他	無回答
地区社会福祉協議会	22.0	82.0	14.0	—	—	6.0	—
地区民生委員児童委員協議会	25.0	54.5	11.4	—	4.5	4.5	2.3
地域包括支援センター	—	68.0	36.0	8.0	4.0	8.0	—
障害者生活支援センター	—	10.0	—	—	—	—	—
社会福祉法人	5.4	19.4	3.2	3.2	1.1	7.5	—

問3 日ごろ活動・業務を行っているメンバー・職員は何人ですか。【〇は1つだけ】

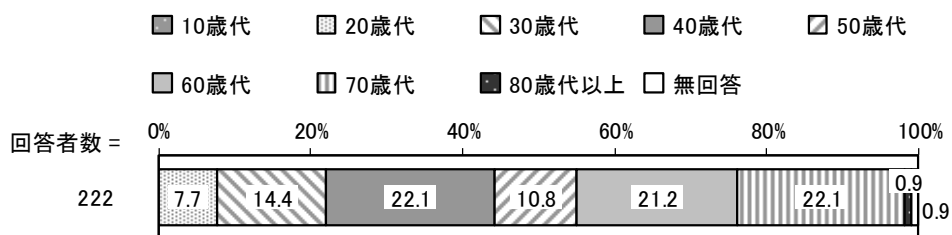
「10～29人」の割合が33.3%と最も高く、次いで「10人未満」、「30～49人」の割合が20.7%となっています。



問4 日ごろ活動・業務を行っているメンバー・職員の年齢層は何歳代が中心ですか。「最も多い年代」と「次に多い年代」を次から選び、下の回答欄に数字を記入してください。【選択肢の番号を記入してください】

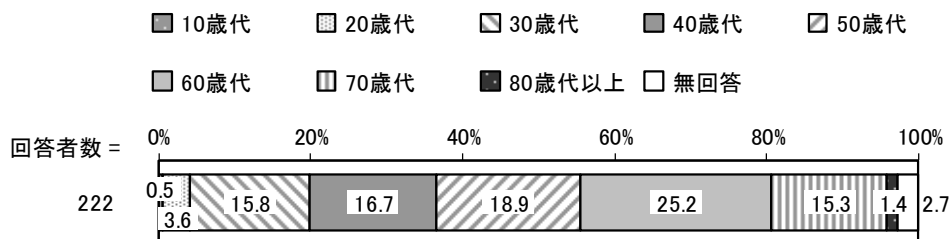
「最も多い年代」

「40歳代」、「70歳代」の割合が22.1%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が21.2%となっています。



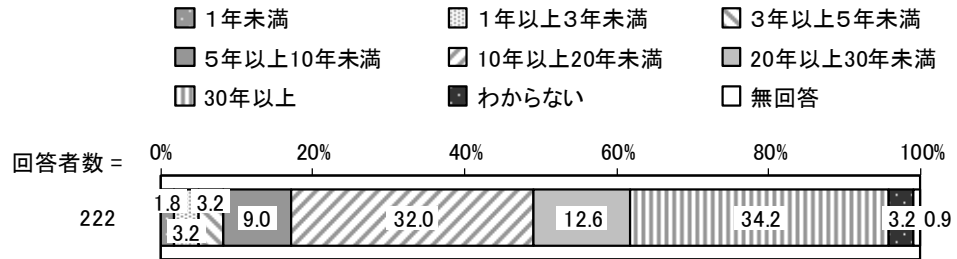
「次に多い年代」

「60歳代」の割合が25.2%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が18.9%、「40歳代」の割合が16.7%となっています。



問5 貴団体は、活動・業務を始めてからどれくらいになりますか。通算の年数でお答えください。【〇は1つだけ】

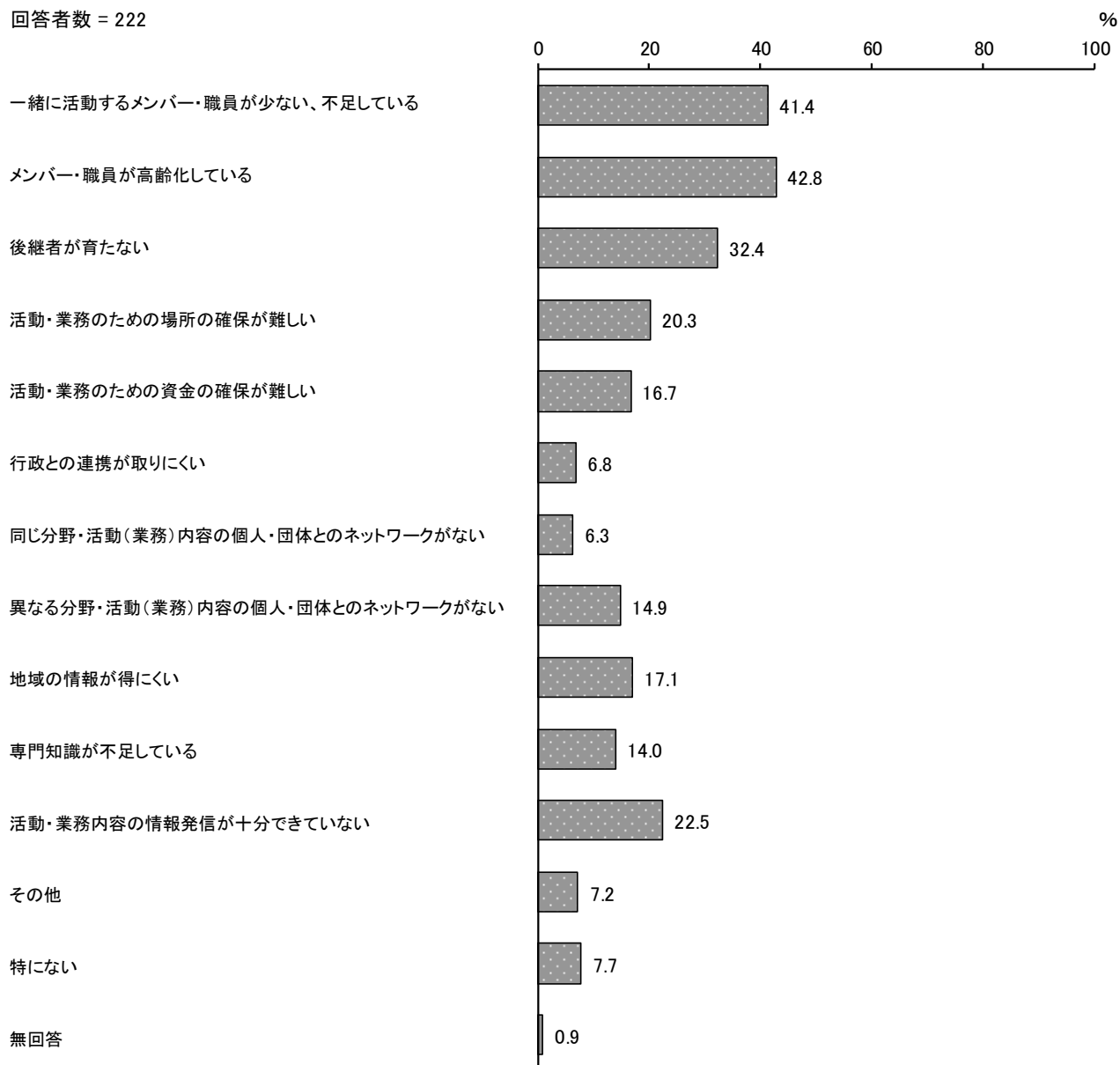
「30年以上」の割合が34.2%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」の割合が32.0%、「20年以上30年未満」の割合が12.6%となっています。



問6 貴団体が、活動・業務を行う上で困っていることは、次のどれですか。
【〇はあてはまるものすべて】

「メンバー・職員が高齢化している」の割合が42.8%と最も高く、次いで「一緒に活動するメンバー・職員が少ない、不足している」の割合が41.4%、「後継者が育たない」の割合が32.4%となっています。

回答者数 = 222



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地区民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会で「メンバー・職員が高齢化している」「後継者が育たない」「専門知識が不足している」の割合が、地域包括支援センターで「活動・業務のための場所の確保が難しい」「活動・業務内容の情報発信が十分できていない」の割合が高くなっています。また、障害者生活支援センターで「活動・業務のための資金の確保が難しい」「行政との連携が取りにくい」の割合が高くなっています。

単位：％

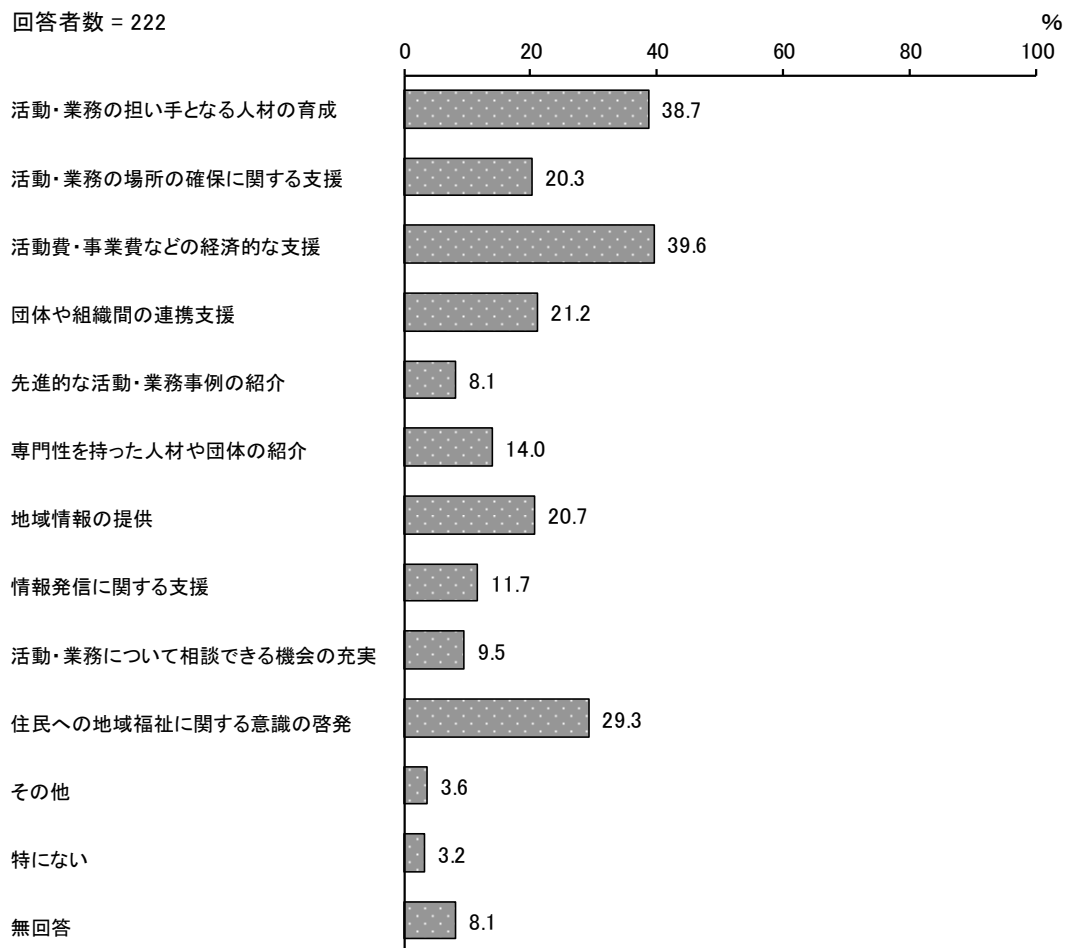
区分	回答者数（件）	一緒に活動するメンバー・職員が少ない、不足している	メンバー・職員が高齢化している	後継者が育たない	活動・業務のための場所の確保が難しい	活動・業務のための資金の確保が難しい	行政との連携が取りにくい	同じ分野・活動（業務）内容の個人・団体とのネットワークがない
地区社会福祉協議会	50	30.0	74.0	56.0	30.0	22.0	2.0	2.0
地区民生委員児童委員協議会	44	22.7	65.9	50.0	9.1	4.5	6.8	15.9
地域包括支援センター	25	48.0	20.0	20.0	52.0	8.0	8.0	4.0
障害者生活支援センター	10	60.0	—	20.0	10.0	40.0	50.0	—
社会福祉法人	93	52.7	25.8	16.1	12.9	19.4	4.3	5.4

区分	異なる分野・活動（業務）内容の個人・団体とのネットワークがない	地域の情報が得にくい	専門知識が不足している	活動・業務内容の情報発信が十分できていない	その他	特にない	無回答
地区社会福祉協議会	14.0	12.0	22.0	10.0	8.0	6.0	—
地区民生委員児童委員協議会	15.9	18.2	18.2	27.3	6.8	4.5	2.3
地域包括支援センター	16.0	16.0	8.0	48.0	16.0	—	—
障害者生活支援センター	10.0	10.0	—	20.0	—	—	—
社会福祉法人	15.1	20.4	10.8	20.4	5.4	12.9	1.1

問7 地域活動・業務を行う上で、行政にどのような支援を求めますか。
【〇は3つまで】

「活動費・事業費などの経済的な支援」の割合が39.6%と最も高く、次いで「活動・業務の担い手となる人材の育成」の割合が38.7%、「住民への地域福祉に関する意識の啓発」の割合が29.3%となっています。

回答者数 = 222



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地区社会福祉協議会、障害者生活支援センターで「活動・業務の担い手となる人材の育成」の割合が、地域包括支援センターで「活動・業務の場所の確保に関する支援」「情報発信に関する支援」の割合が高くなっています。また、地域包括支援センター、社会福祉法人で「活動費・事業費などの経済的な支援」の割合が高くなっています。

単位：%

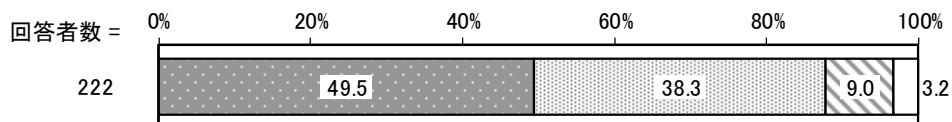
区分	回答者数 (件)	活動・業務の担い手 となる人材の育成	活動・業務の場所の 確保に関する支援	活動費・事業費など の経済的な支援	団体や組織間の連 携支援	先進的な活動・業務 事例の紹介	専門性を持った人 材や団体の紹介
地区社会福祉協議会	50	52.0	28.0	40.0	14.0	4.0	12.0
地区民生委員児童委員協議会	44	38.6	2.3	11.4	29.5	13.6	18.2
地域包括支援センター	25	32.0	48.0	48.0	24.0	4.0	12.0
障害者生活支援センター	10	60.0	—	30.0	50.0	—	10.0
社会福祉法人	93	31.2	19.4	51.6	17.2	9.7	14.0

区分	地域情報の提供	情報発信に関する 支援	活動・業務について 相談できる機会の 充実	住民への地域福祉 に関する意識の啓 発	その他	特 に な い	無 回 答
地区社会福祉協議会	20.0	14.0	8.0	34.0	6.0	2.0	8.0
地区民生委員児童委員協議会	38.6	9.1	9.1	52.3	4.5	—	9.1
地域包括支援センター	12.0	24.0	8.0	32.0	—	4.0	8.0
障害者生活支援センター	10.0	—	10.0	20.0	10.0	—	20.0
社会福祉法人	16.1	9.7	10.8	16.1	2.2	5.4	6.5

**問8 貴団体は、日ごろ交流や連携を図っている他団体（行政を除く）がありますか。
【〇は1つだけ】**

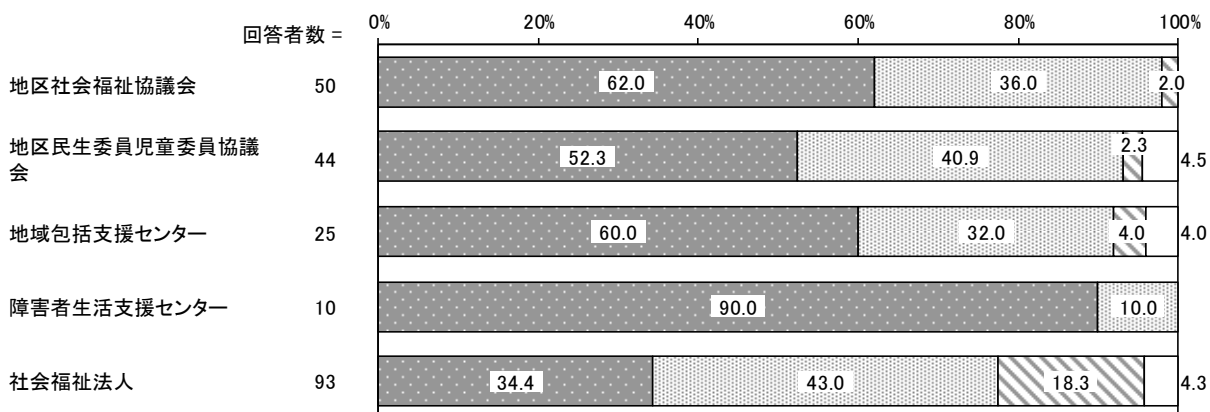
「定期的交流や連携を図っている他団体がある」の割合が49.5%と最も高く、次いで「定期的ではないが、交流や連携を図っている他団体がある」の割合が38.3%となっています。

- 定期的交流や連携を図っている他団体がある
- ▨ 定期的ではないが、交流や連携を図っている他団体がある
- ▧ 交流や連携を図っている他団体はない
- 無回答



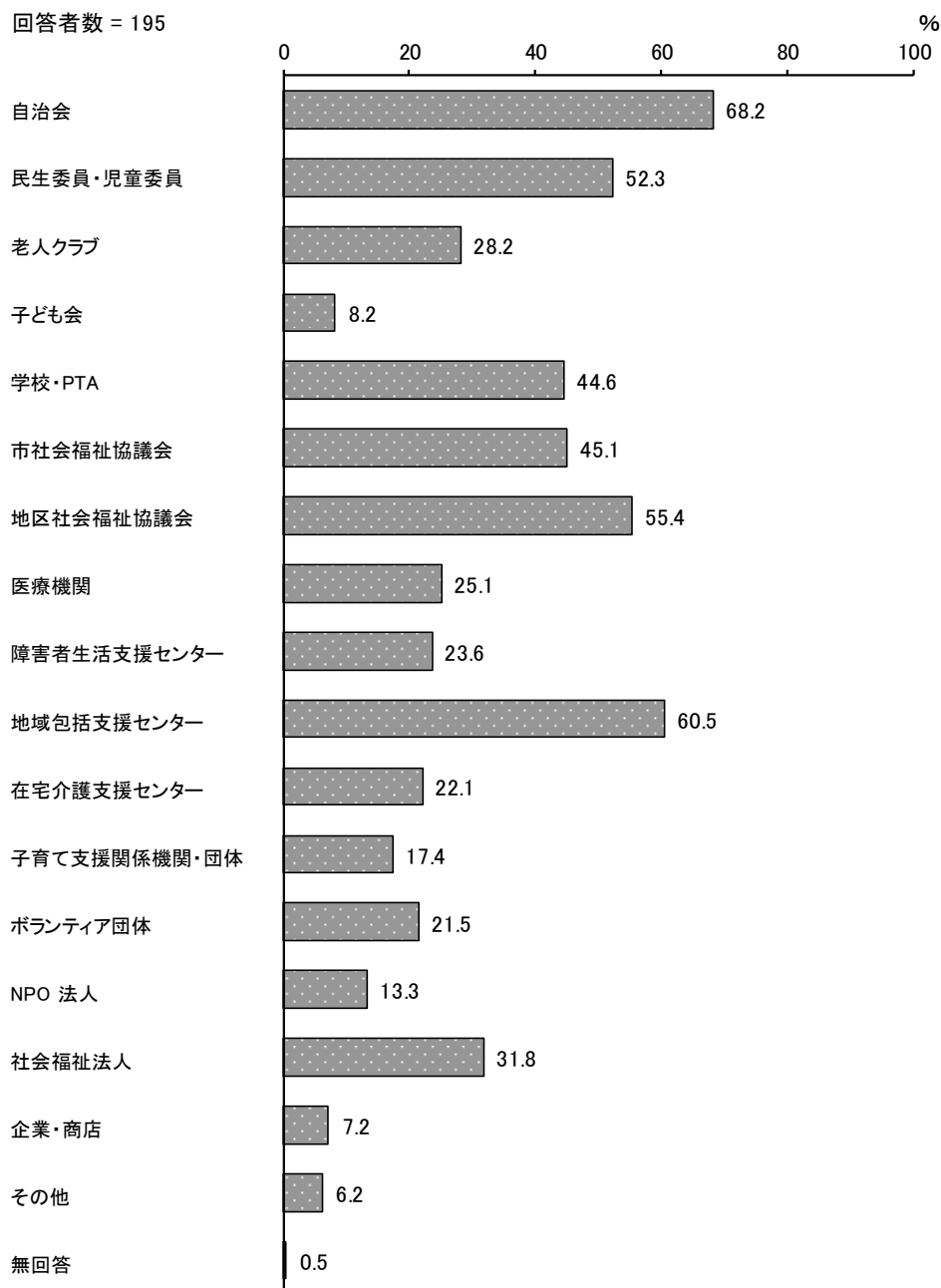
【団体別】

団体別でみると、他に比べ、障害者生活支援センターで「定期的交流や連携を図っている他団体がある」の割合が、地区民生委員児童委員協議会、社会福祉法人で「定期的ではないが、交流や連携を図っている他団体がある」の割合が高くなっています。また、社会福祉法人で「交流や連携を図っている他団体はない」の割合が高くなっています。



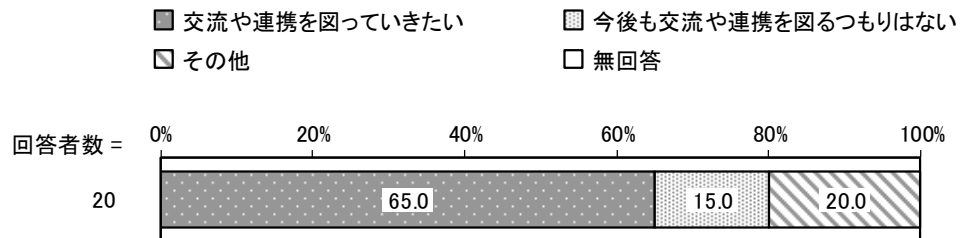
問9 問8で「定期的に交流や連携を図っている他団体がある」又は「定期的ではないが、交流や連携を図っている他団体がある」に○をつけた団体にお伺いします。日ごろ交流や連携を図っている他団体はどのような団体ですか。【○はあてはまるものすべて】

「自治会」の割合が 68.2%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」の割合が 60.5%、「地区社会福祉協議会」の割合が 55.4%となっています。



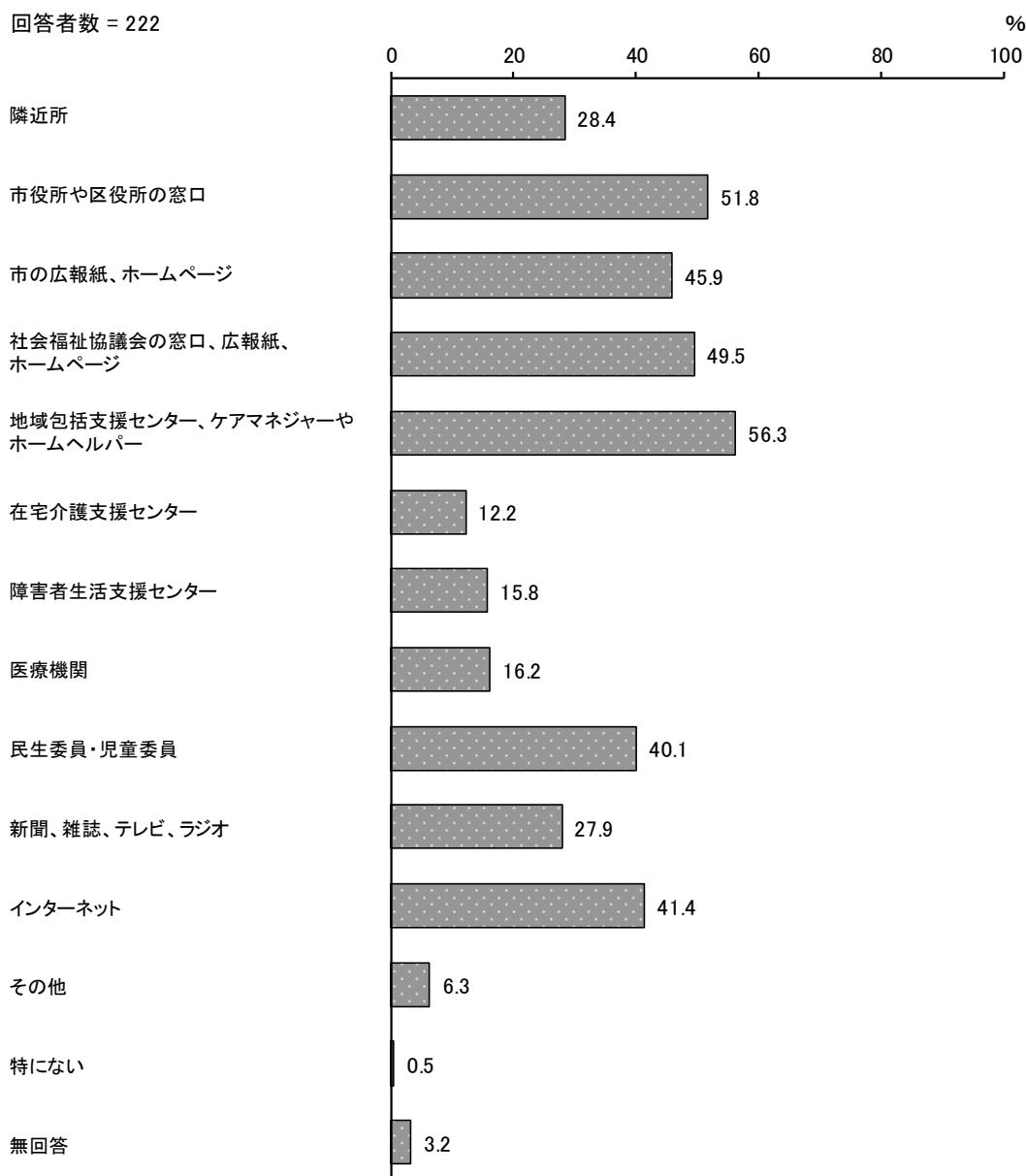
問 10 問 8 で「交流や連携を図っている他団体はない」に○をつけた団体にお伺いします。
今後、他団体（行政を除く）との交流や連携を図っていききたいですか。
【○は1つだけ】

「交流や連携を図っていききたい」の割合が 65.0%、「今後も交流や連携を図るつもりはない」の割合が 15.0%となっています。



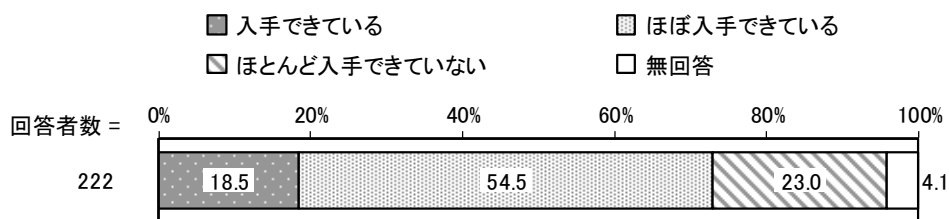
問 11 貴団体は、日ごろの活動業務において必要な情報をどこから得ていますか。
【〇はあてはまるものすべて】

「地域包括支援センター、ケアマネジャーやホームヘルパー」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「市役所や区役所の窓口」の割合が 51.8%、「社会福祉協議会の窓口、広報紙、ホームページ」の割合が 49.5%となっています。



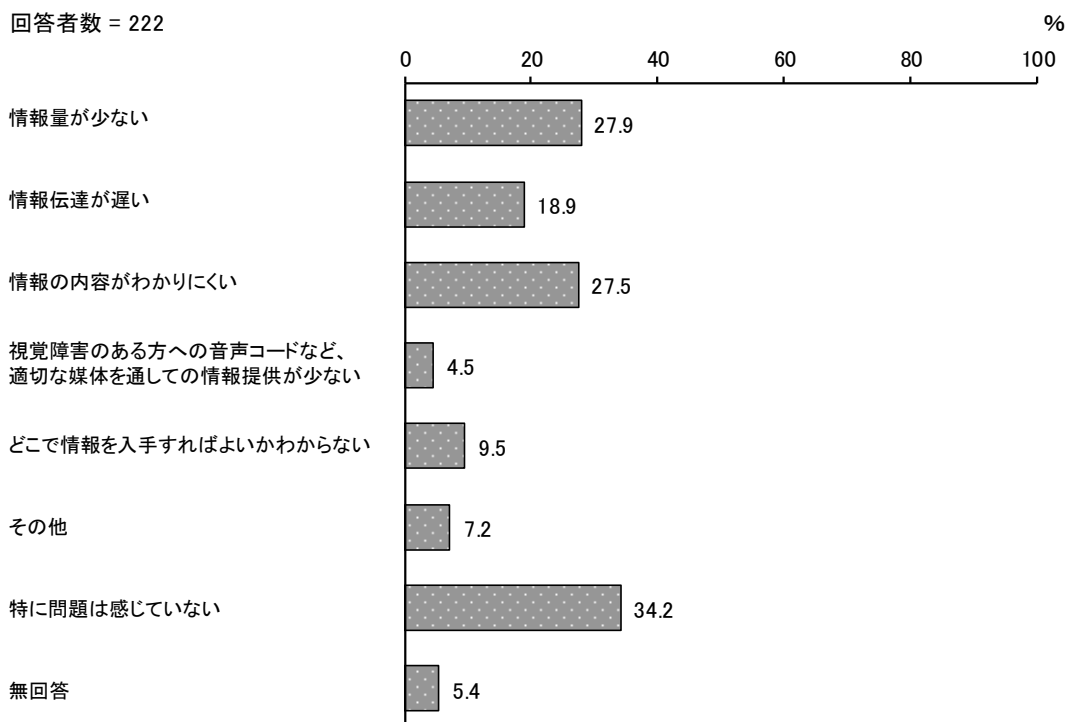
問 12 貴団体は、市の子ども、高齢者、障害のある方などの福祉に関する情報を入手できていますか。【○は1つだけ】

「ほぼ入手できている」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「ほとんど入手できていない」の割合が 23.0%、「入手できている」の割合が 18.5%となっています。



問 13 市からの情報の入手について、どのように感じていますか。【○はあてはまるものすべて】

「特に問題は感じていない」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「情報量が少ない」の割合が 27.9%、「情報の内容がわかりにくい」の割合が 27.5%となっています。



【福祉に関する情報が入手できているか別】

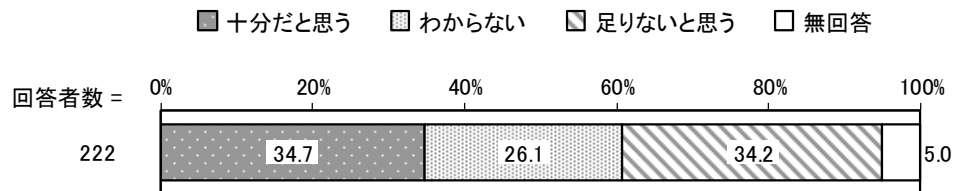
福祉に関する情報が入手できているか別でみると、他に比べ、ほとんど入手できていないで「情報量が少ない」「情報の内容がわかりにくい」「どこで情報を入手すればよいかわからない」の割合が、入手できている、ほぼ入手できているで「特に問題は感じていない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	情報量が少ない	情報伝達が遅い	情報の内容がわかりにくい	視覚障害のある方への音声 コードなど、適切な媒体を 通しての情報提供が少ない	どこで情報を入手すればよ いかわからない	その他	特に問題は感じていない	無回答
入手できている	41	14.6	24.4	19.5	7.3	4.9	7.3	46.3	4.9
ほぼ入手できている	121	26.4	15.7	28.1	3.3	9.1	6.6	40.5	1.7
ほとんど入手できていない	51	47.1	21.6	33.3	5.9	15.7	9.8	15.7	2.0

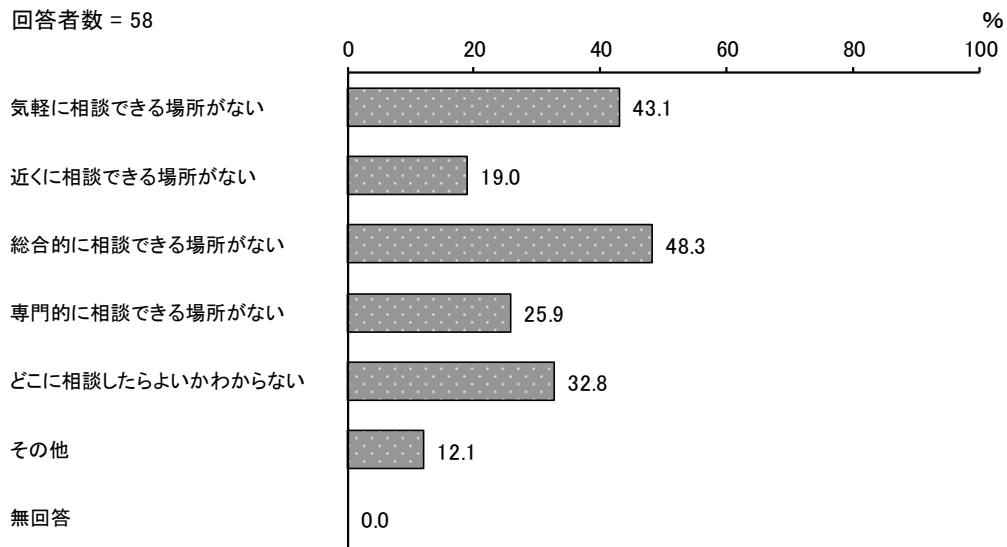
問 14 さいたま市では、区役所の相談窓口や社会福祉協議会、地域の民生委員・児童委員、地域包括支援センター等において福祉相談に対応しています。貴団体では、現在の相談支援体制は十分だと思いますか。【○は1つだけ】

「十分だと思う」の割合が 34.7%と最も高く、次いで「足りないと思う」の割合が 34.2%、「わからない」の割合が 26.1%となっています。



問 15 問 14 で「わからない」に○をつけた方にお伺いします。
どのようなことが足りないと思いますか。【○はあてはまるものすべて】

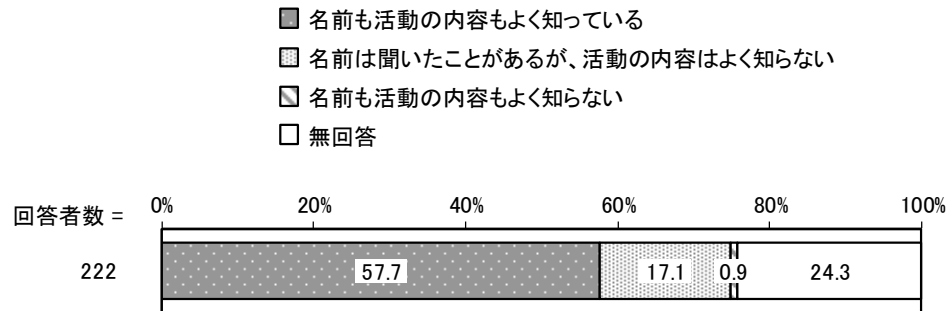
「総合的に相談できる場所がない」の割合が 48.3%と最も高く、次いで「気軽に相談できる場所がない」の割合が 43.1%、「どこに相談したらよいかわからない」の割合が 32.8%となっています。



(3) 社会福祉協議会について

問 16 地域福祉を推進し、社会福祉への住民参加を促し意識の高揚を図るための諸活動を行う「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」があります。貴団体はこの組織をご存知ですか。【○は1つだけ】

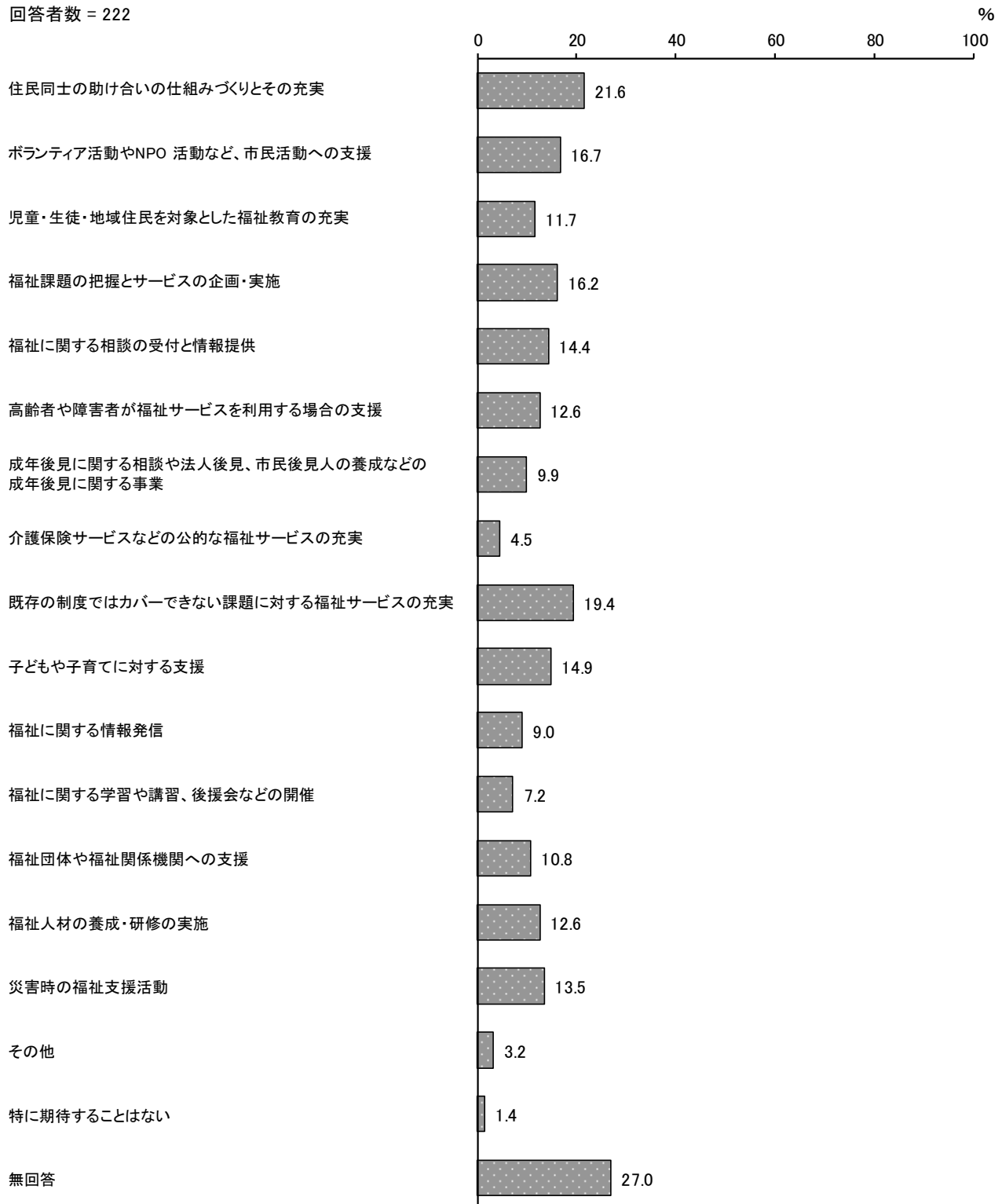
「名前も活動の内容もよく知っている」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」の割合が 17.1%となっています。



問 17 貴団体は、「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」に、特にどのようなことを期待しますか。【〇は3つまで】

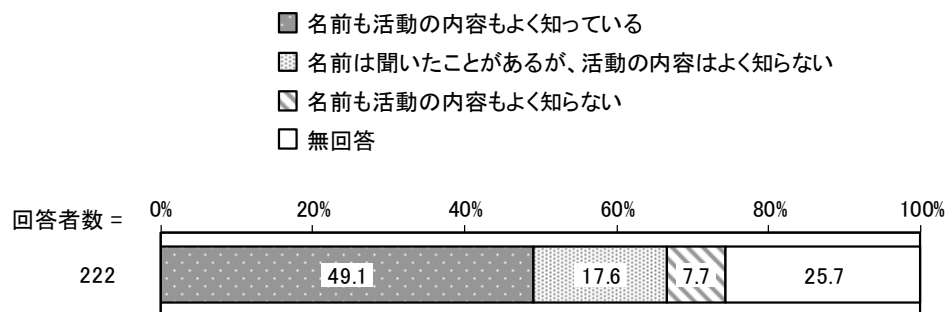
「住民同士の助け合いの仕組みづくりとその充実」の割合が 21.6%と最も高く、次いで「既存の制度ではカバーできない課題に対する福祉サービスの充実」の割合が 19.4%、「ボランティア活動やNPO 活動など、市民活動への支援」の割合が 16.7%となっています。

回答者数 = 222



問 18 住民の主体的な福祉活動により各地域の特色を活かした事業を展開し、福祉コミュニティづくりのための基礎組織として、「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」とは別に、市内に52の「地区社会福祉協議会」があります。貴団体はこの組織をご存知ですか。【○は1つだけ】

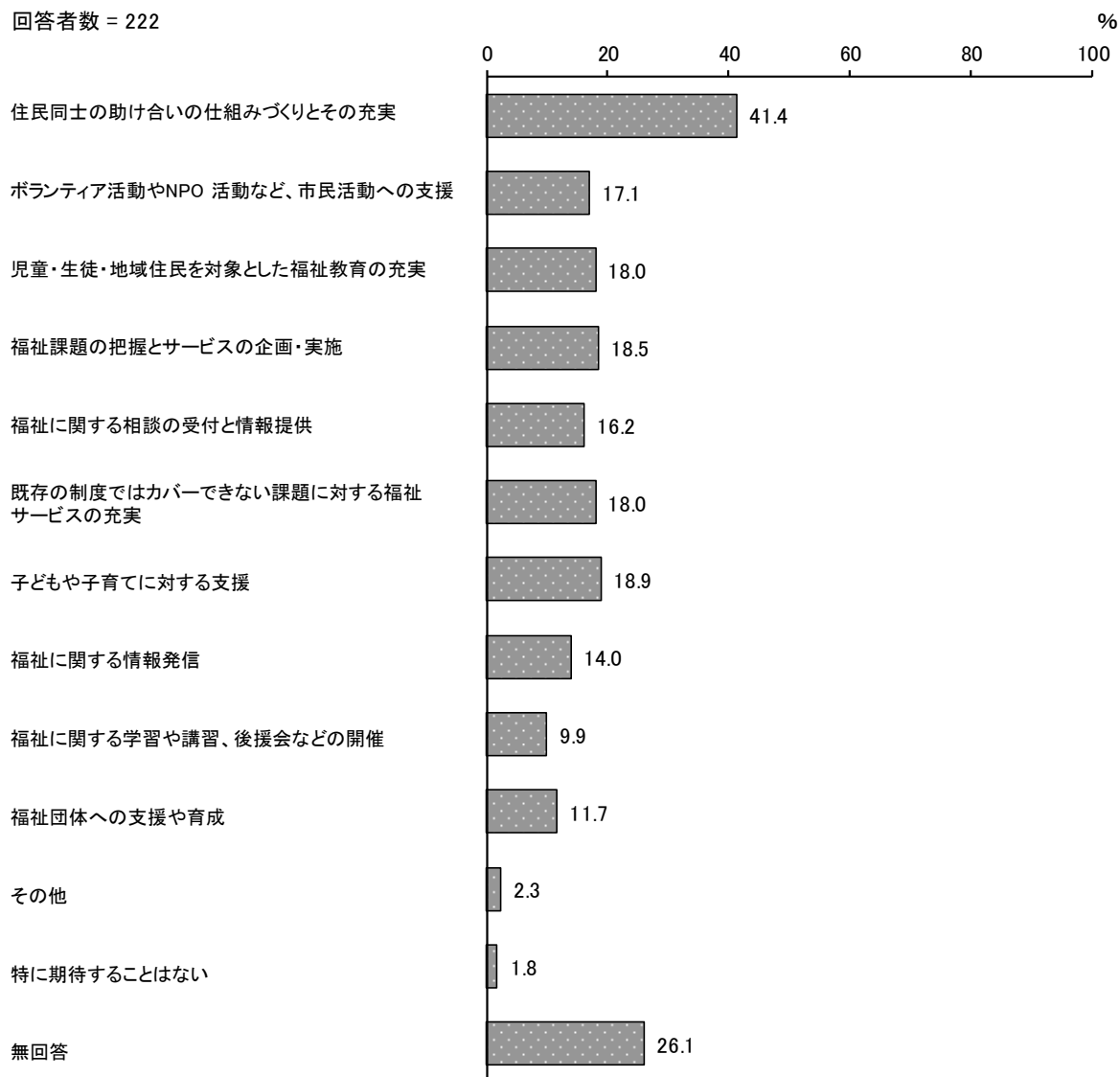
「名前も活動の内容もよく知っている」の割合が49.1%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」の割合が17.6%となっています。



問 19 貴団体は、「地区社会福祉協議会」に、特にどのようなことを期待しますか。
【〇は3つまで】

「住民同士の助け合いの仕組みづくりとその充実」の割合が 41.4%と最も高く、次いで「子どもや子育てに対する支援」の割合が 18.9%、「福祉課題の把握とサービスの企画・実施」の割合が 18.5%となっています。

回答者数 = 222

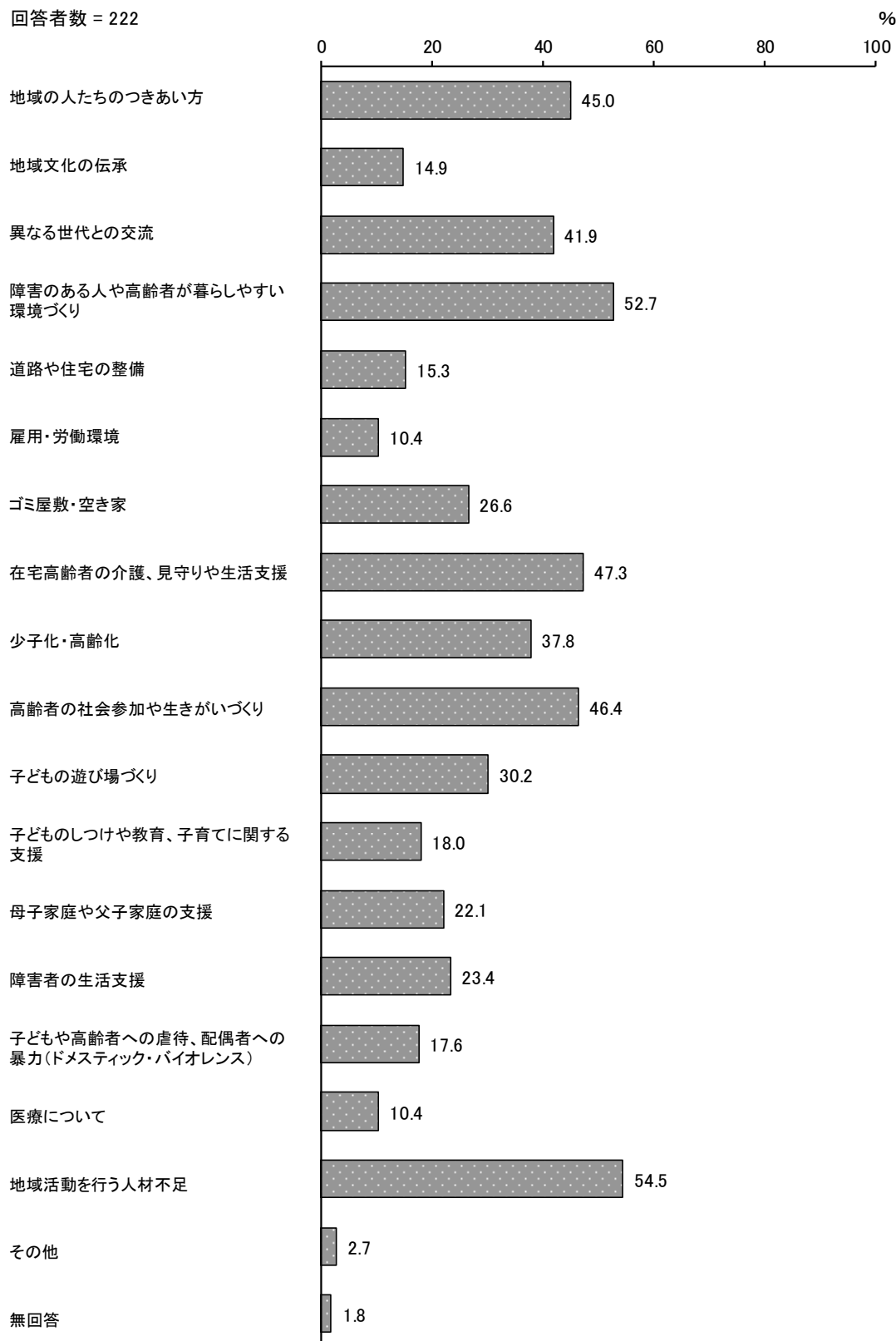


(4) 地域の生活課題について

問 20 日ごろの活動・業務を通じて感じている地域の課題には、どのようなことがありますか。【〇はあてはまるものすべて】

「地域活動を行う人材不足」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「障害のある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり」の割合が 52.7%、「在宅高齢者の介護、見守りや生活支援」の割合が 47.3%となっています。

回答者数 = 222



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、障害者生活支援センターで「地域の人たちのつきあい方」「障害のある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり」「雇用・労働環境」「子どものしつけや教育、子育てに関する支援」「障害者の生活支援」「医療について」の割合が、地域包括支援センターで「ゴミ屋敷・空き家」「在宅高齢者の介護、見守りや生活支援」「高齢者の社会参加や生きがいづくり」「子どもや高齢者への虐待、配偶者への暴力（ドメスティック・バイオレンス）」の割合が高くなっています。また、地区社会福祉協議会で「異なる世代との交流」「少子化・高齢化」「地域活動を行う人材不足」の割合が高くなっています。

単位：％

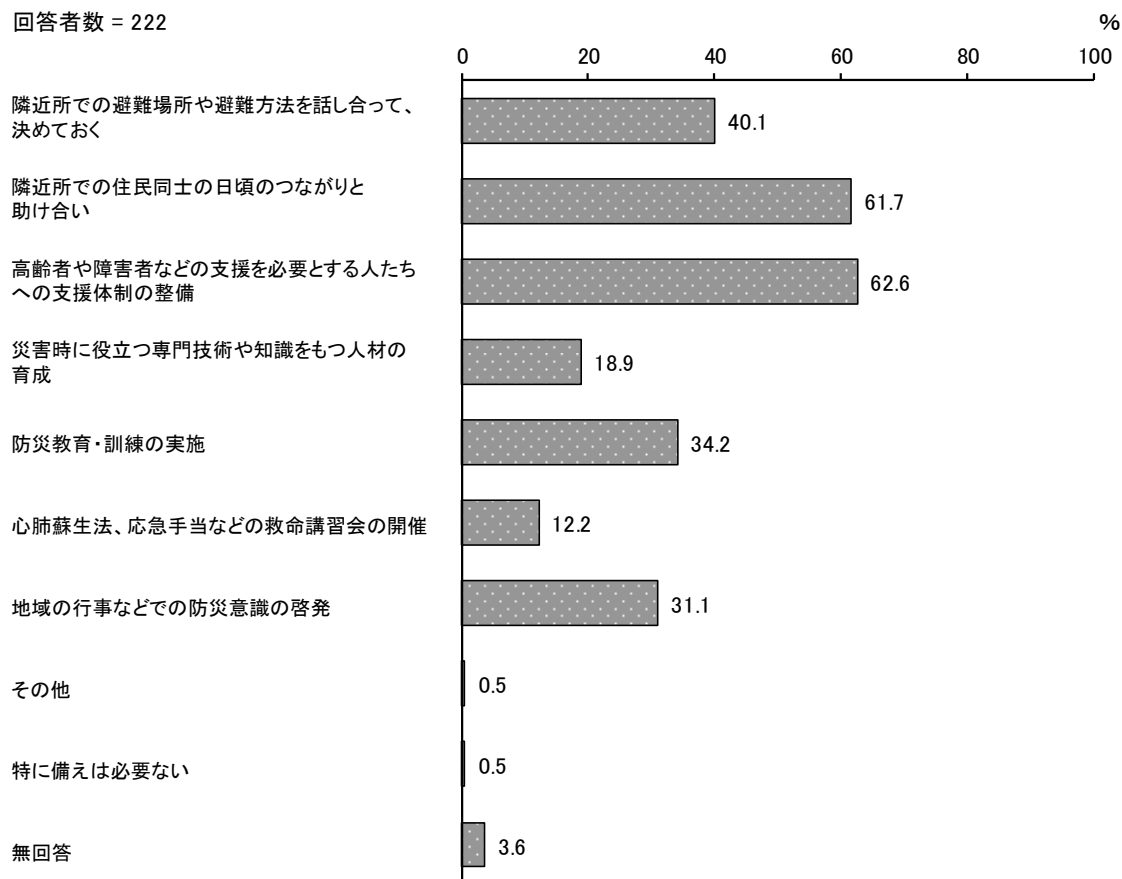
区分	回答者数（件）	地域の人たちのつきあい方	地域文化の伝承	異なる世代との交流	障害のある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり	道路や住宅の整備	雇用・労働環境	ゴミ屋敷・空き家	在宅高齢者の介護、見守りや生活支援	少子化・高齢化
地区社会福祉協議会	50	52.0	16.0	64.0	60.0	14.0	6.0	32.0	62.0	56.0
地区民生委員児童委員協議会	44	54.5	18.2	52.3	59.1	11.4	—	36.4	56.8	29.5
地域包括支援センター	25	52.0	20.0	48.0	56.0	20.0	8.0	68.0	80.0	36.0
障害者生活支援センター	10	60.0	20.0	20.0	100.0	10.0	30.0	40.0	50.0	20.0
社会福祉法人	93	33.3	10.8	25.8	39.8	17.2	16.1	6.5	25.8	34.4

区分	高齢者の社会参加や生きがいづくり	子どもの遊び場づくり	子どものしつけや教育、子育てに関する支援	母子家庭や父子家庭の支援	障害者の生活支援	子どもや高齢者への虐待、配偶者への暴力（ドメスティック・バイオレンス）	医療について	地域活動を行う人材不足	その他	無回答
地区社会福祉協議会	66.0	38.0	14.0	30.0	16.0	8.0	10.0	80.0	6.0	—
地区民生委員児童委員協議会	47.7	20.5	9.1	25.0	15.9	13.6	2.3	68.2	—	2.3
地域包括支援センター	88.0	8.0	—	—	24.0	44.0	20.0	76.0	8.0	4.0
障害者生活支援センター	40.0	40.0	50.0	40.0	100.0	20.0	40.0	40.0	—	—
社会福祉法人	24.7	35.5	25.8	20.4	22.6	17.2	8.6	30.1	1.1	2.2

問 21 大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思いますか。(防災用品の備えを除く。)【〇は3つまで】

「高齢者や障害者などの支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「隣近所での住民同士の日頃のつながりと助け合い」の割合が 61.7%、「隣近所での避難場所や避難方法を話し合っ、決めておく」の割合が 40.1%となっています。

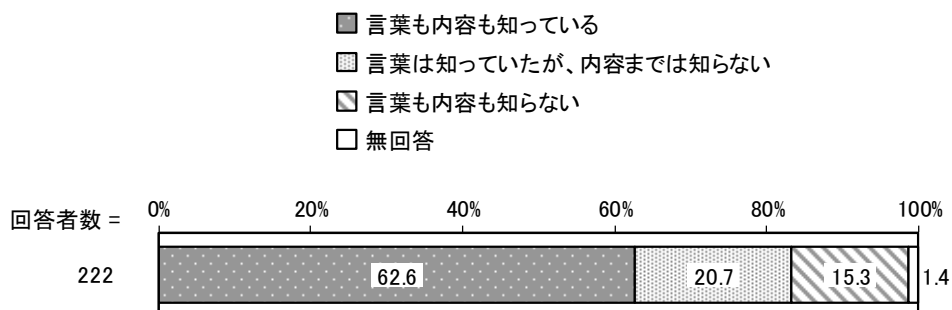
回答者数 = 222



(5) ケアラーについて

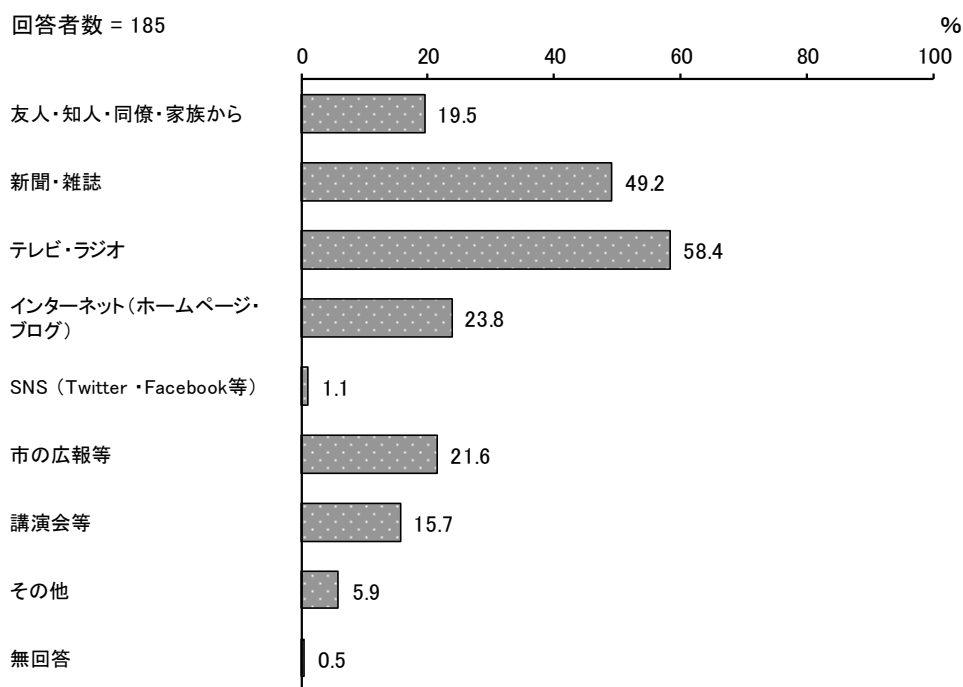
問 22 あなたは「ケアラー」という言葉を知っていますか。【〇は1つだけ】

「言葉も内容も知っている」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「言葉は知っていたが、内容までは知らない」の割合が 20.7%、「言葉も内容も知らない」の割合が 15.3%となっています。



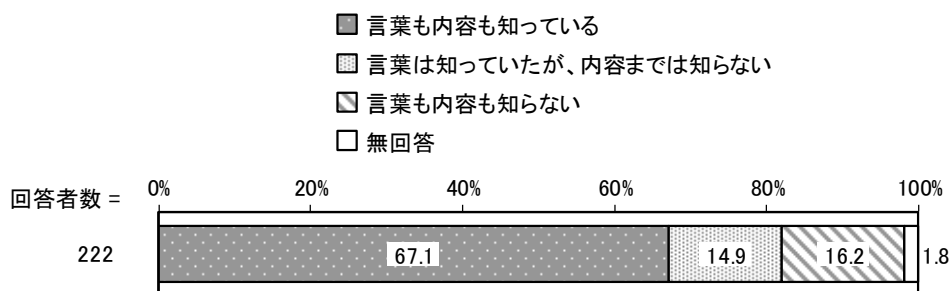
問 23 問 22 で「言葉も内容も知っている」または「言葉は知っていたが、内容までは知らない」と答えた方に伺います。 あなたは「ケアラー」という言葉をどこで知りましたか。 【〇はあてはまるものすべて】

「テレビ・ラジオ」の割合が 58.4%と最も高く、次いで「新聞・雑誌」の割合が 49.2%、「インターネット（ホームページ・ブログ）」の割合が 23.8%となっています。



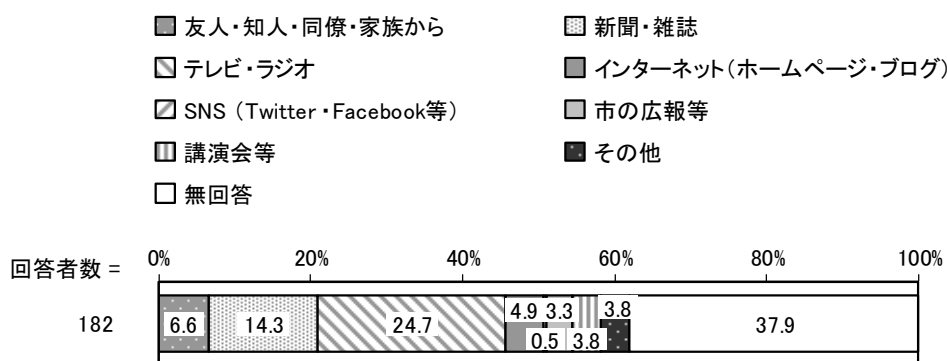
問 24 あなたは「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。【〇は1つだけ】

「言葉も内容も知っている」の割合が 67.1%と最も高く、次いで「言葉も内容も知らない」の割合が 16.2%、「言葉は知っていたが、内容までは知らない」の割合が 14.9%となっています。



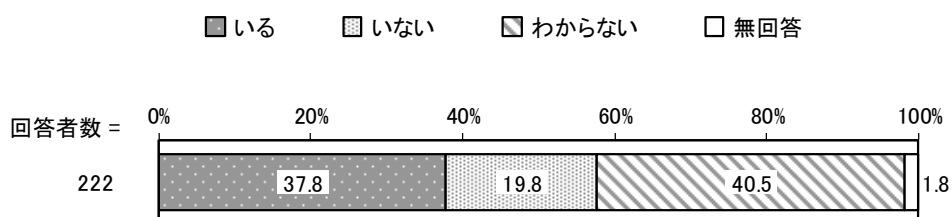
**問 25 問 24 で「言葉も内容も知っている」または「言葉は知っていたが、内容までは知らない」と答えた方に伺います。
あなたは「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。
【〇は1つだけ】**

「テレビ・ラジオ」の割合が 24.7%と最も高く、次いで「新聞・雑誌」の割合が 14.3%となっています。



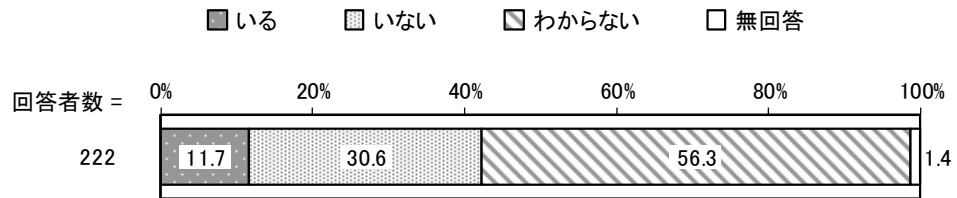
**問 26 貴団体での活動の中で、身近にケアラーと思われる人はいますか。
【〇は1つだけ】**

「わからない」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「いる」の割合が 37.8%、「いない」の割合が 19.8%となっています。



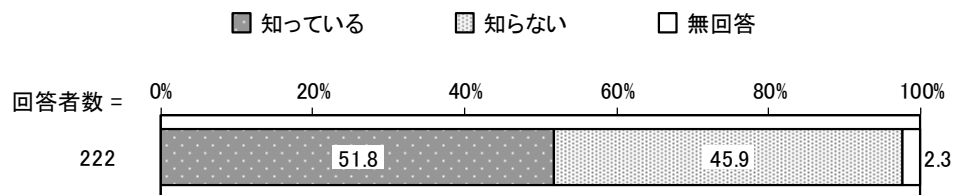
**問 27 貴団体での活動の中で、身近にヤングケアラーと思われる人はいますか。
【〇は1つだけ】**

「わからない」の割合が56.3%と最も高く、次いで「いない」の割合が30.6%、「いる」の割合が11.7%となっています。



問 28 あなたは、身近で困っているケアラー又はヤングケアラーの方がいた場合、どこに相談したらよいか知っていますか。【〇は1つだけ】

「知っている」の割合が51.8%、「知らない」の割合が45.9%となっています。

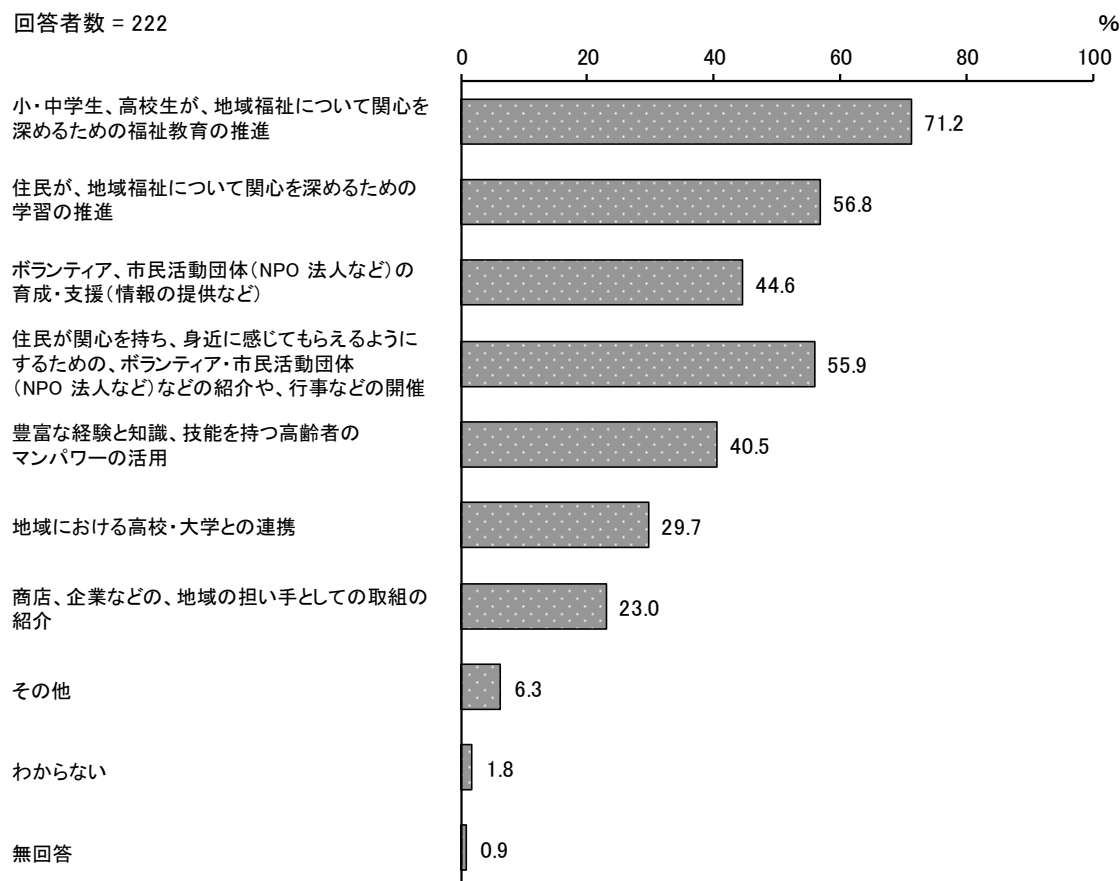


(6) 今後の地域福祉について

問 29 地域課題に取り組むための地域の担い手を増やすには、どのようにしたらよいとお考えですか。【〇はあてはまるものすべて】

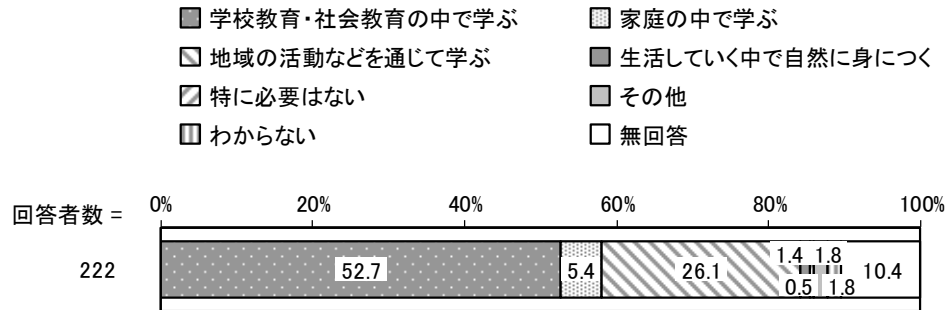
「小・中学生、高校生が、地域福祉について関心を深めるための福祉教育の推進」の割合が71.2%と最も高く、次いで「住民が、地域福祉について関心を深めるための学習の推進」の割合が56.8%、「住民が関心を持ち、身近に感じてもらえるようにするための、ボランティア・市民活動団体（NPO 法人など）などの紹介や、行事などの開催」の割合が55.9%となっています。

回答者数 = 222



問 30 福祉教育（思いやりの心や福祉への理解と参加の心を育てる教育）について、主にどのように行うべきだと思いますか。【○は1つだけ】

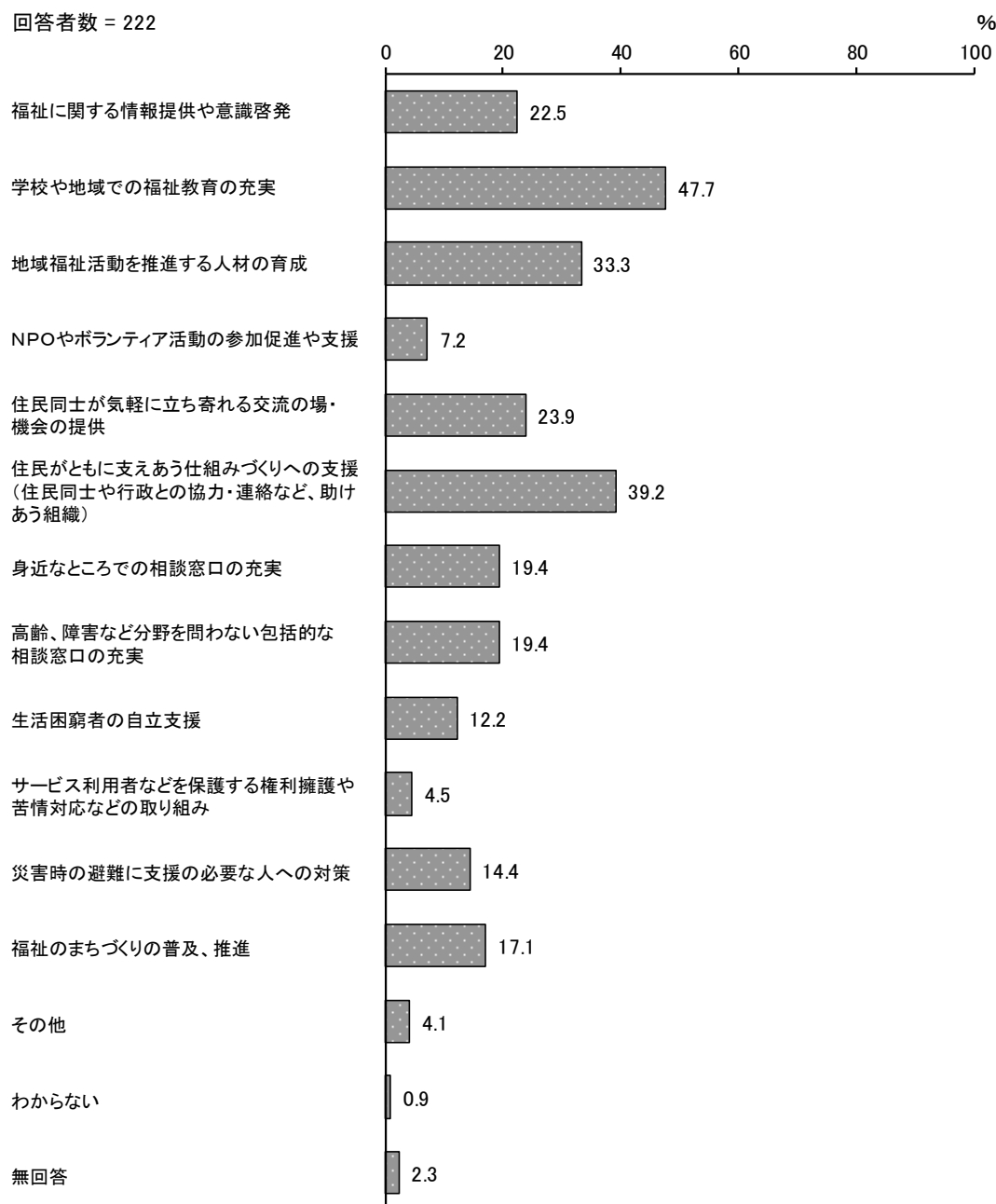
「学校教育・社会教育の中で学ぶ」の割合が 52.7%と最も高く、次いで「地域の活動などを通じて学ぶ」の割合が 26.1%となっています。



問 31 今後、市が取り組むべき施策は、どれを優先して充実すべきだと思いますか。
【〇は3つまで】

「学校や地域での福祉教育の充実」の割合が47.7%と最も高く、次いで「住民がともに支えあ
う仕組みづくりへの支援(住民同士や行政との協力・連絡など、助けあう組織)」の割合が39.2%、
「地域福祉活動を推進する人材の育成」の割合が33.3%となっています。

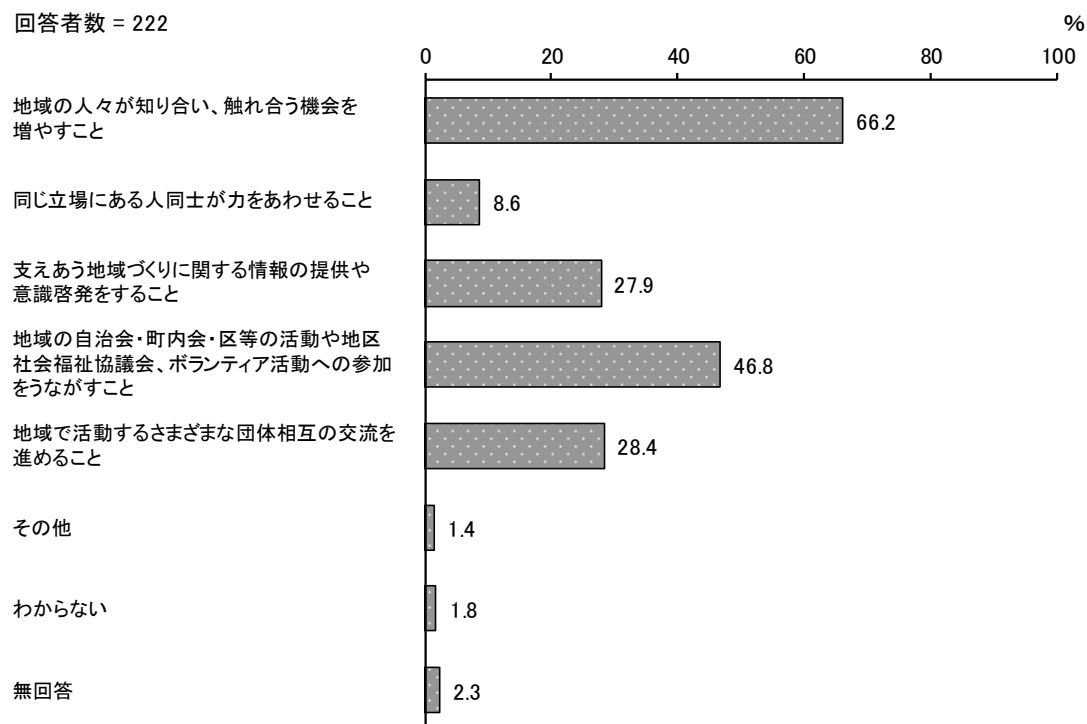
回答者数 = 222



問 32 住民同士がともに支えあう地域づくりを進めるために、どのようなことを行う必要があると思いますか。【〇は2つまで】

「地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと」の割合が 66.2%と最も高く、次いで「地域の自治会・町内会・区等の活動や地区社会福祉協議会、ボランティア活動への参加をうながすこと」の割合が 46.8%、「地域で活動するさまざまな団体相互の交流を進めること」の割合が 28.4%となっています。

回答者数 = 222



◆ともに支えあい、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりについて、ご意見等がございましたらご自由にお書きください。

【主な意見】

- ・ 定年を迎える世代に就労促進するだけでなく、地域づくりに関心を持ってもらえるような、希望をもって今後の生活が送れる社会になるような複合的なイベントをやってもらいたい。
- ・ 高齢者、障害者、育児中の親や介護中の方、引きこもりやLGBTQ等当事者各々が住みにくさや不安を地域に対してどのように感じているのか、当事者が感じていることを人ごとでなく自分ごととして、他の地域の話ではなく、自身の地域での事実として知ることができる機会があるとありがたいです。
- ・ 地域では担い手が高齢化しており、活動が十分にできない団体もあります。地域に携わっている様々な団体、組織が分野を問わず、どのような取り組みをしているのか情報共有できる場があると、それぞれの悩みや課題が見えてきて、地域づくりのヒントになるのではないかと思います。
- ・ まずは地域でのゴミ拾い活動、公園の雑草取り等、子供から老人まで全世代で活動できたらいいと思います。ラジオ体操または健康体操とかもいいですね。挨拶笑顔でね。
- ・ ゴミゼロ運動や地域のお祭りなど参加しやすい地域行事を行い顔見知りになる機会を増やす事が安心して住める地域造りに繋がると思います。
- ・ 地域（自治会、地区）での行事再開での交流、役割を担う分担作業は、誘って行事参加のみでも良いので身体と心の開放的行動できると良いと思う。
- ・ 地域の人相互協力で地域の和を図り顔が分かるつながりの街づくりを進めていく事を希望します。
- ・ 私どもの地区では、他地区からの転居者が多く、住民同志のつながりがなく、災害等の場合により被害が増大する恐れが生じると思います。地区内での「絆」を深める方法に苦慮しております。
- ・ 社会福祉法人として保育園を運営していますが、今後、子育て支援、地域の福祉事業の拠点としての活動を充実させたいと考えております。
- ・ 社会福祉法人の保育園として地域に根差した施設であるべきと考えています。災害時、園舎を開放し地域の方が少しでもゆっくり休んで頂けるスペース、物資を備蓄しています。この点を、地域の方々に広報していきたいと存じます。
- ・ 一人ひとりが相手の立場になり物事を考えられるようになると地域性の改善につながると思う。自分以外の誰かのことを考えるためには、自分自身に余裕がなければいけない。そのためには、経済的、身体的安定をまず第一に目指すべきであると考えている。
- ・ 相談窓口の敷居を低くする、また相談に来られた人に寄り添った対応をしていく事が大切ではないでしょうか。何かあったら相談しようと気軽に思ってもらえる相談窓口、援助者が増えればと思います。
- ・ 困りごとのある市民が、専門の相談窓口へつながれるまちづくり。
- ・ 時代の変化の中で住み慣れた地域が住みなれない地域になってしまう方たちもおられると思います。そんな少数の方たちも応援できることがボランティアかなと思います。
- ・ 何事も、リーダーによる事が重要。教える的ではなく共に楽しむ、できる事を探すではない出来る事を楽しむなどの発想で、対応していただきたい。

Ⅲ 調査からみる課題のまとめ

○地域の関わりに対する意識

市民の近所との付き合いの程度について、あいさつをする程度の付き合いの人が7割と最も多く、付き合いがほとんどない人も1割以上となっており、平成23年度と比較すると増加しています。また、自治会・町内会活動などの地域活動へ参加している人は2割半ばとなっており、参加しない人は平成23年度と比較すると増加しており、地域のつながりが希薄化している傾向がうかがえます。特に若い世代ほど、その傾向は顕著となっています。

そのため、地域でのつながりをつくる上で、住民一人ひとりが地域での交流の場に参加し、居場所を見つけるための環境整備の検討が必要です。

○地域福祉に対する考えについて

隣近所に、介護や、子育て等で困っている方がいた場合、できる範囲で支援したいという意見もあります。また、団体からは、今後、市の取組むべき施策として、「住民がともに支え合う仕組みづくりへの支援」の割合が高くなっています。今後も、高齢者や障害のある人、子育て世代等の多様な人たちが、交流し、活動ができる住民主体の場づくりや交流の機会を通じて、市民相互の交流を深め、地域住民による支え合い活動を促進することが必要です。

市民からは福祉に関する情報提供や意識啓発が求められており、今後も、啓発活動の推進や福祉教育や交流活動の活性化により、子どもに限らず大人も含めて、福祉に対する意識の高揚を図っていくことが必要です。

○ボランティア活動に対する状況

自分にあった時間や内容の活動等があれば、ボランティア活動したいと考えている市民が3割程度となっています。また、隣近所に介護や、子育て等で困っている方がいた場合、できる範囲で支援したいという市民もおり、何らかの機会や場があれば、地域の支え合いや支え合い活動への参加意向のある市民がいることがうかがえます。そのため、ボランティア活動したいと考えている市民へのきっかけとなる情報発信や参加機会・場の充実、活動しやすい環境整備の検討が必要です。

○困りごとの相談に対する意識

市民の日常生活の不安や悩みとして、健康に対する意見が多く、次いで、自分や家族の老後のことや経済的な問題が挙がっており、家族や友人以外の相談先としては市の窓口、医療機関等が多くなっています。一方、どこに相談してよいかわからない人もいます。現在の相談支援体制に不足していることとして、「気軽に相談できる場所がない」が5割と最も高く、次いで「どこに相談したらよいかわからない」となっており、身近な相談の場や専門的な相談の場などの周知が十分でない状況がうかがえます。また、分野を問わない包括的な相談窓口の充実も求められています。

○福祉サービスに対する意識

利用者が自分に最適のサービスを安心して利用するための支援について、「福祉サービスに関する情報の提供を充実させる」が53.5%と最も高く、次いで「適切な相談対応やサービス選択の支援ができる体制を整える」となっており、利用者の立場に立った情報提供や相談支援等の充実が望まれています。今後も、誰もが安心して地域で暮らせるよう福祉サービスの周知を図るとともに、支援を必要とする人が必要なサービスを受けることができるよう、きめ細かなサービスの提供・充実が必要です。

○今後の地域福祉のあり方について

市民の地域への主体的な参加を促していくためには福祉に関する情報提供や意識啓発、学校や地域での福祉教育の充実が求められており、情報提供にあたってはわかりやすく、多様な情報提供が望まれています。

○地域福祉団体の日ごろの活動・業務について

活動団体メンバーの高齢化や人材不足が課題となっています。また、行政に求める支援として、活動・業務の担い手となる人材の育成が挙がっており、各種団体等への支援のため、地域福祉活動を担う人材育成の支援やボランティアに取り組む人の育成支援が必要です。

○地域の生活課題について

大地震などの災害に備えて、地域に必要な備えとして、「高齢者や障害者などの支援を必要とする人たちへの支援体制の整備」や「隣近所での住民同士の日頃のつながりと助け合い」が上位にあがっています。そのため、高齢者や障害のある人、若者等、地域で暮らすより多くの地域住民の参加を促進し、安心して生活のできる地域づくりが必要であるとともに、災害発生時や避難所等での支援体制の充実が必要です。

IV 調査票

さいたま市の地域福祉に関する意識調査

□■口福祉のまちづくりにあなたの声を！ □■口

【調査ご協力お願い】

○市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、心から深く感謝申し上げます。

○現在、本市では新しい「さいたま市第3期介護予防総合計画（地域福祉計画）」の策定に向けて、取り組みを始めたところです。この計画は、地域のまちが住み続けられ、安心して暮らせるまちづくりのため、市民や地域の健康・身体、企業と行政が連携し、地域住民が互いに助け合い、支えあう仕組みづくりを、とらえ、進めていくものです。

○本調査は、この取り組みの一環として実施するものです。この調査結果を通じて「地域福祉」に対する市民の皆さまの考え方や意見を伺っていただき、「地域福祉計画」策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。今後の福祉施策の策定に役立てていきたいと思っております。

○なお、今回の調査は、本市在住の18歳以上の方の中から、無作為に7,000名を抽出させていただきます。調査結果は適切で、統計的に処理します。ご記入いただいた調査票を公表したり、調査の目的以外に使用したりすることは一切ありません。

○大変お忙しい中、ご協力がご希望の皆さまご協力いただき、ご協力をお祈り申し上げます。

□■口 ご記入にあたっての注意事項 □■口

1. あてのびの本人が回答してください（ご家族と相談していただいても結構です）。また、本人が記入できない場合は、ご家族の方が本人の考えを聞きながらご記入ください。
2. 回答は、あてはまる答えの番号を○で囲むか、記号欄に記号を記入してください。「その他」を選択した場合は、その具体的な内容を（ ）の枠内に記入してください。
3. 選択する答えの数は「1つだけ」「あてはまるものすべて」「2つまで」などの指示にしたがってください。
4. ご記入後は、封筒の返信用封筒（切手不要）に入れ、**10月25日（月）までに**、郵便ポストにご投入ください。

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

さいたま市 保健福祉部 福祉課 福祉係 電話：048-829-1254 FAX：048-829-1961

番号	性別	年齢	職業	住居	世帯収入
1	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
2	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
3	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
4	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
5	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
6	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
7	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
8	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
9	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
10	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
11	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
12	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
13	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
14	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
15	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
16	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
17	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
18	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
19	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
20	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
21	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
22	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
23	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
24	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
25	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
26	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
27	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
28	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
29	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
30	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
31	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
32	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
33	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
34	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
35	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
36	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
37	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
38	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
39	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
40	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
41	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
42	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
43	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
44	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
45	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
46	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
47	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
48	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
49	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
50	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
51	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
52	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
53	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
54	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
55	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
56	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
57	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
58	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
59	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
60	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
61	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
62	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
63	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
64	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
65	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
66	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
67	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
68	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
69	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
70	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
71	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
72	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
73	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
74	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
75	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
76	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
77	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
78	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
79	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
80	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
81	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
82	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
83	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
84	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
85	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
86	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
87	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
88	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
89	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
90	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
91	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
92	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
93	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
94	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
95	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
96	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
97	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
98	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
99	男性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満
100	女性	65歳以上	専業主婦	市街地	100万円未満

◆はじめに、地域や近所との関わりについてお伺いします◆

問1 あなたにとって「身近な地域」とは、どういった範囲のことだと思いますか。あなたの感じる「身近な地域」の範囲に近いものを選んでください。【〇は1つだけ】

- | | | |
|------------|-------------------------------|--------|
| 1. となり近所 | 5. 中学校区 | 9. その他 |
| 2. 自治会の班・組 | 6. 地区社会福祉協議会 [※] の区域 | () |
| 3. 自治会・町内会 | 7. 区（例：西区……、岩槻区） | |
| 4. 小学校区 | 8. 市全体 | |

※「地区社会福祉協議会」は、自治会・町内会が中心となり、地域の特色を活かした事業を展開する、福祉コミュニティづくりのための民間組織です。長津田区は、「調査ご協力お願い」の表裏に記載した「地区社会福祉協議会の地域一覧表」をご覧ください。

問2 あなたは、近所の人との程度の付き合いをしていますか。【〇は1つだけ】

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 非常に親しく付き合っている | 3. あいさつする程度の付き合い |
| 2. 親しく付き合っている | 4. 付き合いは、ほとんどない |

問3 あなたは、自治会・町内会活動などの活動にどの程度参加していますか。【〇は1つだけ】

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. よく参加している | } (第4は飛ばして、問4にお進みください) |
| 2. ある程度参加している | |
| 3. あまり参加していない | |
| 4. ほとんど、あるいはまったく参加していない | |

問4 問3で「3」または「4」に○をつけた方にお伺いします。自治会・町内会活動などの活動に参加していない主な理由は何ですか。【〇は2つまで】

1. 参加したいが、何を、いつ、どこでやっているかわからないから
2. 参加したいが、病気や障害など身体的な理由で、参加しづらから
3. 参加したいが、その場所に行く方法や交通手段がないから
4. 参加したいが、一人で参加するのは心細いから
5. 役員などになっていないから
6. 仕事や家事・介護・育児など、他にやる事があって忙しいから
7. 行事や活動の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから
8. 自分の趣味や余暇活動を優先したいから
9. 地域の付き合いがわずらわしいから
10. その他 ()

◆地域福祉に対する考えについてお伺いします◆

問5 あなたは、お住まいの地域に愛着をお持ちですか。【〇は1つだけ】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 4. まったく愛着がない |
| 2. ある程度愛着がある | 5. わからない |
| 3. あまり愛着がない | |

問6 近所に住んでいる、何らかの支援を必要としている方（一人暮らしの高齢者、介護をしている家族、子育て中の家族等）への支援（日常生活の手助け・お手伝い）について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。【〇は1つだけ】

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1. 近所に住む者として、積極的に支援したい | |
| 2. 近所に住む者として、できる範囲で支援したい | |
| 3. 支援をしたいが、何をすればいいかわからない | |
| 4. 支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない | |
| 5. 支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい | |
| 6. 余計なお世話になってしまうので、支援はしない | |
| 7. その他（ ） | |
| 8. わからない | |

問7 隣近所に、介護や、子育て等で困っている方がいた場合、あなたはどのような手助けができますか。【〇はあてはまるものすべて】

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 見守りや安否確認の声かけ | 7. 短時間の子どもの預かり |
| 2. お年寄りの話し相手 | 8. 災害時の手助け |
| 3. 買い物の手伝い | 9. 悩み事の相談相手 |
| 4. 家事、育児の手伝い等 | 10. その他（ ） |
| 5. お弁当の配達 | 11. 特になし |
| 6. 通院などの外出の手伝い | |

問11 どのような条件が整えばボランティア活動に参加してみたいと思いますか。【〇は2つまで】

- | | |
|--|--|
| 1. 自分にあった時間や内容の活動があれば参加してみたい | |
| 2. 自分の仕事や特技を生かせることがあれば参加してみたい | |
| 3. 活動資金の補助、援助の充実がなされるのであれば参加してみたい | |
| 4. (平日夜間や休日の) ボランティア講座を受けてから参加してみたい | |
| 5. 友人や家族と一緒に活動できるのであれば参加してみたい | |
| 6. 家族や職場の理解が得られれば参加してみたい | |
| 7. 自分の所属する学校や職場の活動であれば参加してみたい | |
| 8. ボランティアグループに入れるのであれば参加してみたい | |
| 9. 身近な団体や活動内容に関する情報があれば参加してみたい | |
| 10. 活動の参加によるメリット(進学や就職に有利、若干でも報酬がある等)があれば参加してみたい | |
| 11. その他（ ） | |
| 12. どんな条件が整っても興味もなく、参加してみたいとは思わない | |

◆ボランティア活動についてお伺いします◆

問8 あなたは、これまでどのようなボランティア活動に参加したことがありますか。【〇はあてはまるものすべて】

- | |
|---|
| 1. 高齢者に関する活動(高齢者の見守り活動・趣味のクラブ活動等への協力・老人施設等訪問) |
| 2. 障害のある人に関する活動(手話や盲字・点字等による支援や外出支援、施設訪問) |
| 3. 子育てに関する活動(託児・子育て相談や子育てサークル支援) |
| 4. 保健に関する活動(健康教室等の支援、献血ボランティアとしての活動) |
| 5. 青少年に関する活動(悩み相談や交流、子ども会活動などの支援) |
| 6. 環境美化に関する活動(自然愛護や美化活動、リサイクル運動) |
| 7. 福祉のまちづくりに関する活動(車椅子による点検活動、福祉マップづくり) |
| 8. 差別の反対などすべての人々の人権が尊重されるまちづくりを進める活動 |
| 9. 国際交流に関する活動 |
| 10. 災害時の救援などに関する活動 |
| 11. 地域の行事のお手伝い |
| 12. 有償のボランティア活動(高齢者や障害のある人への生活支援や子育て支援等) |
| 13. その他() |
| 14. 特に参加したことはない |

問9 あなたは、現在、ボランティア活動に参加していますか。【〇は1つだけ】

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. 参加している | |
| 2. 参加していないが、参加したい | |
| 3. 参加したいと思わない | → (問10は飛ばして、問11にお進みください) |

問10 問9で「1」または「2」に○をつけた方にお伺いします。あなたは、今後、どのようなボランティア活動に参加したいですか。【〇はあてはまるものすべて】

- | |
|---|
| 1. 高齢者に関する活動(高齢者の見守り活動・趣味のクラブ活動等への協力・老人施設等訪問) |
| 2. 障害のある人に関する活動(手話や盲字・点字等による支援や外出支援、施設訪問) |
| 3. 子育てに関する活動(託児・子育て相談や子育てサークル支援) |
| 4. 保健に関する活動(健康教室等の支援、献血ボランティアとしての活動) |
| 5. 青少年に関する活動(悩み相談や交流、子ども会活動などの支援) |
| 6. 環境美化に関する活動(自然愛護や美化活動、リサイクル運動) |
| 7. 福祉のまちづくりに関する活動(車椅子による点検活動、福祉マップづくり) |
| 8. 差別の反対などすべての人々の人権が尊重されるまちづくりを進める活動 |
| 9. 国際交流に関する活動 |
| 10. 災害時の救援などに関する活動 |
| 11. 地域の行事のお手伝い |
| 12. 有償のボランティア活動(高齢者や障害のある人への生活支援や子育て支援等) |
| 13. その他() |

◆相談支援・福祉サービスに対する意識についてお伺いします◆

問12 あなたは、日々の生活において、主にどのような悩みや不安を感じていますか。【〇は2つまで】

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 自分や家族の健康のこと | 8. 住宅のこと |
| 2. 自分や家族の老後のこと | 9. 地域の治安のこと |
| 3. 生きがいに関すること | 10. 災害時の備えに関すること |
| 4. 子育てに関すること | 11. 人権問題に関すること |
| 5. 介護に関すること | 12. その他() |
| 6. 経済的な問題 | 13. 悩みや不安はない |
| 7. 隣近所との関係 | |

問13 あなたは、家族や友人で解決できない悩みや不安について、誰に、もしくはどこに相談できますか。【〇はあてはまるものすべて】

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1. 近所の人 | 11. (公的な) 福祉サービスの事業所やその職員 |
| 2. 学校の先生 | 12. 医療機関(医師・看護師等)や薬局 |
| 3. 職場の上司や同僚 | 13. NPOやその他の民間団体 |
| 4. 市の相談窓口や職員 | 14. ボランティア |
| 5. 民生委員・児童委員 | 15. その他() |
| 6. 人権擁護委員 | 16. どこに相談してよいかわからない |
| 7. 自治会などの役員 | 17. 相談できる人や場所がない |
| 8. 社会福祉協議会の窓口や職員 | |
| 9. 保健所の窓口や職員 | |
| 10. 地域包括支援センター・介護支援専門員(ケアマネジャー) | |

問14 さいたま市では、区役所の相談窓口や社会福祉協議会、地域の民生委員・児童委員、地域包括支援センター等において福祉相談に対応しています。あなたは、現在の相談支援体制は十分だと思いますか。【〇は1つだけ】

- | | |
|------------|--------------------------|
| 1. 十分だと思う | → (問15は飛ばして、問16にお進みください) |
| 2. 足りないと思う | |
| 3. わからない | → (問15は飛ばして、問16にお進みください) |

問15 問14で「2」に○をつけた方にお伺いします。どのようなことが足りないと思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 気軽に相談できる場所がない | 4. 専門的に相談できる場所がない |
| 2. 近くに相談できる場所がない | 5. どこに相談したらよいかわからない |
| 3. 総合的に相談できる場所がない | 6. その他() |

問16 多くの福祉サービスは、利用者が自由にサービスを選んで利用できるようになりました。利用者が自分に最適なサービスを安心して利用するためには、市では今後どのようなことに取り組む必要があると思いますか。【〇は2つまで】

1. 福祉サービスに関する情報（例：サービスの利用料金等）の提供を充実させる
2. 適切な相談対応やサービス選択の支援ができる体制を整える
3. サービスに関する苦情や事業者とのトラブル解決の支援体制を整える
4. サービスの内容を評価する仕組みを整える
5. 行政やサービス事業者の情報公開を進める
6. 市民が福祉にかかわる法律や制度を学習できる機会を増やす
7. サービス利用者の権利を保護する仕組みを作る
8. その他（ ）
9. わからない

問17 福祉サービスに関する情報はどこから入手していますか。
【〇はあてはまるものすべて】

1. 家族・親戚
2. 友人・知人
3. 近所の人
4. 民生委員・児童委員
5. 学校や職場
6. 市の広報紙やパンフレット
7. 市のホームページ
8. 市役所や区役所の窓口（保健センターなども含む）
9. 社会福祉協議会の窓口や広報・パンフレット・ホームページ
10. 地域包括支援センター・介護支援専門員（ケアマネジャー）
11. 〈公的な〉福祉サービスの事業所またはその職員
12. 保健所
13. 医療機関（医師・看護師等）や薬局
14. NPO やその他の民間団体
15. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等
16. 市の公式 SNS（Twitter・Facebook・LINE・Instagram・マチマチ）
17. その他（ ）
18. 特になし

◆社会福祉協議会についてお伺いします◆

問18 地域福祉を推進し、社会福祉への住民参加を促し番援の高揚を図るための諸活動を行う「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織をご存知ですか。【〇は1つだけ】

1. 名前も活動の内容もよく知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない
3. 名前も活動の内容もよく知らない

問19 あなたは、「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」に、特にどのようなことを期待しますか。【〇は3つまで】

1. 住民同士の助け合いの仕組みづくりとその充実
2. ボランティア活動やNPO活動など、市民活動への支援
3. 児童・生徒・地域住民を対象とした福祉教育の充実
4. 福祉課題の把握とサービスの企画・実施
5. 福祉に関する相談の受付と情報提供
6. 高齢者や障害者が福祉サービスを利用する場合の支援
7. 成年後見に関する相談や法人後見、市民後見人の養成などの成年後見に関する事業
8. 介護保険サービスなどの公的な福祉サービスの充実
9. 既存の制度ではカバーできない課題に対する福祉サービスの充実
10. 子どもや子育てに対する支援
11. 福祉に関する情報発信
12. 福祉に関する学習や講習、後援会などの開催
13. 福祉団体や福祉関係機関への支援
14. 福祉人材の養成・研修の実施
15. 災害時の福祉支援活動
16. その他（ ）
17. 特に期待することはない

問20 住民の主体的な福祉活動により各地域の特色を活かした事業を展開し、福祉コミュニティづくりのための基礎組織として、「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」とは別に、市内に52の「地区社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織をご存知ですか。【〇は1つだけ】

1. 名前も活動の内容もよく知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない
3. 名前も活動の内容もよく知らない →（問20は飛ばして、問21にお読みください）

問21 問20で「1」又は「2」に○をつけた方にお伺いします。あなたは、「地区社会福祉協議会」の活動に関わったことがありますか。【〇は1つだけ】

1. 関わったことがある
2. 関わったことはない

問22 あなたは、「地区社会福祉協議会」に、特にどのようなことを期待しますか。
【〇は3つまで】

1. 住民同士の助け合いの仕組みづくりとその充実
2. ボランティア活動やNPO活動など、市民活動への支援
3. 児童・生徒・地域住民を対象とした福祉教育の充実
4. 福祉課題の把握とサービスの企画・実施
5. 福祉に関する相談の受付と情報提供
6. 既存の制度ではカバーできない課題に対する福祉サービスの充実
7. 子どもや子育てに対する支援
8. 福祉に関する情報発信
9. 福祉に関する学習や講習、後援会などの開催
10. 福祉団体への支援や育成
11. その他（ ）
12. 特に期待することはない

◆生活困窮者自立支援制度についてお伺いします◆

問23 あなたは、「生活困窮者自立支援制度」（※）をご存知ですか。
【〇は1つだけ】

1. 制度名も、内容も知っている
2. 制度名は聞いたことはあるが、内容までは知らない
3. 制度名も、内容も知らない

※「生活困窮者自立支援制度」
経済的に困窮し、最低限の生活を維持することが出来なくなるおそれのある方に対して、様々な状況に応じた支援を行い、自立の促進を図るための制度

問24 あなたの現在の経済的な暮らし向きはいかがですか。【〇は1つだけ】

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 大変ゆとりがある | 4. やや苦しい |
| 2. ややゆとりがある | 5. 大変苦しい |
| 3. 普通 | |

問25 さいたま市では、生活困窮者自立支援機関として各区役所に「生活自立・仕事相談センター」を設置しています。あなたは、この相談窓口をご存知ですか。
【〇は1つだけ】

1. 名前も、内容も知っている
2. 名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない
3. 名前も、内容も知らない

◆ひきこもりについてお伺いします◆

問26 あなたやあなたのご家族にひきこもり状態(※)の方はおられますか。
【〇はあてはまるものすべて】

1. いる 10代まで → (問27へ) 4. いる 60代以上 → (問27へ)
2. いる 20代～30代 → (問27へ) 5. いない → (問28へ)
3. いる 40代～50代 → (問27へ)

※「ひきこもり状態」
仕事や学校に行かず、かつ家以外の人との交流や買い物以外の外出がほとんどない状態が3ヶ月以上続いている方のことです。(重度の障害や重度の疾病で外出できない方を除く。)

問27 問26で「1」から「4」に〇をつけた方にお伺いします。問26で選択された方に対して、どのような支援を期待しますか。

【問26で選択された年代に対する支援について、〇はあてはまるものすべて】

	当事者・家族の相談先	相談窓口・家族会等の情報提供	当事者の居場所づくり	就労支援	その他
①10代まで	1	2	3	4	5
②20代～30代	1	2	3	4	5
③40代～50代	1	2	3	4	5
④60代以上	1	2	3	4	5

希望される具体的な支援をお書きください。

◆ケアラーについてお伺いします◆

問28 あなたは、「ケアラー」(※)という言葉を知っていますか。【〇は1つだけ】

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は知っていたが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない → (問29は飛ばして、問30にお読みください)

※「ケアラー」
高齢、身体上又は精神上の障害又は疾病等により援助を必要とする親族、友人その他の身近な人に対して、専ら介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する者をいう。(出典：埼玉県ケアラー支援条例)

問29 問28で「1」または「2」と答えた方にお伺いします。あなたは「ケアラー」という言葉をどこで知りましたか。【〇はあてはまるものすべて】

1. 友人・知人・同僚・家族から 5. SNS (Twitter・Facebook等)
2. 新聞・雑誌 6. 市の広報等
3. テレビ・ラジオ 7. 講演会等
4. インターネット (ホームページ・ブログ) 8. その他 ()

問30 あなたは、「ヤングケアラー」(※)という言葉を知っていますか。

【〇は1つだけ】

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は知っていたが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない → (問31は飛ばして、問32にお読みください)

※「ヤングケアラー」
ケアラーのうち、18歳未満の者をいう。(出典：埼玉県ヤングケアラー支援条例)

問31 問30で「1」または「2」と答えた方にお伺いします。あなたは「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。【〇はあてはまるものすべて】

1. 友人・知人・同僚・家族から 5. SNS (Twitter・Facebook等)
2. 新聞・雑誌 6. 市の広報等
3. テレビ・ラジオ 7. 講演会等
4. インターネット (ホームページ・ブログ) 8. その他 ()

◆成年後見制度についてお伺いします◆

問32 あなたは、成年後見制度(※)をご存知ですか。【〇は1つだけ】

1. 制度名も、内容も知っている
2. 制度名は聞いたことはあるが、内容までは知らない
3. 制度名も、内容も知らない

※「成年後見制度」
認知症、知的障害、精神障害、身体障害などによって判断する能力が十分でない方について、その方の権利を守るなどの趣旨で、「成年後見人」等を選ぶことで、その方を法的に支援する制度

問33 あなたやあなたのご家族が認知症などにより、物事を判断する能力が十分でなくなったときに、成年後見制度を利用したいと思いませんか。【〇は1つだけ】

1. 積極的に利用したいと思う
2. 利用したいと思うが、難しいと思う
3. 利用したくない
4. いまのところわからない } (問34は飛ばして、問35にお読みください)

問34 問33で「1」と答えた方にお伺いします。制度を利用したいと思う最も大きな要因はどれですか。【〇は1つだけ】

1. 預貯金、年金各種支払いなど日常的な金銭管理
2. 介護保険サービス、障害福祉サービスなどの契約や申込み
3. 不動産、有価証券などの資産の管理
4. その他 ()

問35 問33で「1」または「2」と答えた方は、成年後見制度を利用するに当たり不安や心配なこと、問33で「3」または「4」と答えた方は、利用したくないまたはわからないと思う理由は何ですか。【〇はあてはまるものすべて】

1. 制度についてよくわからない
2. 相談窓口がわからない
3. 支援者が制度について理解していない
4. 制度そのものに反対である
5. 利用開始手続きが複雑である
6. 申立費用や報酬等の負担がある
7. 後見人等に身上の保護(住居、医療、介護等に関する法律手続き)や金銭管理をゆだねることが不安
8. 他人に財産状況や生活状況を知られたくない
9. 親族からの支援が受けられるので、成年後見制度を利用する必要がない
10. 利用を始めるタイミングがわからない
11. 理由は知らないが、制度を利用するつもりはない
12. 後見人等を任せたいと思う人がいない
13. その他 ()

◆今後の地域福祉のあり方についてお伺いします◆

問36 今後、市が取り組むべき施策は、どれを優先して充実すべきだと思いますか。【〇は3つまで】

1. 福祉に関する情報提供や意識啓発
2. 学校や地域での福祉教育の充実
3. 地域福祉活動推進する人材の育成
4. NPOやボランティア活動の参加促進や支援
5. 住民同士が気軽に立ち寄れる交流の場・機会の提供
6. 住民がともに支えあう仕組みづくりへの支援(住民同士や行政との協力・連絡など、助けあう組織)
7. 身近なところでの相談窓口の充実
8. 高齢、障害など分野を問わず包括的な相談窓口の充実
9. 生活困窮者の自立支援
10. サービス利用者などを保護する権利擁護や苦情対応などの取り組み
11. 災害時の避難に支援の必要な人への対策
12. 福祉のまちづくりの普及、推進
13. その他 ()
14. わからない

問37 その他ご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

◆最後に、あなたご自身のことについてお伺いします◆

問38 あなたが思う性別はどちらですか。【〇は1つだけ】

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

問39 あなたの年齢はおいくつですか。(令和3年9月1日現在)

【〇は1つだけ】

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 18歳・19歳 | 6. 60～64歳 |
| 2. 20歳代 | 7. 65～69歳 |
| 3. 30歳代 | 8. 70～74歳 |
| 4. 40歳代 | 9. 75～79歳 |
| 5. 50歳代 | 10. 80歳以上 |

問40 現在、あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次のような方はいますか?【〇はあてはまるものすべて】

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 乳児(1歳未満) | 5. 65歳以上の方 |
| 2. 乳児を除く小学校入学前の幼児 | 6. 介護を必要とする方 |
| 3. 小学生 | 7. 身体・知的・精神などの障害のある方 |
| 4. 中学生・高校生 | 8. いずれもない |

問41 あなたは、現在どちらの「地区社会福祉協議会」(問1参照)の地域にお住まいですか。「調査ご協力のお願い」の裏面に記載している「52 地区社会福祉協議会の該当地域一覧表」をご覧になって、該当する地区社会福祉協議会の番号を下の□のなかにご記入ください。

お住まいの地域の地区社会福祉協議会の番号→

(例えば、お住まいの地域が西郷1丁目ですと、「地区社会福祉協議会名」の番号は、[26]です。)

問42 現在のお住まいは、以下のどれに当てはまりますか。【〇は1つだけ】

- | |
|-------------------------|
| 1. 持ち家一戸建て住宅 |
| 2. 持ち家集合住宅 |
| 3. 市営・県営などの公営賃貸住宅 |
| 4. 民間の借家・賃貸アパート・賃貸マンション |
| 5. 社宅、官舎、寮 |
| 6. その他 () |

問43 現在お住まいの住所に、何年住んでいますか。【〇は1つだけ】

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 4. 10～20年未満 | 7. 40～50年未満 |
| 2. 1～5年未満 | 5. 20～30年未満 | 8. 50年以上 |
| 3. 5～10年未満 | 6. 30～40年未満 | |

以上で質問は終わりです。お忙しいところ、たくさんの質問に答えていただきまして、本当にありがとうございました。
この回答用紙を返信用封筒に入れ、切手を貼らずに10月25日(月)までに、郵便ポストにご投函ください。

「さいたま市の地域福祉に関する意識調査」のご協力をお願い
(団体名)

【調査ご協力をお願い】

- 貴団体の皆さまには、日ごろから福祉行政にご理解とご協力をいただき、心から深く感謝申し上げます。
- 現在、本市では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる仕組みの構築の一環を図るため、「さいたま市第3期保健福祉総合計画（地域福祉計画）」の見直しを進めています。
- この計画は、地域での支えあいや助けあいといった、地域全体の福祉ネットワークの構築に向けて、地域住民、福祉団体、福祉施設関係者などが、それぞれの役割の中で、お互いが力をあわせる関係をつくり、地域で支える仕組みづくりを目指すものです。
- 計画策定にあたり、地域で活動されている皆さまに、地域での活動を通じて、日ごろ感じている地域福祉に関する課題や他団体等との連携の状況等をお伺いし、推進に向けた方策を検討していきます。
- 大変お忙しい中、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

【ご記入にあたっての注意事項】

1. 原則として、代表者または責任者の方がお答えください。
2. 回答は、あてはまる答えの番号を○で囲むか、回答欄に回答を記入してください。「その他」を選んだ場合は、その具体的な内容を（ ）のなかに記入してください。
3. 選択する答えの数は「1つだけ」「あてはまるものすべて」「2つまで」などの指示に当たってください。
4. ご記入後は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、10月25日（月）までに、郵便ポストにご投函ください。

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

さいたま市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課
電話：048-829-1254 FAX：048-829-1961

番号	施設名称	所在地	区
1	協賛	協賛	協
2	協賛	協賛	協
3	協賛	協賛	協
4	協賛	協賛	協
5	協賛	協賛	協
6	協賛	協賛	協
7	協賛	協賛	協
8	協賛	協賛	協
9	協賛	協賛	協
10	協賛	協賛	協
11	協賛	協賛	協
12	協賛	協賛	協
13	協賛	協賛	協
14	協賛	協賛	協
15	協賛	協賛	協
16	協賛	協賛	協
17	協賛	協賛	協
18	協賛	協賛	協
19	協賛	協賛	協
20	協賛	協賛	協
21	協賛	協賛	協
22	協賛	協賛	協
23	協賛	協賛	協
24	協賛	協賛	協
25	協賛	協賛	協
26	協賛	協賛	協
27	協賛	協賛	協
28	協賛	協賛	協
29	協賛	協賛	協
30	協賛	協賛	協
31	協賛	協賛	協
32	協賛	協賛	協
33	協賛	協賛	協
34	協賛	協賛	協
35	協賛	協賛	協
36	協賛	協賛	協
37	協賛	協賛	協
38	協賛	協賛	協
39	協賛	協賛	協
40	協賛	協賛	協
41	協賛	協賛	協
42	協賛	協賛	協
43	協賛	協賛	協
44	協賛	協賛	協
45	協賛	協賛	協
46	協賛	協賛	協
47	協賛	協賛	協
48	協賛	協賛	協
49	協賛	協賛	協
50	協賛	協賛	協
51	協賛	協賛	協
52	協賛	協賛	協

1. 「身近な地域」についてお伺いします。

問1 貴団体にとって「身近な地域」とは、どのような範囲のことだと思いますか。あなたの感じる「身近な地域」の範囲に近いものを選んでください。【○は1つだけ】

- | | | |
|------------|------------------|--------|
| 1. となり近所 | 5. 中学校区 | 9. その他 |
| 2. 自治会の班・組 | 6. 地区社会福祉協議会®の区域 | () |
| 3. 自治会・町内会 | 7. 区(例：西区……、岩槻区) | |
| 4. 小学校区 | 8. 市全体 | |

※「地区社会福祉協議会®」とは、従来の主体的な福祉活動により各地域の特色を活かした事業を展開する。福祉コミュニティづくりのための基盤組織です。具体的な区域は、「調査ご協力お願い」の表面に記載した「地区社会福祉協議会®の地域一覧表」をご確認ください。

2. 日ごろの活動・業務についてお伺いします。

問2 貴団体は、どのような活動・業務を行っていますか。【○はあてはまるものすべて】

1. 高齢者を対象とした福祉活動
2. 障害のある方を対象とした福祉活動
3. 子育て支援
4. 青少年育成・支援
5. 地域の清掃・美化
6. 防犯・地域の安全活動
7. 防災活動
8. さまざまな人々が交流できる場所づくり
9. 自助グループ、相互援助グループ
10. 地域の医療
11. 事業者の経営改善支援と地域振興
12. その他()

問3 日ごろの活動・業務を行っているメンバー・職員は何人ですか。【○は1つだけ】

※令和3年9月1日現在の人数でお答えください。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 10人未満 | 4. 50~99人 |
| 2. 10~29人 | 5. 100~299人 |
| 3. 30~49人 | 6. 300人以上 |

問4 日ごろ活動・業務を行っているメンバー・職員の年齢層は何歳代が中心ですか。
「最も多い年代」と「次に多い年代」を次から選び、下の回答欄に数字を記入してください。【選択肢の番号を記入してください】

《選択肢》		
1. 10歳代	4. 40歳代	7. 70歳代
2. 20歳代	5. 50歳代	8. 80歳代以上
3. 30歳代	6. 60歳代	

①最も多い年代 ②次に多い年代

問5 貴団体は、活動・業務を始めてからどれくらいになりますか。通算の年数でお答えください。【〇は1つだけ】

1. 1年未満	5. 10年以上20年未満
2. 1年以上3年未満	6. 20年以上30年未満
3. 3年以上5年未満	7. 30年以上
4. 5年以上10年未満	8. わからない

問6 貴団体が、活動・業務を行う上で困っていることは、次のどれですか。
【〇はあてはまるものすべて】

1. 一緒に活動するメンバー・職員が少ない、不足している	
2. メンバー・職員が高齢化している	
3. 後継者が育たない	
4. 活動・業務のための場所の確保が難しい	
5. 活動・業務のための資金の確保が難しい	
6. 行政との連携が取りにくい	
7. 同じ分野・活動（業務）内容の個人・団体とのネットワークがない	
8. 異なる分野・活動（業務）内容の個人・団体とのネットワークがない	
9. 地域の情報が得にくい	
10. 専門知識が不足している	
11. 活動・業務内容の情報発信が十分できていない	
12. その他（ ）	
13. 特になし	

問7 地域活動・業務を行う上で、行政にどのような支援を求めますか。【〇は3つまで】

1. 活動・業務の担い手となる人材の育成	7. 地域情報の提供
2. 活動・業務の場所の確保に関する支援	8. 情報発信に関する支援
3. 活動費・事業費などの経済的な支援	9. 活動・業務について相談できる機会の充実
4. 団体や組織間の連携支援	10. 住民への地域福祉に関する意識の啓発
5. 先進的な活動・業務事例の紹介	11. その他（ ）
6. 専門性を持った人材や団体の紹介	12. 特になし

問8 貴団体は、日ごろ交流や連携を図っている他団体（行政を除く）がありますか。
【〇は1つだけ】

1. 定期的に交流や連携を図っている他団体がある	
2. 定期的ではないが、交流や連携を図っている他団体がある	
3. 交流や連携を図っている他団体はない →（問9は飛ばして、問10にお読みください）	

問9 問8で「1」又は「2」に〇をつけた団体にお伺いします。日ごろ交流や連携を図っている他団体はどのような団体ですか。【〇はあてはまるものすべて】

1. 自治会	10. 地域包括支援センター
2. 民生委員・児童委員	11. 在宅介護支援センター
3. 老人クラブ	12. 子育て支援関係機関・団体
4. 子ども会	13. ボランティア団体
5. 学校・PTA	14. NPO法人
6. 市社会福祉協議会	15. 社会福祉法人
7. 地区社会福祉協議会	16. 企業・商店
8. 医療機関	17. その他（ ）
9. 障害者生活支援センター	

問10 問8で「3」に〇をつけた団体にお伺いします。今後、他団体（行政を除く）との交流や連携を図ってみたいですか。【〇は1つだけ】

1. 交流や連携を図ってきたい	
2. 今後も交流や連携を図るつもりはない	
3. その他（ ）	

問11 貴団体は、日ごろの活動業務において必要な情報をどこから得ていますか。
【〇はあてはまるものすべて】

1. 隣近所	7. 障害者生活支援センター
2. 市役所や区役所の窓口	8. 医療機関
3. 市の広報紙、ホームページ	9. 民生委員・児童委員
4. 社会福祉協議会の窓口、広報紙、ホームページ	10. 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ
5. 地域包括支援センター、ケアマネジャーやホームヘルパー	11. インターネット
6. 在宅介護支援センター	12. その他（ ）
	13. 特になし

問12 貴団体は、市の子ども、高齢者、障害のある方などの福祉に関する情報を入手できていますか。【〇は1つだけ】

1. 入手できている	3. ほとんど入手できていない
2. ほぼ入手できている	

問13 市からの情報の入手について、どのように感じていますか。
【〇はあてはまるものすべて】

1. 情報量が少ない	
2. 情報伝達が遅い	
3. 情報の内容がわかりにくい	
4. 視覚障害のある方への音声コードなど、適切な媒体を通しての情報提供が少ない	
5. どこで情報を入手すればよいかわからない	
6. その他（ ）	
7. 特に問題は感じていない	

問14 さいたま市では、区役所の相談窓口や社会福祉協議会、地域の民生委員・児童委員、地域包括支援センター等において福祉相談に対応しています。貴団体では、現在の相談支援体制は十分だと思えますか。【〇は1つだけ】

1. 十分だと思う →（問16へ）	3. わからない →（問16へ）
2. 足りないと思う	

問15 問14で「2」に〇をつけた方にお伺いします。どのようなことが足りないと思えますか。【〇はあてはまるものすべて】

1. 気軽に相談できる場所がない	4. 専門的に相談できる場所がない
2. 近くに相談できる場所がない	5. どこに相談したらよいかわからない
3. 総合的に相談できる場所がない	6. その他（ ）

3. 社会福祉協議会についてお伺いします。

※貴団体が地区社会福祉協議会の場合は、問16から問19までの回答は不要です。
問16から問19までは飛ばして、問20にお読みください。

問16 地域福祉を推進し、社会福祉への住民参加を促し意識の高揚を図るための諸活動を行う「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」があります。貴団体はこの組織をご存知ですか。【〇は1つだけ】

1. 名前も活動の内容もよく知っている	
2. 名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない	
3. 名前も活動の内容もよく知らない	

問17 貴団体は、「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」に、特にどのようなことを期待しますか。【〇は3つまで】

1. 住民同士の助け合いの仕組みづくりとその充実	
2. ボランティア活動やNPO活動など、市民活動への支援	
3. 児童・生徒・地域住民を対象とした福祉教育の充実	
4. 福祉課題の把握とサービスの企画・実施	
5. 福祉に関する相談の受付と情報提供	
6. 高齢者や障害者が福祉サービスを利用する場合の支援	
7. 成年後見に関する相談や法人後見、市民後見人の養成などの成年後見に関する事業	
8. 介護保険サービスなどの公的な福祉サービスの充実	
9. 既存の制度ではカバーできない課題に対する福祉サービスの充実	
10. 子ども子育てに対する支援	
11. 福祉に関する情報発信	
12. 福祉に関する学習や講習、後援会などの開催	
13. 福祉団体や福祉関係機関への支援	
14. 福祉人材の養成・研修の実施	
15. 災害時の福祉支援活動	
16. その他（ ）	
17. 特に期待することはない	

問18 住民の主体的な福祉活動により各地域の特色を活かした事業を展開し、福祉コミュニティづくりのための基盤組織として、「社会福祉法人 さいたま市社会福祉協議会」とは別に、市内に52の「地区社会福祉協議会」があります。貴団体はこの組織をご存知ですか。【〇は1つだけ】

1. 名前も活動の内容もよく知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない
3. 名前も活動の内容もよく知らない

問19 貴団体は、「地区社会福祉協議会」に、特にどのようなことを期待しますか。【〇は3つまで】

1. 住民同士の助け合いの仕組みづくりとその充実
2. ボランティア活動やNPO活動など、市民活動への支援
3. 児童・生徒・地域住民を対象とした福祉教育の充実
4. 福祉課題の把握とサービスの企画・実施
5. 福祉に関する相談の受付と情報提供
6. 既存の制度ではカバーできない課題に対する福祉サービスの充実
7. 子どもや子育てに対する支援
8. 福祉に関する情報発信
9. 福祉に関する学習や講習、後援会などの開催
10. 福祉団体への支援や育成
11. その他（ ）
12. 特に期待することは無い

4. 地域の生活課題についてお伺いします。

問20 日ごろの活動・業務を通じて感じている地域の課題には、どのようなことがありますか。【〇はあてはまるものすべて】

1. 地域の人たちのつきあい方
2. 地域文化の伝承
3. 異なる世代との交流
4. 障害のある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり
5. 道路や住宅の整備
6. 雇用・労働環境
7. ゴミ屋敷・空き家
8. 在宅高齢者の介護、見守りや生活支援
9. 少子化・高齢化
10. 高齢者の社会参加や生きがいづくり
11. 子どもの遊び場づくり
12. 子どものしつけや教育、子育てに関する支援
13. 母子家庭や父子家庭の支援
14. 障害者の生活支援
15. 子どもや高齢者への虐待、配偶者への暴力（ドメスティック・バイオレンス）
16. 医療について
17. 地域活動を行う人材不足
18. その他（ ）

問21 大地震などの災害に備えて、地域でどのような備えが必要だと思いますか。（防災用品の備えを除く。）【〇は3つまで】

1. 隣近所での避難場所や避難方法を話し合っておく
2. 隣近所での住民同士の日頃のつながりと助け合い
3. 高齢者や障害者などの支援を必要とする人々への支援体制の整備
4. 災害時に役立つ専門技術や知識をもつ人材の育成
5. 防災教育・訓練の実施
6. 心肺蘇生法、応急手当などの救命講習会の開催
7. 地域の行事などでの防災意識の啓発
8. その他（ ）
9. 特に備えは必要ない

5. ケアラーについてお伺いします

問22 あなたは「ケアラー」(※)という言葉を知っていますか。【〇は1つだけ】

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は知っていたが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない → (問23は飛ばして、問24にお進みください)

※「ケアラー」
高齢、身体又は精神上の障害又は疾病等により扶助を必要とする親族、友人その他の身近な人に対して、継続して介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する者という。(出典：埼玉県ケアラー支援条例)

問23 問22で「1」または「2」と答えた方に伺います。あなたは「ケアラー」という言葉をどこで知りましたか。【〇はあてはまるものすべて】

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 友人・知人・同僚・家族から | 5. SNS (Twitter・Facebook等) |
| 2. 新聞・雑誌 | 6. 市の広報等 |
| 3. テレビ・ラジオ | 7. 講演会等 |
| 4. インターネット(ホームページ・ブログ) | 8. その他() |

問24 あなたは「ヤングケアラー」(※)という言葉を知っていますか。【〇は1つだけ】

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は知っていたが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない → (問25は飛ばして、問26にお進みください)

※「ヤングケアラー」
ケアラーのうち、十八歳未満の者をいう。(出典：埼玉県ヤングケアラー支援条例)

問25 問24で「1」または「2」と答えた方に伺います。あなたは「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。【〇は1つだけ】

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 友人・知人・同僚・家族から | 5. SNS (Twitter・Facebook等) |
| 2. 新聞・雑誌 | 6. 市の広報等 |
| 3. テレビ・ラジオ | 7. 講演会等 |
| 4. インターネット(ホームページ・ブログ) | 8. その他() |

問26 貴団体での活動の中で、身近にケアラーと思われる人はいますか。【〇は1つだけ】

1. いる
3. わからない
2. いない

問27 貴団体での活動の中で、身近にヤングケアラーと思われる人はいますか。【〇は1つだけ】

1. いる
3. わからない
2. いない

問28 あなたは、身近で困っているケアラー又はヤングケアラーの方がいた場合、どこに相談したらよいか知っていますか。【〇は1つだけ】

1. 知っている
2. 知らない

6. 今後の地域福祉についてお伺いします。

問29 地域課題に取り組むための地域の担い手を増やすには、どのようにしたらよいとお考えですか。【〇はあてはまるものすべて】

1. 小・中学生、高校生が、地域福祉について関心を深めるための福祉教育の推進
2. 住民が、地域福祉について関心を深めるための学習の推進
3. ボランティア、市民活動団体(NPO法人など)の育成・支援(情報の提供など)
4. 住民が関心を持ち、身近に感じてもらえるようにするための、ボランティア・市民活動団体(NPO法人など)などの紹介や、行事などの開催
5. 豊富な経験と知識、技能を持つ高齢者のマンパワーの活用
6. 地域における高校・大学との連携
7. 商店、企業などの、地域の担い手としての取組の紹介
8. その他
9. わからない

問30 福祉教育（思いやりの心や福祉への理解と参加の心を育てる教育）について、主にどのように行うべきだと思いますか。【〇は1つだけ】

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. 学校教育・社会教育の中で学ぶ | 5. 特に必要はない |
| 2. 家庭の中で学ぶ | 6. その他 |
| 3. 地域の活動などを通じて学ぶ | () |
| 4. 生活していく中で自然に身につく | 7. わからない |

問31 今後、市が取り組むべき施策は、どれを優先して充実すべきだと思いますか。【〇は3つまで】

- | |
|--|
| 1. 福祉に関する情報提供や意識啓発 |
| 2. 学校や地域での福祉教育の充実 |
| 3. 地域福祉活動を推進する人材の育成 |
| 4. NPOやボランティア活動の参加促進や支援 |
| 5. 住民同士が気軽に立ち寄れる交流の場・機会の提供 |
| 6. 住民がともに支えあう仕組みづくりへの支援（住民同士や行政との協力・連絡など、助けあう組織） |
| 7. 身近なところでの相談窓口の充実 |
| 8. 高齢、障害など分野を問わない包括的な相談窓口の充実 |
| 9. 生活困窮者の自立支援 |
| 10. サービス利用者などを保護する権利擁護や苦情対応などの取り組み |
| 11. 災害時の避難に支援の必要な人への対策 |
| 12. 福祉のまちづくりの普及、推進 |
| 13. その他 () |
| 14. わからない |

問32 住民同士がともに支えあう地域づくりを進めるために、どのようなことを行う必要があると思いますか。【〇は2つまで】

- | |
|---|
| 1. 地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと |
| 2. 同じ立場にある人同士が力をあわせること |
| 3. 支えあう地域づくりに関する情報の提供や意識啓発をすること |
| 4. 地域の自治会・町内会・区等の活動や地区社会福祉協議会、ボランティア活動への参加をうながすこと |
| 5. 地域で活動するさまざまな団体相互の交流を進めること |
| 6. その他 () |
| 7. わからない |

◆ともに支えあい、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりについて、ご意見等ございましたらご自由にお書きください。

以上で質問は終わりです。お忙しいところ、たくさんの質問に答えていただきまして、本当にありがとうございました。
この返信用紙を返信用封筒に入れ、切手を貼らずに1.0月25日(月)までに、郵便ポストにご投入ください。

さいたま市地域福祉に関する意識調査 調査結果報告書

令和4年3月

さいたま市 保健福祉局 福祉部 福祉総務課
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
電話 048-829-1254 (直通) FAX 048-829-1961

この冊子は、50部作成し、1部当たりの印刷経費は450円です。